

安息日
学校への
勧告

エレン・G・ホワイト 著

Counsels on
Sabbath School Work

安息日学校への勧告

Counsels on Sabbath School Work

エレン・G・ホワイト 著

COUNSELS ON
SABBATH SCHOOL WORK

by

ELLEN G. WHITE

Copyright ©1938 by
The Ellen G. White® Estate

序文

セブンスデー・アドベンチストの活動は絶えず拡大していますが、その中であつて、神がご自身の使者を通して重要な各部門の働き人に、それぞれ指示と励ましと勧告をお与えになつてゐることはまことに興味深いことです。安息日学校の働きもその例にもれませぬ。安息日学校の働きに関するいろいろの勧めは、『教会へのあかし』の最初の数巻の中ばかりでなく、長年の間、『サバス・スクール・ワーカー（安息日学校への助け）』に掲載されたエレン・G・ホワイト夫人の有益な記事の中に与えられてきました。一九〇〇年にこれらの記事の多くが一冊の小さな本に編集され、『安息日学校へのあかし』としてよく知られるようになりました。全世界の安息日学校の働き人は、約四〇年の間、この重要な組織を今日のような強力なものにするために、この小さな本から貴重な助言を得てきました。

『安息日学校へのあかし』が出版されてから、ホワイト夫人の書いた記事の中に、この働きに関する勧めが追加されました。全世界の伝道地にある安息日学校の働きの必要は、この部門の活動に影響を及ぼしているその後の勧告を、最初の本の勧告と一緒にまとめるべき時期が到来したことを物語つています。『安息日学校への勧告』は、この努力から生み出された価値のある本です。

この増補版の内容は問題別にまとめられていて、研究と参考のために便利なように六つの部に分けられ、その各々の内容を示す目次がつけられています。安息日学校の役員や教師、教会役員や安

息日学校部の働き人の皆さんが安息日学校を一層強力なものとするために働かれるとき、本書は貴重な助けになると信じます。この本は教師養成クラスにとっても大切な教材の一つです。これを研究なさる一般教会員の方々にも、これによって多くの利益を得られることと信じます。

世界総会安息日学校部は、この本を編集されたエレン・G・ホワイト著書出版委員会の働きに心から感謝し、無条件に本書を承認し、たえず増大しつつある安息日学校役員、教師方に、改めてこれをお送りするものです。主のみたまによって示されている標準に到達するよう努力するにつれて、みなさまの働きはいつそう効果的なものとなることを信じます。

世界総会安息日学校部

目次

第一部	安息日学校の働きの重要性と目的	9
第二部	聖書研究のための学校	17
第三部	救霊の機関	55
第四部	教師とその働き	81
第五部	毎週伝道献金を集めること	117
第六部	運営上の指導原理	137

第一部 安息日学校の働き的重要性と目的

第一部 目次

大切な働き	9
驚くべき善の感化力	9
神の機関	10
最も効果的な救霊機関	10
はかり知れない感化	10
悔い改めさせる力.....	11
教会の力	11
広大で重大な分野.....	11
長い奉仕をする価値がある	12
豊かな報い	13

第一部 安息日学校の働きの重要性和目的

大切な働き

「安息日学校の働きは大切な働きです。真理に興味を持つているものはみな、安息日学校が盛んになるように努力しなければなりません。」
（『安息日学校へのあかし』英文、一〇九ページ）

驚くべき善の感化力

事實上、わたしたちの安息日学校は聖書研究会です。神のみことばの真理を教えるこの聖なる働きを通して、わたしたちはこれまで成し遂げたよりも、はるかに偉大な働きを成し遂げることができます。安息日学校が正しく運営される時に、それは驚くべき力をもち、大きな働きをなすことができます。けれども今日（注：この本は一八八九年に書かれた）、できることもなすべきこともしていない状態です。安息日学校の働きから生ずる感化によつて、教会は向上し発展しなければなりません。しかしどんな場合にも、教会のためにならないようなことがあつてはなりません。安息日学校は最も貴重な伝道地であつて、今日何かよいきざしが見えているとすれば、それはただ安息日学校がなすことのできる偉大な働きの徴候であり、始まりにすぎません。
（『安息日学校へのあかし』英文、二九ページ）

神の機関

わたしは全世界の安息日学校にたいへん興味をもっています。その理由は、安息日学校が青少年たちに聖書の真理を教える神の機関であると信じているからです。両親も教師とともに、青少年たちが永遠に重要な事物に興味をもつようにたえず努力しなければなりません。安息日学校は伝道地であつて、この重要な働きにこれまでよりいつそう、伝道精神が發揮されなければなりません。

(『安息日学校へのあかし』英文、三五ページ)

最も効果的な救霊機関

安息日学校は人をキリストに導くうえに最も効果的な、そして最も重要な機関の一つとならねばなりません。

(『安息日学校へのあかし』英文、二〇ページ)

はかり知れない感化

よく組織されて、正しく運営される安息日学校は、青少年の教育と道徳的、宗教的訓練のために非常に力があります。この部門の働きのために時間を費やし、注意を払わなければなりません。青少年の上 に及ぼす安息日学校の感化が、どんなに大切なものであるかははかり知ることができません。

(『安息日学校へのあかし』英文、一四、一五ページ)

悔い改めさせる力

安息日学校は伝道の働きの重要な一部門です。安息日学校は、幼い者にも老人にも神のみことばの知識を与えるばかりでなく、彼らの心のうちに尊い真理への愛と、その真理を自分自身のために研究したいという希望をめぐめさせます。ことに安息日学校は、そのきよい教えによって、自分の生活を規則正しいものにすることを教えます。

〔安息日学校へのあかし〕 英文、一〇九、一一〇ページ

教会の力

安息日学校の働きには、忠実に育てあげなければならない一つの大きな分野があります。それは、青少年たちが神の働きのために神から用いていただくように、神に対する全的な献身の念を彼らのうちに吹き込むことです。安息日学校には熱心で忠実な働き人がいて、神の靈の働いている人を見つけ出し、神の天使たちと協力して魂をキリストに導かねばなりません。安息日学校の働き人には尊い責任が負わされています。安息日学校は、神と生きた交わりによって、男も女も、青年も子どもも、教会にとって力となり祝福となるように育てられる所でなければなりません。彼らは力の限りをつくして教会を向上させ、ますます前進するように、助けなければなりません。

〔安息日学校へのあかし〕 英文、九二ページ

広大で重大な分野

安息日学校の校長および働き人たちには、開拓しなければならぬ非常に重大で広大な分野があります。彼らはその心に靈感を受けて、最善の方法を用い、その働きが成功をおさめる最善の計画をたてる

ことができるように、聖霊のバプテスマを受けなければなりません。主は彼らの努力に協力してください。なぜなら、青年たちは神のただひとりのみ子の血によってあがなわれた者であるからです。神は青年たちを愛して、「すべて彼を信じる者がひとりも滅びないで永遠の命を受ける」ためにイエスを死におわたしになりました。

教育の大きいなる働きがなされなければなりません。教師は、青少年が「世の罪を負う神の小羊を見ることができるよう、彼らのために、また彼らとともに、しばしば祈らなければなりません。また青少年たちに、神に対する責任を教え、イエスが彼らに期待しておいでのことを了解させなければなりません。できるかぎりの影響を青年たちの心与えて聖書に対する興味を起こさせるようにしなければなりません。青年たちが、自分に与えられたものを他人に分ち合うために全能力を用いる熱心な働き人となるように、彼らの魂のために働きなさい。

（『安息日学校へのあかし』英文、八三ページ）

長い奉仕をする価値がある

安息日学校は、真理の宝を探し求め、間違った場所からとり出し、福音という枠組みの中の正しい位置にそれを置きなおす所です。長い間見失われていた尊い真理の宝を、今日神の子らに返さなければなりません。安息日学校で、信仰による義、キリストの義を教えなければなりません。そうすれば青年や子どもたちがこのように大切なテーマを理解し、教師も生徒も救いの道を学ぶことができるようになります。救いの計画と関連した神聖な永遠の原則は、長い間かげをひそめていましたが、それを救いの計画の中の正しい位置に回復し、それが天来の光をあらわし、世界を覆っている道徳的暗黒を照らすことができるようにしなければなりません。

青年たちに「心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず」（箴言三章五節）という賢人のことばに心を留めさせましょう。そして彼らがたえず主に頼り、主の前に静かに祈りつつ、注意深く歩むと同時に、主は献身した才能をお用いになることができることを信じてあらゆる機会をとらえ、ある限りの力を尽くすように導きなさい。また、「これは主の道であるか否か」を一步一步自問させなさい。謙遜は真の賢人の特徴であつて、いかに学識、芸能に達しても、彼らは決して傲慢になることも不遜になることもありません。

主は安息日学校のために一生をささげ、熱心に働くように青年男女を召しておいでになります。一時的な努力では、決して多くのことをなし遂げることはできず、神のみ事業における成功ある働き人になることはできません。よいことを忍耐強くしつづけることによつて神の協力者になることができるのです。自分は今日一日神のしもべなのだと考えなさい。そして忠実に一日の働きをなし、自分の誤つた行為のために、足の弱い者に正しい道を踏みはずさせるような曲がつた道を歩まなかつたかどうかを省みなさい。

（『安息日学校へのあかし』英文、五二、五三ページ）

豊かな報い

安息日学校や禁酒禁煙運動のために働く人は、世の終わりの時にだけでなく、現在の生涯においても豊かな報いを受けます。他の人に光を与え、祝福しようと努力することによつて、自分自身の視野が明らかに広くなります。魂を愛して他人に真理を説明すればするほど、それが自分自身にはつきり体得されます。それは解説者の理解力に新しい力を加えます。

（『安息日学校へのあかし』英文、一〇八ページ）

第二部 聖書研究のための学校

第二部 目次

聖書の探求	17
聖句と聖句をくらべること	21
一般の人のために書かれた	22
小説のかわりに聖書を	23
探究心の必要	23
教師は学ぶ者でなければならない	28
光を増し加える約束	31
熟知している聖句の新しい意味	32
聖書の目標から遠ざかる	32
青年を異端から守る	33
試みに対するとりで	33
真理を探求するときの神の助け	34
中途半端な奉仕	34
祈りをもって研究すること	35
知識を与える神の方法	36
日ごとの聖書研究	38
教課を記憶すること	39
日ごとの霊の糧	39
家庭の協力	40
教育者としての両親	44
安息日学校における両親	47
教課研究の時間を見つける	50
両親は子どもたちを助けなければならない	50
学校よりも重要である	51
勤勉な研究は豊かに報いられる	51

第二部 聖書研究のための学校

聖書の探求

男も女も青年も、神のみことばの研究をおろそかにするならば、クリスチャンの完全に到達することはできません。わたしたちがみことばを注意深く綿密に研究するとき、「あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ」というキリストの教えに従うことになります。聖書は、キリストについて証しをするものですから、生徒はそれを研究することによって聖なる型を綿密に観察することができません。型をまねるには、それをしばしば、かつ綿密に観察しなければなりません。あがない主のご一生をよく研究するとき、人は自分の性格に欠点を発見します。自分があまりにもキリストに似ていないので、自分の生涯になにか大きな変化がこなければ、キリストに従う者となれないことがわかります。その偉大なる模範に似るものとなりたいと願いながら、なお研究を続けていく時に、愛する主のご様子やその精神をつかむようになり、「信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら」、すなわち、眺めることによって変化します。

心に語られた神のみことばは生きた力をもっています。みことばと親しむことを怠って何か口実をもうけようとする人は、他のいろいろの点でも神のご要求をおろそかにします。その品性は不完全なものとなり、そのことばや行為は真理を辱めるものとなります。使徒は「聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です」と言っています。また、

神の預言者は「思い続けるほどに火燃えぬれば」と叫びました。もしクリスチャンが熱心に聖書を学ぶならば、もつと多くの人の心が、聖書の中にあらわされている生き生きした真理で燃やされるはずで、彼らの望みは、聖書全体を通じて真珠のようにつながっている尊いみ約束によって輝くでしょう。神を愛し神をおそれ神とともに歩いた父祖や預言者たちの生涯について深く考えるとき、心は、これらの尊い人たちに生命を与えたみたまで燃やされます。いにしへの聖人の徳や信仰を熟慮するときに、彼らに感動を与えたみたまが、彼らのような性格になりたいと望む人の心に愛と清い炎を燃やします。

安息日学校の教課の学びを怠らないこと

安息日学校の生徒は科学の研究に秀でると同じように、聖書の知識にあかるくなるために、もつと熱心にならなければなりません。もし、どちらかがおろそかにされるとすれば、それは六日間の勉強、すなわち学校の勉強の方でなければなりません。男も女もすべてそのみ名を公言する者はみな、救い主のご命令を敬虔な気持ちで尊重しなければなりません。

安息日学校の教師は、聖書を教える、伝道地を持っています。特別に苦勞もしないで、研究したことを、オウムのように繰り返すのであつてはなりません。「聖書はわたし〔著者強調〕について証しをするものだ」。このわたしという方は、あがない主、すなわち、永遠の命へのわたしたちの望みの中心であるお方です。もし教師が、真理のみたまを受けていないで、神のみことばにあらわされている真理に無頓着であつたら、彼は、自分のあずかっている生徒たちにどうして真理を魅力あるものとして示すことができるでしょうか。

弟子たちのためにお祈りになったキリストの祈りは、「真理によって、彼らを聖なる者としてください。」

あなたの御言葉は真理です」でした。もし、わたしたちが、神のみことばのうちにある真理を知ることによって、清められたいと望むならば、その中にあらわされた神のみこころを明らかに知らなければなりません。聖書を開いて、ただ急いで一章一章通りすぎるだけで、それを理解することにつとめないで読んでではありません。それを深く研究して心を豊かにし、あざむくものはかりごとや試みから魂をかたく守る真理の宝を深く掘りさげ、探求しなければなりません。

怠慢に対するつまらない口実

両親は子どもの教課に興味をもっていないことに対して、つまらない口実をもうけて、聖書の知識を得ることも自分の頭を訓練することも怠ります。彼らはまず、神の国とその義を求めず、霊的な永遠のものよりも、一時的なものを高くかかげます。彼らが子どもたちに示す見本は、神を忘れ、そのみことばをおろそかにすることであって、彼らは、キリストがおたてになつた高い標準によらず、この世の標準にしたがつて子どもたちの心を形づくるのです。ある父親は、自分の楽しみのために時を過ごし、その間世的なことについて話し、その心や思いの中から神を閉め出してしまいます。キリストの忠実な弟子となつて聖書を深く研究し、すべてのよきわざをなすための備えをし、永遠の岸にわたしたちの歩みをみちびくために、神がお与えになつたみことばをはつきり説明することができたらどんなによいことでしょう。

母親は、子どもたちを教え、神のみことばを彼らに教える時間がないと言つて悲しみます。しかしその同じ母親が、外側を飾る時間を見つけます。洋服のタックやフリル、不必要な刺しゅうをする時間はあるのです。自分や子どもたちの衣服に必要な飾りをつけます。心の内側の飾りである魂の教養が、

まるで衣服の装飾などに劣っているかのようになおざりにされています。習慣や流行を追うために母親や子どもたちの心は飢えています。

家族そろって聖書研究

両親たちよ、長い間おたつていた責任を取り上げてくださるよう切にお願いします。自ら聖書を研究し、子どもたちの聖書の研究を手伝ってください。長い間なおざりにしたので、それから熱心に研究してください。子どもが聖書を研究するとき一人で放っておかないで、彼らと共に読み、単純な方法で子どもたちに自分の知っていることを教え、あなた自身も忠実な生徒としてキリストの学校の中にいるようにしてください。この働きは怠ってはならないと決心してください。母親たちよ、あなたも子どもたちも、不必要な飾りをつけず、清潔できちんとした質素な服をまっとうしてください。

良心的に単純な衣服を着ることを学んだ時、聖書をよく知らないことに対する口実がなくなります。聖書を調べよというキリストのご命令に従いなさい。そうすれば自分自身に霊的な力が加えられ、子どもたちが何も知らずに安息日学校へ行くことがないように彼らを教えることができます。

多くの青年は、教課を研究する時間がないといっています。しかし彼らはいったい何をしているのでしょうか。ある人は、わずかばかりの金銭を儲けるためにわずかな時間を惜しんで働きます。もし、この働きにつき込む時間に聖書を勉強し、その教えを実行すれば、余分に働いてもうけ出す金額よりもはるかに多額のものをつくわえることができます。そして必要のない飾りについてやされるお金を節約し、敬虔の奥義を理解する生き生きした心の力をたくわえることができます。「主を畏れることは知恵の初め」。クリスチャンであると公言している青年たちは、自分の本能に従って肉の心を満足させ、聖書の尊い真

理を知るために与えられている恵みの時を、全部小説を読むために使っています。

この習慣が一度ついてしまうとなかなかそれに打ち勝つことができませぬ。しかし不可能ではありません。天の世界の住民の候補者はみなこの習慣に打ち勝たねばなりません。小説を読むのに熱中した心はだめになってしまいます。想像は病的となり、心は感傷的になり、ぼんやりとした不安があり、不健康な心の糧を不思議に求めるようになります。このような心の糧は心の均衡を失わせます。今日小説を読んだために幾千という人が心の均衡を失っています。彼らは空中楼阁を築き、恋愛病にかかっています。聖書は本の中の本であつて、生命と健康を与え、神経を休ませ、心の安定と堅固な原則とを与えます。

より深く真理の宝石を掘るいつ

安息日学校の生徒は毎週の教課に含まれている尊い真理の宝を熱心に深く掘りさげ、注意深く探求しなければなりません。聖書に明るくなるために、今日与えられている特権と機会をなおざりにしてはなりません。神は、神に従うと公言する者が、みことばの教理の証拠を十分たくわえるように望んでおられます。若い時、安息日学校でそれを学ぶ以外に、いったい、いつ、どこで、それを学ぶことができるでしょう。両親は決してこの問題をかかるとりあつかつてはなりません。

(『レビュ・アンド・ヘラルド』一八七八年二月二八日)

聖句と聖句をくらべるいつ

「聖書をしらばなさい」とは主のご命令です。この義務を怠るために非常に大切なものを失っている人が多くあります。神のみことばを研究する時、天の使がわたしたちのそばにいます。そして聖書を明

るい光で照らしています。聖書は善と悪を選択する力をもつ人間に訴えます。そして警告を与え、譴責し、懇願し、力づけます。神のみことばの厳肅な真理を考えて心を動かさなければなりません。そうでないと、心はしだいに弱くなつてしまいます。わたしたちは出版物になつてゐる真理をもつています。しかし他の人の思想に頼つてゐるだけでは十分ではありません。わたしたちは自分で調べ、自分の信仰の理由を聖句と聖句を引照しながら研究しなければなりません。聖書を取り、ひざまずいて、心に光を与えてくださるように神に祈りなさい。もしわたしたちが毎日、忠実に、祈りをもつて聖書を研究するならば、何か美しい真理が新しく、はつきりした強い光に照らし出されるのを毎日見るはずです。

(『同上』一八八四年三月四日)

一般の人のために書かれた

神の子たちはだれでも、聖書に明るく、預言の成就をたどつて世界歴史におけるわたしたちの位置を示すことができるようであればなりません。聖書は学者のために書かれたと同じように一般の人のためにも書かれたもので、すべての人が理解することのできるものです。それには隣人に対する義務と、神に対する義務が土台となつてゐる真理がはつきりあらわされています。心から真理を求めている者は、まちがえる必要はありません。それは道の四つかどに立つて、どちらに行こうかと思案しなければならぬような不明瞭なものではありません。真理はわたしたちの案内者であり、わたしたちにとっては昼の雲の柱、夜の火の柱です。

聖書の教えに関する多くの対立した意見は、聖書そのものから出てきたものではなく、解釈者の無知と偏見から生じたものです。人は自分のまちがつた理論に従うために、聖書の明白なみことばを無視し

ます。自己の学識をほこって単純な真理を見過ごしにします。彼らは生ける泉を捨てて、過ちの有毒な流れから飲むのです。

〔同上〕一八八五年一月二七日

小説のかわりに聖書を

老人も青年も聖書をおろそかにしています。彼らは、聖書を自分の研究、または自分の生活の原則にしています。ことに青年たちがそうです。たいていの若い人は、他の本を読む時間はあつても永遠の道を指し示す本は毎日研究しません。無益な小説を熱心に読み、聖書をおろそかにしています。聖書は、もつと高く、もつと清い生活に導く案内者です。他の物語を読んで若い人の想像力が曲げられてさえいなければ、彼らは聖書がもつとも興味のある本だというに違いありません。

〔教師・両親・生徒への勧告〕英文、一三九ページ

探究心の必要

「だがあなたは、自分が学んで確信したことから離れてはなりません。あなたは、それをだれから学んだかを知っており、また、自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです」(テモテへの手紙二・三章一四〜一七節)。

この危険な暗黒の時代の人々に示さねばならない真理が数多く残されています。しかしサタンはその

光が人々の心に射しこむのを妨げようとする確固たる目的をもっています。もしわたしたちが備えられた光を受けたいと願うならば、神のみことばを忠実に探求することによって、みことばに対する望みを示さなければなりません。長い間はつきりしていなかった尊い真理が、その聖なる真価をあらわす光に照らし出されなければなりません。神は、そのみことばに栄光を与え、それは、かつて見たことのないほどの光を受けてあらわれます。しかし真理を愛すると告白している者は、与えられた力を働かさなければなりません。それは彼らが神のみことばの深い意味を理解し、神に栄が帰せられ、神の民が祝福され啓発されるためです。謙遜な心を持ち、神の恵みによってやわらげられた心をもって、天来のすべての光を受け入れ、清い道に歩むように決心して聖書を探求しなければなりません。

学ぶ者としての態度をもつ

聖書を研究するのに、自分の先入観に合うようにみことばを解釈しようとつとめるのではなく、キリストの信仰の土台となる教理を理解しようとする初心者として学ばなければなりません。ナタナエルが深い興味と熱心な祈りをもって、真理を知りたいと主にひたすら求めたのと同じ精神で、真理を知ることができるよう神のみことばに近づかなければなりません。光は、ナタナエルにきたように真理をもとめるすべての者にもぎます。イエスはナタナエルが「いぢく、〔著者強調〕の木の下で祈っているのをごらんになりました。そして彼がまだ光を求めて祈っているときに、彼をすべての光の源に連れて行くために、使いが彼を呼びにきました。

『フィリポはナタナエルに出会って言った。「わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いてある方に出会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。」するとナタナエルが、「ナザレから

何か良いものが出るだろうか」と言ったので、フィリポは、「来て、見なさい」と言った」（ヨハネによる福音書一章四五〜四六節）。この時ナタナエルの心の中に偏見と不信がわいてきましたが、ピリポはそれらと争わないで言いました。「『来て、見なさい』イエスは、ナタナエルが御自分の方へ来るのを見て、彼のことをこう言われた。「見なさい。まことのイスラエル人だ。この人には偽りが無い。」ナタナエルが、「どうしてわたしを知っておられるのですか」と言うと、イエスは答えて、「わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いぢく、（著者強調）の木の下にいるのを見た」と言われた。ナタナエルは答えた。「ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」（同上二章四七〜四九節）。

ナタナエルは何とたやすく納得させられたことでしょうか！そしてイエスは、どんなに喜んでこの誠実な、偽りのない信仰を「ごらんになったことでしょう。『イエスは答えて言われた。「いぢくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もつと偉大なことをあなたは見ることになる。』」更に言われた。「はつきり言うておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あながたは見ることになる」（同上二章五〇〜五一節）。神は不信や疑問やうたがいを決しておほめになりません。ひとたび神が仰せになったみことばは、認められ、毎日の生活に実行されなければなりません。もし、人の心が神と生きた交渉をもっているならば、天からくる声を聞き分けることができるはずです。

論争をよけなさい

神のみことばを徹底的に研究して尊い真理を発見し、それを明るみに出さなければなりません。安息日学校の教課を論じる場合、論争の精神が入ってこないように注意しなければなりません。意見を異にする点を持ち出すとき、神のみことばを理解したいと熱心に求める人はキリストのような親切な態度

を示さねばなりません。おのおの真理が何であるかを自分でよく知るため、真理を率直に研究する自由が与えられなければなりません。安息日学校の生徒の間に探求の精神がなければなりません。そして実証を自分で認めることができる年輩の人々が、新しい光を探求し、神がその民にお与えになったすべてを正しく判断するように勧めなければなりません。神がその民にお与えになった光は、真理のみことばを忠実に探求しなければならではありません。

世には、人々をまちがった方向に導くさまざまな誤りが満ちています。ですから教師も生徒も何が真理であるかをよく知っていなければなりません。私たちがその教えを実行し、神の口から出ることばによつて生きるには、神のみことばを尊敬し、その生きたみことばの中に神のみ声を認めなければなりません。神のみ心を行う者は、その教理が神のものであるかどうかを知ることができません。それは、どのような欺きも彼の心をくもらせることがないからです。神は、真理の尊い宝を見いだすために、若いも若きもすべての人がそのみことばを忠実に探求するように召しておいでになります。牧師も一般信徒も教師も生徒も、すべてのものが聖書研究をするように召されています。

尊い光が神のみことばから輝き出なければなりません。ですからだれでも、神がお送りになる光の使命のどの部分を人に教えるように、またどの部分を教えるはならないなどと、あえて命令したりすることによつて神のみたまを消してはなりません。どのように権威ある地位にある人でも、人々の光をささげる権利はありません。

使命が主のみ名によつて神の民に与えられるとき、どんな人であろうと、その主張するところを研究しなくてもよいということはありません。無関心で自信に満ちた態度で後ずさりしながら、「わたしは何が真理であるか知っています。そしてわたしは自分の立場に満足しています。わたしはすでに自分の

くいを打ってしまったので、何が起ころうとも自分の立場から動くことはありません。わたしはそれが真理でないことを知っているから、その使者のことばを聞きたくありません」と言つてはなりません。一般教会が部分的な暗黒の中におきざりになったのも、天来の使命が彼らに届かなかつたのも、彼らがこのような道をたどつたためです。

素直な心を養つこと

神は安息日学校の働きの責任ある地位を占めているすべての人に、利己主義、うぬぼれ、見識の誇りを捨てるようにお命じになっています。もし理解できない使命に接したなら、その使命は神のみことばに根拠をおくものかどうか、聖句と聖句をくらべてよく調べ、その使命を伝えた人の理由をよく聞くようになさい。もしその見解が神のみことばに基礎をおいていないことを信じ、その問題に関してあなたがもっている見解を否定することができないなら、あなたは自分の確固とした理由をはなしなさい。あなたの見解は誤謬ごびやうに接してもゆるがないでしょう。見ることを恐れて目をとじ、聞くことを恐れて耳をふさぎ、へりくだつて、ある真理について光を受けたことを認めなければならぬことを恐れて、無知と不信の中に心をかたくなにして暗黒の中に戦いつづけることには何の徳も、何の強さもありません。

真理の研究から離れていては、救い主の「聖書をしらべよ」というご命令を實行していることにはなりません。ある人の努力の結論をくずすの山と呼び、あなたがいけないという思想の中に尊い真理の宝があるかどうか批判的に調べもしないでいるのは、かくれた宝を探求していることになるでしょうか。まだまだ学ぶことをたくさん持っている人が、自分では真理であると納得したことと真理を信じる教師の意見が一致しないことを理由にして、神の民に与えられる使命を研究する機会である集會に、来なくな

るといふことがあるでしょうか。それはキリストの時代にユダヤ人がしたことです。わたしたちは、ユダヤ人のように光より暗きを選ぶことのないように警告されています。それというのも、彼らの中に、生ける神からはなれた不信という悪い心があつたからです。自分が年長者であるとか、すぐれた知恵をもっていると考えた人であつても、生ける神から遣わされた卑しい使者から何か学ぶことができるはずでず。

〔安息日学校へのあかし〕英文、六二〜六六ページ

教師は学ぶ者でなければならぬ

「若いころの情欲から遠ざかり、清い心で主を呼び求める人々と共に、正義と信仰と愛と平和を追い求めなさい。愚かで無知な議論を避けなさい。あなたも知っているとおり、そのような議論は争いのもとになります」(テモテへの手紙二・二章二二、二三節)。青少年を教育する者は、神の成功ある働き人となるために、みことばと経験の両方面を深く学ばなければなりません。彼らは我らの主なる救い主イエス・キリストの恵みと知識に成長して、キリストの身の丈にまで達しなければなりません。恵みに成長するということは枝がぶどうの木につながっているように、キリストにつながっていることを証することです。もしキリストにあるならば、霊的真理を認識する力を持つてゐるはずでず。霊のことは霊によつてわかりまえることができるからでず。

「わたしがあなたがたに書いているのは、あなたがたが悪い者に打ち勝つたからである」(ヨハネの手紙一・二章一四節)。神は青年男女が自分にゆだねられた才能を最善に用いるように命じておられます。また勤勉で研究の習慣を養い、神がお与えになつた才能を向上させることを望んでおられます。神は奉仕や才能の向上を受け入れられますが、中途半端な献身や働きをお喜びになりません。神の働きには、どの

分野であっても、力の限り尽くすことが求められます。また、受けることのできるあるゆる助けをもち、真理をのべ伝えるために最もひいでた精神を注がなければなりません。この働きは高価で神聖なものですから、暗黒の中に座し、死の陰にいる者に適切に正しく示すためには、最上の知的、霊的能力を必要とします。

神の働きのどの分野の教師に召されても、あなたはキリストの学校に学ぶ者として召されているのです。もし他人を教える神聖な責任を引き受けるならば、あなたは自分が教えようと思うあらゆるテーマを深く掘りさげて探求する責任を負わなければなりません。安息日学校で、あるテーマを神のみことばによつて生徒に示す場合、自分の信じる理由を、生徒が真理と納得できるようにはつきりさせなければなりません。忠実に研究して、神が教会にお送りになった使命を神のみことばの証拠と照らし合わせ、自分自身で何が真理であるかを知り、あなたに頼る人々を義の道に導くことができようでなければなりません。

公平な気持ちで聞く

自分の知らない教理を聞くように求められたら、徹底的にそれを調べ、神のみことばに根拠がないことがわかるまで、それを否定してはなりません。わたしにもしその機会が与えられたら、わたしは全世界の安息日学校生徒に、真理を求めるために神のみことばに向かうよう、一段と声をあげて熱心に訴える決心です。神は、この時代の神の民に与える特別の光をもつておられます。真理のすべての点を徹底的に知るために熱心に研究し、神の日に、神の口から出るすべてのみことばにしたがって生活しなかつた者の中に自分を見出すことのないようにしなければなりません。

神のみことばをなおざりにするとき、どのような重大なことが起こるかよく考えてみなければなりません。聖書研究は、最高の知能ともつとも清められた能力を用いる価値のあるものです。新しい光が教会に与えられたら、その光を避けることは危険です。その使命、または使命者に対して偏見を持つているからといってそれを聞くことを拒むならば、神の前に何の申しわけも立ちません。自分がまだ聞いたことがないからとか、理解できないからという理由で否定するならば、公平な気持ちで真理を探索する人々に自分の知恵の足りないことをあらわすことになります。また神が真理の使命をお送りになった人を軽蔑することはおろかなことです。青年たちが神の働き人となるために学びたいと求めているならば、まず主の道を学び、神の口から出るひとことひとことによつて生きていかなければなりません。無限の神はすでに真理全体をあらわされ、これ以上神の民にあらわす光がないというように考えてはいけません。真理の全部があらわされた信じ込むと、神の豊かなみことばの鉱脈に注意を集中して探求する時に発見される真理の宝石を捨ててしまう危険があります。

自分で研究する

教師の働きにたずさわる者や責任ある地位に召されたものは、他の人の研究の結果に満足していません、自分自身で真理を研究しなければなりません。真理の問題を自分で研究する習慣を養わないと、その人の生活も知識も表面的なものになってしまいます。知人の意見は価値あるものであるかも知れませんが、それに頼って自分のはつきりした意見を持っていないようではいけません。自分が信じるようになった真理をよく調べて、その真理について非の打ちどころがないというまでにならなければなりません。自分の持っている信仰のすべての点をおきてとあかしの照らしてみなければ得るところは少ないの

です。なぜならば、真理をそのあるままで理解しないからです。若い人がみな神のお与えになった特権の価値を認めることができるように祈ります。すべての光の源に行つて靈の光をうけることは神のみ旨です（神の靈は、心ひくく真理を求める者に与えられるからです）。そうするとき神の靈とみことばが一つであることがわかり、真理が真理だということを知るようになります。こういう知識はなんと確固とした確証を与えてくれることでしょう。あなたはその時から力をもつて話すことができ、自分で学んだ真理を伝えることができ、「巧みなる作り話」に従わなかったことを知るでしょう。

〔安息日学校へのあかし〕英文、五八〜六一ページ

光を増し加える約束

義の太陽と生きた關係を保つ人には神のみことばについてたえず新しい光が与えられます。だれ一人として、これ以上あらわされる真理はないと決めてはなりません。忠実に、祈りつつ真理を求める人は、神のみことばから尊い光が輝き出るのに気づきます。まだまだ多くの寶石が散らされています。それを集め、神の残りの民の財産としなければなりません。光は教会の力となるためにだけ与えられるのではなく、暗黒の中にいる人々を照らすために与えられるのです。神の民は暗黒の中からそのたえなる光に導いてくださった神の栄えを示さなければなりません。キリストはその民に「あなたがたは世の光です」と仰せになりました。暗黒を照らし輝かすのは光の使命です。

主は教師も生徒も神の息子、娘となり、永遠の栄えの冠を受ける者となるようにご自分の生命ささげてくださいました。主がその時に計画されたように、彼らがその標準に到達することができるよう願うものです。

〔安息日学校へのあかし〕英文、五三、五四ページ

熟知している聖句の新しい意味

真理を求める敬虔な気持ちで「主が仰せになったこと」を知りたいと熱心に願い、神のみことばを読むために聖書を開くとき、光とめぐみが与えられ、神のおきての中に驚くべきことを見いだします。そしてエホバのおきてを奴隷のくびぎと思わず、すべてを知り、あわれみに満ちておられる神の恵みあるおきてであると思うようになります。こういう人は、神のご要求を実行するために、ただちに努力します。長い年月の間なおざりにされ、ありがたく思われなかった偉大な真理が神のみたまによってあらわされ、ありふれた聖句から新しい意味が輝き出ます。一ページ一ページが真理のみたまに照らされます。聖書は封じられるものではなく、開封されたものです。最も尊い真理があらわされ、生けるみことばが怪しむ耳に聞こえ、人の良心はさまされて行動をはじめようになります。

（『安息日学校へのあかし』英文、三〇ページ）

聖書の目標から遠ざかる

多くの人々は聖書についてほとんど何も知らないために信仰が不安定です。彼らは古い目標を動かしてしまつたので、誤りや教えの風が彼らをあちこちになびかせています。いわゆる誤つた科学はキリスト教の原則の土台を動かし、かつて信仰を持っていた者は聖書の目標からはなれ、神の子らであると自称しながら神から離れています。

（『レビュー・アンド・ヘラルド』一八九六年二月二九日）

青年を異端から守る

安息日学校で学ぶ聖書の教課は、多くの人が考えるよりずっと大切です。この子どもたちは近い将来にキリスト教の教会内にはやる異端やいつわりの教えに直面しなければなりません。ですから、単純にしかも徹底的に青年たちを教えてください。わたしたちの働きは、裁きの日に立ちえるものでなければなりません。今日の青年たちは、社会に入ってきている悪に直面し、これに打ち勝つことができるように、キリストの恵みによって身を固めなければなりません。彼らは与えられたすべての知識と感化力を用いる機会が与えられます。そして周囲を取り囲む悪の流れを止めるのに上からの力を必要とするのです。誤りと非聖書的な教理を支持する者が数多くいます。世界全体が神を忘れ、そのご要求を軽蔑するように導いています。神のおきては汚れた足の下に踏みまじられています。青年はみな、おのこの機会に対して責任を負わされています。また神に対して、聖書から受けた光に対する責任を持っています。

（『安息日学校へのあかし』英文、一二二ページ）

試みに対するとりで

聖書の真理を心にたくわえることに対して、絶えず成長する活気のある興味があればなりません。このようにして得た尊い知識は心のとりでとなります。試みにおそわれても、栄光と徳に導きたもう主を知ることで、イエスにあつて動かない信頼をもつことができます。

（『安息日学校へのあかし』英文、一二二ページ）

真理を探求するときの神の助け

神の真理には限りがありませんから、真理の一点一点を探求しなければなりません。そして研究するにあたって神が仰せになったことを知るために生徒も教師も、最も熱心な関心を持たなければなりません。神のみ声は長年の間、わたしたちに「奨励せよ、奨励せよ、奨励せよ」と仰せになっています。間違いとの区別をはつきりして、真理が何であるかを知るために、真理のすべての点を研究しなければなりません。神の奥深い事柄を知るために生徒にみずから探求させてください。この働きをキリストの精神をもつていたしましょう。そして生徒を拘束しないようにいたしましょう。

聖書研究をするにあたって、まったく謙遜なくだけた心をもつて、神に熱心に求める必要があります。心をひくくして真理を求めに来る者は、その研究を神の使に助けていただけです。

（『安息日学校へのあかし』英文、五五、五六ページ）

中途半端な奉仕

クリスチャンであると言いながら神のみことばを半分も信じていない人が数多くいます。彼らは熱心に研究もせず、大切な時間に小説や物語の本を読んでいます。神のみことばを単に知的に理解しているだけでは、生活の習慣に影響を及ぼすに十分ではありません。なぜなら、生活は心の状態によって調整されるからです。もし安息日学校の教師が教課の表面的な掲示についてだけ教えたとすれば、その働きはまだ始められたばかりにすぎません。生徒が天の教えについてただ頭で受け入れるばかりでなく、心に記されるまで働きつづけなければなりません。

（『安息日学校へのあかし』英文、五七、五八ページ）

祈りをもって研究すること

わたしたちは心のすべての力を尽くして聖書研究をしなければなりません。そして神の深いことからついて人間としてできるかぎり理解するように努めなければなりません。しかも子どものような素直さと従順さ、服従が学ぶ者の精神でなければなりません。聖書の難点は、哲学的な問題を解決するのに用いられるような方法では決して解決されません。わたしたちは多くの人が科学の世界の研究をはじめのような自信を持って聖書の研究にたずさわってはなりません。祈りをもって神に頼り、神のみ心を心から知りたいと望まなければなりません。わたしたちは謙遜で素直な心をもって「わたしは有つて有るもの」であられる神から知識を得るために近づかなければなりません。そうでなければ悪天使はわたしたちの心を閉ざし、かたくなにして、真理から何の印象も受けないようにさせます。

世の識者が神秘であるといい、また重要でないものとして見過してきた聖書の多くの箇所は、キリストの学校で教えられる者にとつての慰めと教えで満ちています。多くの神学者が神のみことばをはつきり理解できない一つの理由は、自分たちが実行したくない真理に目を閉じるからです。聖書の真理を理解することは、研究に用いる知的能力よりもむしろ一つの目的に向かって進むこと、すなわち義を熱心に求めるかどうかということにかかっています。

決して祈らずに聖書を研究してはなりません。聖霊だけが理解しやすいことからの重要性を感じさせ、理解しにくい真理を曲解しないように助けることがおできになります。わたしたちがみことばの美に打たれ、警告に耳をかたむけ、そのみ約束によって生かさされ、力づけられるように神のみことばを理解する心の準備をさせるのが天使の働きです。「私の目を開いてください／あなたの律法による奇しき業に

／目を留めることができるように」(詩編一一九編一八節)という詩編記者の歌は、わたしたちの願いでもなければなりません。祈りと聖書研究をおろそかにするために、試練を受けた場合、神の約束をすぐに思い出すことができず、したがって聖書という武器をもってサタンに立ち向かうことができないので、その試練は耐えられないものと思えます。しかし神のことについて学びたいと望んでいる人のまわりには天の使がいて、何か一大事が起こると、必要な真理を思い出させてくれます。

(『安息日学校へのあかし』英文、一一二、一二三ページ)

知識を与える神の方法

イエスは毎日、生物界や無生物界から知識を得られました。すべてのものを創造し、力あるみことばで丘や谷や川や木を造られたそのお方が今や人の子となられたのです。主はかつて葉に花に木に自ら記された教えをお学びになりました。イエスが伝道したとき、真理の教課を教えるためにたとえをよく用いましたが、それらのたとえは、イエスがどんなに心から自然のうるわしい感化の中にひたっているか、また、隠れた年月の間、日常生活の環境のあらゆるものから霊的教訓をどんなに喜んでお学びになったかを示しています。神のみことばと神の働きの意義は、イエスが他の青年たちと同じように考え、理解したいと求められるにつれて、次第に開かれていきました。

どの子どもでも、イエスと同じように、自然の働きや神のきよいことばのページから知識を得ることができません。きよいみことばを通して天の父を知りたいと努めるとき、天の使いは近くに来てわたしたちの心は強められますし、わたしたちの性格は高められ、洗練され、より一層救い主に似てきます。自然界の美と荘厳さを眺めるとき、わたしたちの愛情は神にひかれていきます。それと同時に心は畏敬の

念に打たれ、精神は服従させられ、魂は神の驚くべきみわざを通して無限の神と交わることによって活気づけられます。謙遜な祈りによって神と交わる時、知적および道德的な力はのぼされ、力づけられ、靈的なことを考える訓練によって増していきます。

見も心も魂も神にささげ、神のおきてに従うことによって思想をきよめる人は、絶えず新しい肉体的な力と知的な力を受けます。心は神を慕い、聖靈のつとめと働きを、もつと、はつきりしたいと熱心に祈るようになります。わたしたちが聖靈を用いるのではなく、聖靈がわたしたちを用い、あらゆる能力を形づくるのです。

きたるべき試練に対して、どのような備えをするか

キリストのしもべは自分の信仰を調べられるために引き出されたとき、定まったことばを用意しておく必要はありません。彼らは日々心の中に尊い神のみことばの真理をたくわえ、キリストの教えを食し、祈りによって信仰を強くして準備しなければなりません。そうすれば、調べられるために引き出されたとき、聖靈が特別に必要な真理をわたしたちの記憶によみがえらせます。それは聞く人たちの心の底までとどきます。

神は勤勉に聖書を研究して得た知識を、それを必要とするときに、記憶によみがえらせてくださいます。けれども、もし真理の寶石で頭を満たさず、キリストのみことばを学ばず、試みにおいて神の恵みの力を味わったことがなければ、聖靈が神のみことばを記憶によみがえらせてくださることは期待できません。毎日、いちずな思いで神に仕え、神を信頼しなければなりません。

日比の聖書研究

安息日学校は両親にも子どもたちにも、神のみことばを研究する尊い機会を与えます。けれども安息日学校で当然受けるべき恩恵を得るには、両親も子どもも教課の研究のために十分に時間をさき、それに示された事柄を徹底的に知るようにし、また、その事柄が教えようとしている霊的真理をよく知るようになければなりません。特に今学んでいるみことばの十分な意味を研究することの重要性を青年たちの心に、深く印象づけなければなりません。……

両親たちよ、子どもたちと安息日学校の教課を研究するために毎日少しの時間をさいてください。きよいご生涯の尊い教訓を研究する時間を犠牲にするよりも、必要ならば社交的な訪問をやめたほうがよいのです。子どもと同じように両親も大変得るところがあります。その日の教課と関係のある大切な聖書のみことばを、義務としてではなく特権として暗誥しましょう。最初は完全に覚えられないかもしれませんが、練習することによって力づけられ、しばらくするうちに喜んで真理の尊いみことばをたくわえるようになります。そしてこの習慣は宗教的な成長に非常に価値ある助けになります。人のうわさをしたり、誇りのために用いたり、食欲を満足させるために浪費してしまふ時間を、興味深く聖書を研究するためにもちいれば、どんなに大きな力が安息日学校に与えられることでしょう。しかし両親たちが子どもたちの心に神の真理をたくわえさせるより流行の洋服を着せることに心を傾けていると、子どもたち自身も、まもなく自分の救いに関することよりも、衣服やそれを見せることをより重大なことで考えるようになります。……

家庭での聖書研究を組織だてなさい。世的なもののはどれを怠ってもよいのです。不必要な裁縫や料理

は省き、生命のパンで魂を必ず養うようにしなければなりません。毎日、一時間でも半時間でも神のみことばに気持ちよく、社交的な態度で接することが、どんなによい結果をもたらすかは測り知ることができません。聖書を聖書の注解者とし、決められたテーマに対して違った時と状況下に言われたすべてのみことばを集めてください。たとえ訪問者がきても、家庭の組を解散してはなりません。研究中にきたら、訪問者を研究に参加するように招きなさい。そして神のみことばの知識を得ることは、この世の楽しみを得る事よりはるかに大切であることを示さなければなりません。

〔安息日学校へのあかし〕英文、一〇、一一ページ〕

教課を記憶すること

知的な訓練の手段として安息日は無限の価値をもった機会である。安息日学校の教課は、安息日の朝大いそぎで、教課の聖句に目を通すというような学び方ではなくて、安息日の午後次週の分を念入りに研究し、その一週の間毎日これを復習し、また実例によつて説明するといったような学び方をしたいものである。こうするときに、教課は記憶にきざみこまれ、残らず無くなつてしまうようなことのない宝となる。

〔『教育』二九八ページ〕

ロバートの霊の糧

「命を与えるのは霊である。肉は何の役にも立たない。私があなたがたに話した言葉は霊であり、命である」(ヨハネによる福音書第六章六三節)というキリストのみことばを理解しなければなりません。みことばを受け入れて実生活に適用しなければなりません。血液が肉体の生命であるように、霊的生命は、キ

リストの心の宮の光と生命になつていただくことによつて成り立つのです。みことばを学ぶ者はみことばを食べ、リストを食べることにたとえられています。肉体の必要が毎日満たされなければならぬように神のみことばも毎日学ばなければなりません。——食べて、消化して実行しなければなりません。こうすれば栄養を持ち続けて魂の健康を保つことができます。みことばをなおざりにすることは魂を飢えさせることです。神のみことばの真理を昼夜黙想するさいわいな人のことがみことばの中に述べられています。わたしたちはみな神のみことばを食べなければなりません。みことばと信者との間には切つても切れない関係があります。みことばでわたしたちの靈的需要を満たすことは、民をいやす生命の木の葉を食べることです。みことばを学び、みことばを実行しなさい。それはあなたの生命なのです。

〔エレン・G・ホワイトの書簡』第四卷、一九〇二年〕

家庭の協力

教師のかしこく忍耐深い努力がなければなりません、同時に安息日学校や教会の働き人に働きをまかせてしまつてはなりません。家庭の働きにその基礎をおき、家庭の支持を受けなければなりません。両親に神聖な責任と仕事を負わされています。そして彼らは、神をおそれながらその仕事を果たし、責任を負い、子どもたちの魂をいつか神の前に申しひらきをしなければならぬ者として見守るよう求められています。

家庭における伝道は、不思議なほどなおざりにされています。子どもたちの救いのために、熱心で、リストのように心にかけてなければならぬ十分な理由を持つている人々が、自分たちの責任に無関心で、家族の者の必要を軽く考えています。多くの者は、神が親である男女にお与えになった責任を、安

息日学校の働き人や教会の感化にまかせてしまっています。しかしすべての器にはそれぞれの働きがあつて、自分の責任を果たさない両親は秤にはかられて、足りないものとされるのです。

キリストが、雲の中からイスラエルの民にお与えになつた教訓は、両親の義務を明らかにしています。それは明瞭なものであつて、理解しにくいものではありません。この教訓はわたしたちを警告し、また諭すものです。「そこで、あなたがたはこれらの言葉を心に留め、魂に刻み、しるしとして手に結び、記章として額に付け」(申命記二章一八節)。何をしていても、彼らは主のいましめを覚えていなければなりませんでした。彼らの手に結んでいなければなりませんでした。それは文字どおりに結ぶのではなく、日常生活のすべての行いにその感化をあらわすということでした。このいましめは目の間におぼえとつけてつけることになっていました。彼らは神のおきての真理をその心に留め、その原則に支配されなければならぬのでした。「子どもたちにもそれを教え、家に座つているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、語り聞かせ、あなたの家の戸口の柱にも門にも書き記しなさい。こうして、主が先祖に与えると誓われた土地にあつて、あなたたちとあなたたちの子孫の日数は天が地を覆う日数と同様、いつまでも続くであろう」(申命記二章一九〜二節)。

慎みと謙遜を教える

神のみ子が、イスラエルの子らを教えるためにモーセにお与えになつた教えは、その当時と同じように今日でもなくてはならないものです。それはいにしへの神の民のように今日も両親によつて忠実に守られなければならないものです。神に従つた実として神がお定めになつた結果を見たいと思うならば、家庭生活のすべての点に宗教を織り込まなければなりません。誇り、自負心、大胆さは今日の子どもたち

の特徴であり、またこの時代ののろいです。至るところにこのきざし——非キリスト的で愛らしくないあらわれを見、しかも両親や教師たちが子どもたちや生徒の才能をみせびらかそうとつとめているのを見て、わたしの心は痛みます。なぜなら、それは彼らの歩むべき道とは正反対のものであるからです。

両親や教師が聖書から知識を得、心も行動も聖なる原則に支配されていけば、迷って禁じられた道に入っていくようなことはあるはずがありません。きよい慎みと謙遜の最もよい教えは、家庭と安息日学校の両方で子どもたちに教えられなければなりません。彼らは、神のおきての高い要求と神に対する彼らの責任について教えられなければなりません。彼らに教える教えは、この世の中でも彼らを有用な者とし、同時に、将来永遠のみ国に行くことができるようにするものでなければなりません。

「心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くしてあなたの神、主を愛しなさい。今日私が命じるこれらの言葉を中心に留めなさい。そして、あなたの子どもたちに繰り返し告げなさい。家に座しているときも、道を歩いているときも、寝ているときも、起きているときも唱えなさい」(申命記六章五〜七節)。これらのことばは両親と教師の義務を明らかにしています。もしこの教訓に従うならば、必ず最善の結果をみることができます。

両親が義務を果たさなかった結果

もしイスラエルの民が、生ける神の子が雲の柱から彼らに与えられた教訓を実行したなら、特別に神に愛されたこの民の歴史は、聖書にどんなにちがったものとして書き残されたことでしょうか。彼らはその訓令に忠実に従いませんでした。また、神の要求を子どもたちに教えませんでした。神を拒んだ国民の悲しむべき結果がわたしたちの前に描かれています。彼らは神の知恵からあまりにも遠く離れてし

まったので、偉大な教師、世のあがない主であるイエスがあらわれたとき、彼らは、「イエスを追い出せ」と叫ぶようになってしまったのでした。人の言い伝えは神のおきてよりずっと高く評価されています。誤った習慣と人間の考えたものが神の教えに代わり、彼ら自身の一部となるべき教訓は、小さいもの、価値のないものと思われたのでした。

キリストがこの世において真の宗教を実際に示し、人の心と行いを支配すべき原則を高く掲げようとなさったとき、かつては尊い光を持っていた人々の心には偽りが深く食い込んでしまっていたために、もはや光を認めることもなければ、真理のために言い伝えを捨てることもありませんでした。彼らは天からの教師を拒絶して、自分たちの習慣、言い伝えを守るために栄光の主を十字架につけたのです。これと同じ精神が今日世界中に見られます。人々は、自分たちの言い伝えが妨げられ、新しいこととがらが持ち込まれては困ると思つて真理を探索することを避けています。人間は常に過ちを犯す可能性を持っていますし、また、人間的な考えや知識を高くあげようとする生来の傾向があつて、神や永遠に属するものをかえりみず、認めようとしません。

拒まれたキリストの使命

偏見のない人にとつて、キリストのみことばは天来の光のようでした。「今まで、あの人のように話した人はいません」(ヨハネによる福音書七章四六節)。偉大な教師キリストが永遠の将来の現実性をまざまざとお示しになったとき、滅びゆくこの世のものは隠れてしまいました。光を求めて非常に熱心に祈っていた人々はどんなに熱心にこの真理を受け入れたことでしょうか。ところが、傲慢で自己を義とする者はキリストの使命を拒みました。

〔安息日学校へのあかし〕 英文、三五〜三九ページ

教育者としての両親

家庭は単調でつまらない場所ではなく、教育する場所でなければなりません。夕食後は義の道を教える時間として使うようにとおかなければなりません。しかし悲しいことに、多くの子どもたちは放任されています。子どもたちは神の真理がわかるように、また正義を愛し判断することができるように家庭で教育されていません。子どもたちが彼らを支配している法則を理解し、彼らの行為の動機を悟ることができるよう、忍耐強く教えねばなりません。そして天のおきてに調和するように、またイエスのうちにある真理を愛するように導かねばなりません。このようにすれば天使たちの交わりに加わるにふさわしい者となり、愛するあがない主の前に立つことができます。

すべての魂に正しい望みと抱負を植えられることができます。青年たちは聖なる道に美を見出すことができます。若者を人生の有用な人物とするために訓練し、鍛錬し、完成するには、どんな場合でも断固とした方法をとらねばならないかもしれません。神が各自にお与えになった才能の価値を認めて感謝する人はごくわずかです。すべての知恵、力、また聖潔の源であられるお方と生きたつながりを保つて、はじめて知能や心が十分な発達を遂げることができるという事実を認めている両親や教師は、なんと少ないことでしょう。真理は無限です。心に光が与えられ、聖霊に導かれている者は、ますます力を得て、「いよいよ、かがやきをまして昼の正午に至る」道を発見するでしょう。

地に向かつてか、天に向かつてか

しかしわたしたちには知恵と真理に進む可能性がありながら、前進するだけでなく後退することも得

きるといふ事実を見失わないようにしましょう。天に向かうことができるように地に向かうこともできます。天へ向かう道と地獄へ向かう道を行ったり来たりしているような魂がたくさんいます。人を欺く巧妙な力が人の心を神や天のことから引き離そうとしています。だけれども、若い時から青年期、または成人になるまで見守られなければなりません、ことに、悪の危険を知り、神がすべての魂に対して感じておられる愛と興味とを知っている人は、やがて申し開きをしなければならぬ多くの魂を見守ることを自分のなすべき仕事としなければなりません。

両親はアブラハムのように、家族の者が自分たちにならつて主の道を守るように命じなければなりません。もしそうしなければサタンは喜んで両親の働きをなし、自分の喜ぶように子どもを訓練します。まことに悲しいことですが、サタンにまかせていることが、なんと多いことでしょう！ 両親は自分に任されている者に対する責任を果たし、神の模範にならつて彼らの人格を形づくるようにいたしましょう。両親たちは生ける信仰をもち、神を全面的に頼つて自分に課せられた働きを果たしましょう。そうすれば、神はご自分の分をお果たしになって、神もなく望みもない幾千の子どもたちが教会に加えられることでしょう。

青年の悔い改めに対する重荷

青年たちの悔い改めが両親や教師たちの大きな重荷になるとき、彼らの性格を鍛錬し、趣味や望みを天国の方向に向けるように絶えず努力が払われます。すべての人が堅固な徳をつくり上げる可能性をもっています。また霊的なことに関する知識の高さ深さ広さに到達し、より高い生活に適應することができます。両親が神のみ栄えのみを考えて、食事や衣服や生活様式をできるだけ単純で自然なものにす

る習慣を作る第一歩を踏み出すとき、家庭に秩序が生まれ、子どもたちが放任されるということはありません。子どもたちを教え、その発達のために十分な時が費やされるようになります。

子どもたちは最上の感化と交わりに囲まれていなければなりません。神を畏れ、愛し、この働きをはじめ、両親は、自分のひとことひとことを慎みます。子どもたちが自分たちの会話を繰り返すのを聞いて心を痛めることがないようにします。また、高い道徳的教訓によつて子どもたちの弱さ、無知、欠点を補うように努めます。そうすれば彼らは、健康と幸福に役立つところのしつかり作られた習慣をもつて、純潔に強く成長していくことができるのです。このような教育によつて彼らは、自分の性格を円満に強く完成していく知識を集めることができます。

放任することの非常な危険性

もし青年が自分の教育を気ままに受けるように放任されていたなら、あらゆる手段が備えられていることに気がつくでしょう。色々な種類のみなもとから悪の知識が心に入り、おそらくこの世の生涯のあとも、それをまったく消し去るということは不可能でしょう。両親が子どもたちの性格の土台を置く義務を果たさず、またその性格を築くための材木として最上の原則を用いなかつたら、この怠慢を神と人との敵が満たし、青年は徳や真理に対して無関心になります。家庭は世界中で一番楽しいところであればなりません。外面的、人工的なものを、真実なもの、自然なものに比較することができません。主は子どもたちに、両親と教師が非常に注意深い訓練を与える必要のあるいろいろな才能をさずけておられます。

神から青年たちを訓練する責任をまかされた人々は、神と協力して、青年たちの力を増し加え、将来

永遠の生命にまで持つていくことのできる知識を得ることができるよう、その青年たちの知能と心の尊い賜物を発達させなければなりません。……

最も重要な働き

子どもや青年の性格を形づくり、それをつくりあげる仕事は大変重要な働きです。この働きをするにあたって、何ものにも比較し得ない愛をもっておられるイエスを彼らに示さなければなりません。そうすれば、キリストの強烈な魅力は世的な誘惑を消してしまいます。青年たちは、どんなに理路整然としていても、ただその理論を知るだけでなく、キリストの愛の品性と栄光を見るようにさせなければなりません。青年たちを励まし活気づけ、救いに導くまで、彼らに永遠の世界の富を眺めさせなければなりません。イエスの愛がすべての努力の源でなければなりません。愛は人を動かし、励まし、とらえます。

(『安息日学校へのあかし』英文、一〇一〜一〇五ページ)

安息日学校における両親

安息日学校は、青年たちに尊い機会と特権を与えます。両親はこれらの点を高く評価し、心から感謝していることを子どもたちに示さなければなりません。両親が安息日学校に対してはつきりした興味を示さなければ、子どもたちに興味を示してもらうことを期待することはできません。安息日学校で、両親は子どもたちと同じように生徒となることがあります。両親も子どもたちも共に聖書を学ばなければなりません。神の書物より大切な書物があつてはなりません。キリストは、「あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ」

(ヨハネによる福音書五章三九節)と仰せになっています。わたしたちはみな、もつと預言について明るくなり、キリストの実際の教訓に通じていなければなりません。もし興味を持たないで、ただ聖書を読むだけなら、その中に含まれている真理を知ることができません。

教課の口ごと研究

両親は子どもといっしょに聖書を調べなければなりません。両親自身が教課をよく知るようになれば、子どもたちの研究をたすけることができます。毎日一日のある時を教課の研究のためにあて、その意味を心から理解することもできないままに、ただ機械的にそのみことばを繰り返すのではなく、その土台まで探り、その教えの中に何があつかわれているかをよく理解するようにしなければなりません。子どもたちの無関心は多くの場合親に責任があります。両親が無関心なので、子どもたちにも同じ精神がつるのです。両親が安息日学校に重要な意味をもたせ、尊敬と尊重の意を払うなら、子どもたちはその模範にならうのが常です。

安息日の遵守を教えること

両親は、安息日のきよい時間は神の栄えのために過ごさなければならぬことを家族のものに徹底的に理解させなければなりません。あわてて自制を失うことのないように、日の出とともに起きて、安息日学校に行く用意をする十分な時間をもたなければなりません。もし前日に適当に準備しておくならば、その週に研究した教課を復習する時間が十分あるはずで、そうすれば親も子どももよく教課を学んで、確信をもって安息日学校に行くことができます。

子どもたちと同じ気持ちをもたれたキリスト

イエスは子どもたちに関心をもっておられました。彼は成長した者としてこの世においてになりませんでした。もし、大人として来られたのであれば、子どもたちは従うべきキリストの模範を持たないこととなります。キリストは一人の子どもでした。彼は子どもであることを経験なさいました。彼は子どもたちが感じるあてはずれや試練をお感じになりました。彼は子どもたちや青年たちのころみをご存知でした。そしてキリストは、その子どもの生活、青年の生活において、彼らの模範であられました。幼年時代に彼は有用な働きをなさいました。彼は青年時代に父と共に大工のお仕事をし、両親に比べ、すべての子どもたち青年たちに教訓をお与えになりました。もしキリスト自身が子どもだったことがなかったなら、青年たちは主が自分たちに同情なさることはできないと思うかもしれません。しかし、イエスは彼らの模範となる生涯を送られました。それゆえ青少年は、主が彼らのすべての悲しみと失望を訴えることのできるお方であり、自分たちを助けてくださる友であられることがわかるでしょう。

イエスは小さい子どもたちを愛しておられます。母親が子どもを連れてイエスのもとに来たとき、弟子たちは追い返そうとしました。しかしイエスは彼らをいまして、『しかし、イエスは言われた。「子供たちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げてはならない。天の国はこのような者たちのものである』』（マタイによる福音書一九章一四節）と言い、子どもたちを愛のかいなの中に集めて祝福なさいました。もし両親や教師が子どもたちを愛し忍耐することができなかつたら、彼らは憐れまれるべきです。彼らはキリストの心を持っていないからです。安息日学校に子どもたちを集めようとしている人はよい働きをしており、まさに神に喜ばれる働きをしています。小さい子どもであっても、成長しつつある彼

らの心は、イエスの教えに関する多くのことを理解し、大きな愛情をすべてささげて主を愛するように教えることができます。教師や両親はすべての水のほとりに種をまかなければなりません。もし忠実であれば、やがて魂を収穫することができます。そして彼らが働かかけた魂が、冠と白い衣と金の立琴を持つて偉大なみ座のまわりにいるのを見るとき、自分の努力が無駄でなかったことを感じます。「忠実な良い僕だ。よくやった」というおことばが、美しい音楽のように彼らの耳に聞こえてきます。

（『サインズ・オブ・ザ・タイムズ』一八八一年六月二三日）

教課研究の時間を見つける

子どもたちがよく安息日学校の教課を勉強しない理由として、時間がないと苦しい言い訳をしますが、もし教課に興味さえあれば、教課の勉強をする時間を見つけないことのできない人は、ほとんどありません。ある人は娯楽や観光のために、またある人は見栄を張るための衣服を不必要に整えるために、時間を費やして誇りと虚栄心を高めています。このように浪費された尊い時間は神のもので、彼らは、それに対して神に清算しなければなりません。不必要なگذり、娯楽、むだ話に費やした時間は、すべての行為とともにさばきの座に持ち出されます。

（『安息日学校へのあかし』英文、八ページ）

両親は子どもたちを助けなければならぬ

両親は子どもたちに預言を教えるのと同じように、神のおきてと、その要求に従って子どもたちを教えることを、きよい義務と感じなければなりません。両親は子どもたちを家庭で教育し、自分自身も安息日学校に興味をもたなければなりません。彼らは子どもたちといっしょに勉強することによって自ら

が教課にあらわされた真理を重要視していること、また聖書の知識への興味をおこさせるように助力していることを示します。
〔安息日学校へのあかし』英文、一一一ページ〕

両親は子どもたちの研究を助けるだけでなく、自分自身も教課に明るくなつて、自分の務めを果たすようにしましょう。聖書はわたしたちの教科書です。親も教師も生徒も、旧新約聖書の中にある尊い真理をよく知らなければなりません。
〔安息日学校へのあかし』英文、一四ページ〕

学校よりも重要である

両親は子どもたちが聖書の教課を学んだかどうかということを、毎日の学校の勉強よりも、もつと注意深くみなければなりません。聖書の教課は、毎日の学校の勉強よりいっそう完全に学ばなければなりません。両親も子どもたちもこのことの必要性を認めなければ、子どもたちは家にいた方がよいでしょう。なぜなら、安息日学校は彼らに祝福を与えないからです。両親や子どもたちは安息日学校長や教師と協力して働くべきです。そして自分たちのためになされている努力に対して感謝の意を示さなければなりません。両親はもつと徹底した聖書の知識を得ることができるよう、子どもたちの宗教教育に特別な関心を持たなければなりません。
〔安息日学校へのあかし』英文、八ページ〕

勤勉な研究は豊かに報いられる

神から訓練を受けていた、ヘブルの青年たち（ダニエルとその友人たち）の勤勉は豊かに報いられました。彼らが熱心に知識を求めて努力したとき、主は彼らに天の知恵をお与えになりました。彼らが得た知識は、苦しい立場におかれた時、たいへん役に立ちました。主なる天の神は、知的、靈的の怠慢の結果と

してくる欠乏を補つてはくありません。人間が自らの能力を用いて知恵を得、深く物事を考える者となるとき、すなわち彼らが神と真理の大いなる証人として、魂の救いに関する重要な教理を探究する分野において勝利を得たとき、いと高き神に栄光が与えられるでしょう。法廷、国会、地方議会で裁判官や王ですら、天地をつくられた神は唯一の真の生ける神であり、キリスト教の創始者であり、世界の基が置かれ、明けの明星がともに歌い、神の子たちが喜びの声を上げた日に、第七日の安息日を制定されたお方であることを認めるようになるのです。

（『キリスト教教育の基礎』英文、三七四、三七五ページ）

第三部
救霊の機関

第三部 目次

最高の目的	55
最も大切な教課	57
み事業に最も必要なもの	60
真理の効果	61
すべての教師と生徒への質問	61
約束された知恵と力	62
集会をもっと靈的なものに	65
各個人を研究せよ	65
組の生徒に対する個人的働き	66
家庭訪問	67
小羊を養いなさい	68
子どもたちをなおざりにしてはならない	68
小さな群れをみちびいて	69
幼子を集めなさい	69
子どもの宗教経験	70
敏感な子どもの心	71
キリストのようなやさしさの力	72
クリスチャンの働き人をつくる所	73
安息日学校は伝道者養成の要素である	74
聖書研究のための訓練	74
他の教会のクリスチャンに対する心づかい	75

第三部 救霊の機関

最高の目的

安息日学校の働きの目的は、魂の収穫でなければなりません。働きの秩序には欠点がなく、すべての設備も申し分ないかも知れません。けれどももし、子どもたちや青年たちがキリストに導かれなければ、その安息日学校は失敗です。なぜなら魂がキリストに引き寄せられないならば、魂は形式的な宗教の感化のもとにあつて次第に感動を受けなくなるからです。助けを必要としている人の心の戸を主がおたたきになるとき、教師は協力しなければなりません。もし生徒が聖霊の訴えに答えて、イエスがお入りになれるように心の戸を開くならば、イエスは、彼らが神を知ることができるようになるようにその理解力を深めてくださいます。教師の働きは単純ですが、もしイエスの精神をもつて働くならば、神の霊の働きによつていつそう深味が加えられ、効果的になります。

安息日学校でもっと個人的な働きがなされなければなりません。この種の働きがどれほど必要であるか認められ、正しく評価されていません。教師は心の中に与えられた神の愛に対する感謝の念に満たされて、生徒たちの悔い改めのために、やさしく、熱心に働かなければなりません。

個人の救い、それから奉仕

安息日学校の働きはただの見せかけだけのものではないことを、どんな証拠を持って世に示すことが

できるでしょうか。それは実によつて判断されます。生徒の質また働きによつて評価されます。安息日学校ではクリスチャン青年に責任を与えなければなりません。その結果、彼らはその能力をのび、靈的な力を得ることができません。まず青年に自分自身を神にささげさせ、それから最初の経験として他人を助けることを教えなければなりません。この働きは彼らの能力を実行に移させ、友人のためになるにはどのように計画し、どのようにそれを実行すればよいかを学ぶ助けになります。彼らに助けを必要としている人たちと親しくなり、つまらない会話を交わすのではなく、クリスチャンとしての品性をあらわし、まだ神に自らをささげていない人たちを勝ち取るために、神と共に働く者になるようにさせるのです。

特権に比例する熱心

わたしたちは、青年たちを助ける努力において自分たちの責任を、はなはだしくなおざりにしていません。わたしたちは偉大な光を与えられましたが、熱心さと真剣さに欠けています。わたしたちに与えられた特権に比例する熱心さを持っていません。わたしたちはまわりを取り巻いている、寒々とした不信を乗り越えなければなりません。そして神に近づけば、神はわたしたちに近づいてくださいます。

わたしたちは、青年が魂の救いのためにどのように働けばよいかを学ぶように教えねばなりません。青年にこの働きを教えると同時に、わたしたちもまた、生徒を悔い改めさせるために、神のみ手の中の効果的な器として、いつそう成功する働きの方法を学部でしょう。わたしたちは、熱心な働きの中に満たされ、キリストによつてのみ力ある働きをすることができていることを認めて、キリストにすがらなければなりません。永遠の生命に関する事柄をよく理解することができるとは、わたしたちの心は啓発さ

れなければなりません。また、真の教育者になるには、わたしたちの心はキリストの恵みによってやわらげられ、従順にされなければなりません。

校長や教師は、次のように自問してみなければなりません。わたしは神のみことばを信じているであろうか。わたしが滅びることなく永遠の生命を得るために、十字架の上で苦しい死を遂げ、わたしのためにご自身を与えてくださった主に、わたしは自分をささげているであろうか。わたしたちは、イエスがわたしの周りの魂を招いていること、罪に生き、ご自身のひきつける力に応じない魂さえ招いておられることを信じているであろうかと問わなければなりません。そして悔いの心をもって、「主よ、わたしはある限りの感化力をもって人をあなたにひきつけようとつとめます。わたしはあなたを——すなわち聖霊の力によつて人の心に触れ、人の心を従順にさせることがおできになるあなただけを信頼します」と言わなければなりません。

〔安息日学校へのあかし〕英文、四七〇―五〇ページ

最も大切な教課

もし意志の強い青年たちが、力をつくして聖書を研究するならば、彼らが交わる友を照らす光となる尊い知識を心にたくわえることができます。安息日学校は神の知識に進んだ人たちが、神の民の信仰に関する新しい考えを説くことができる場所でなければなりません。

クリスチャンであると公言する者がみな、行いにおいて真にクリスチャンであるならば、安息日学校は無味乾燥な集まりではなくなります。そのとき、教師はキリストがニコデモにお与えになった教訓を理解し、またそれが人間の運命に対してどんなに重大な関係を持っているかというように教えるようになります。イエスはイスラエルのつかさに「はつきり言っておく。人は、新たに生まれなければ、神の

国を見ることはできない。」と仰せになりました。人は新しく生まれなければ天の王国がどんなものかを理解することができず、またその霊的な面を明らかに知ることができません。キリストは次のようなことをニコデモに仰せになったのです。

「あなたが必要としているのは学識ではなく、内的な改革です。自分の好奇心を満足させるより、新しい心をもつことです。すべてのものを新しくするこの変化が起こらなければ、天よりの信任状を持つ者としてのわたしの権威、働き、使命について討論をしても何の益にもなりません」

真理を知り、人に与えること

キリストがニコデモにお与えになった教訓は、すべての教師、安息日学校の働き人、すべての青年、子どもたちにとつて大切な教訓です。信仰の理由をよく知ることがはたしかに大切なことです。けれども、再び生まれることがどのような意味を持つかという体験的な知識を得ることが、最も大切なことです。わたしたちの安息日学校に最も欠けているのは、生命の光です。教会は、真理が何であるか、他人にどのように真理を示したらよいかをイエスの足下で学んだ男女を必要としています。安息日学校の青年たちの教育者になるには、きよい人、謙遜な人、キリストの中に住む者とならなければなりません。

最大の必要

ニコデモは、たいして重要でない点について主と討論をしようと思ってきました。けれども主は真理の第一の原理を明らかになさって、ニコデモがまず必要としていることは謙遜な心、教えられる心、新しい心であることをお示しになりました。また、もし彼が神の国に入りたいと思うなら、新たに生まれ

なければならぬことをお示しになりました。安息日学校の責任の地位にある方々に、わたしが、「あなた方はイスラエルのつかさですが、再び生まれる必要がある」とあかしするなら、腹を立てて迷惑に感じる方がいるかもしれません。ニコデモは、キリストがイスラエルのつかさとしての彼の地位に尊敬を払わずに、このように話しかけられたことを不思議に思いました。彼は真理を受け入れる準備ができていませんでしたので、皮肉なことでキリストに答えました。『ニコデモは言った。「年をとった者が、どうして生まれることができましょう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるでしょうか。』」彼は、多くの人々と同じように、鋭い真理が良心を刺すとき、生まれつきのままの人間は、神の霊的な事柄は受け入れないことをあらわしました。彼らの中には、霊的な事柄に答えるものがありません。霊的なことは霊的にわきまえないからです。ニコデモは主のことばを理解できませんでしたが、イエスは短気を起こしたり失望したりなさいませんでした。そして主は、真理のみことばをもっとわかりやすくしようと思われました。イエスはおごそかな、静かな威厳をもって、神の真理を彼に納得させるような方法でみことばを繰り返して仰せになりました。『イエスはお答えになった。「はつきり言うておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。」』

生ける水の源として

真のクリスチャンは生ける泉であって、耐えざるめぐみの流れをいつも受けて、常に周囲の人々をうろおします。神と共に働く人々は、伝道の問題をあらわします。それというのも彼らは、他の人に与えることができるように、天の光と祝福をいつも受けているからです。心を開いて多く受ける人は、多く

与えることができます。

安息日学校で機械的な働きが多くなされているのに、教える者、教えられる者の魂に靈的な変化がほとんどあらわれてこないのは、なんと悲しいことでしょう。神の霊が人の心に働くとき、多くの人がまづ神の国と神の義とを熱心に求めるのを見ることがでしょう。そして地上の事柄はふさわしい位置におかれ、天のことは神の子らの愛の最上の対象となるでしょう。

（『安息日学校へのあかし』英文、七二ページ）

み事業に最も必要なもの

安息日学校の働きに携わる者の宗教的経験は、どんなものでしょうか。教師や生徒の心にかがやく真理の光は、キリストを知らない人にそれを分け与えるためのものです。救いのメッセージを、まだ天の賜物を受けようと心を開いていない人々に分け与えなければなりません。もしみんなが一つ一つの魂に重荷を感じるならば、救霊のためになされるあらゆる働きに、どんなに熱心な興味を示すことでしょうか。この魂のためにキリストは死んでくださったのです。わがまま、虚飾、娯楽に思いをよせることはなくなります。もしわたしたちが実生活費以外の金銭を全部、神のみ事業に投資することの重大さを自覚したら、娯楽や楽しみに費やす金銭はどんなに少なくなるでしょう。

神のみたまがあなたの心にくだるように祈りなさい。そうすれば、あなたはキリストのくびきをつけ、主の重荷を負い、イエスとまったく一つとなるでしょう。わたしたちの考えはあまりにも狭すぎます。

わたしたちは、み事業の必要に應じることができるよう、もつと大きい幻を持たなければなりません。み事業のために最も必要なものは、自分の責任を感じて献身した青年男女です。そして、天使と協力して道徳的に暗黒な世界に光を与える人たちです。

（『安息日学校へのあかし』英文、五七ページ）

真理の効果

心に植えつけられた真理の原則は、やがて正しい行いとなつてあらわれます。聖書には、男や女、青年や少年を、このたまたかの多い人生から天国まで導くために神がお与えになつた、心をさぐるような金言が書かれています。キリストの祈りの中に、「真理によつて、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です」(ヨハネによる福音書一七章一七節)とあります。聖書研究によつてどのようになり、向上しようとするどんな努力もむだです。両親には、安息日学校の教師と協力する重い責任が負わされています。

主が聖霊によつてその心に触れてくださった人がいます。神のめぐみが働きかけるとすぐ、その心は謙遜になり、従順になります。かしらになろうとする争いはやみ、誇りは消えてしまいます。罪ある者のためにその生命をお与えになつたキリストの愛を認識し、自分を高めようとする気持ちはまつたくありません。悔い改めた者は贖あがない主が謙遜なご一生をお送りになつたことを認めて、その足跡に従いたいと思ひます。そして伝道の精神が心の中に目覚め、その信仰に一致して、謙遜に思慮深く歩み、キリストに魂をみちびく働きに携わるまでじつとしていられません。彼はすべての人が尊い救い主の愛を知ることを望みます。

(『安息日学校へのあかし』英文、二五ページ)

すべての教師と生徒への質問

聖書を学び、人に無我の愛をあらわし、救い主の喜ばれることをすれば、我らの主の恵みと知識に成

長します。教師や生徒はみな、「わたしが生きるためにお亡くなりになった方のために何をすればよい奉仕ができるでしょうか」と自問してください。主は、「行つて失われたものを見出すまでたずねなさい」とお答えになつています。忍耐と興味をもつて、今と永遠のために決して失望しない決心をもつて、キリストの方法で働かなければなりません。またイエスが、彼の働きに献身した人の力を通して、偉大なことをなさるのであるということ信じなければなりません。この働きを完成するために、与えられた力を最善に用いて神と共に働くこと以上の特権を望むことができるでしょうか。

青年男女がまじめな心を持ち、敬虔と献身を養うとき、他の人に光を輝かすようになり、教会の生きた力となります。聖書研究のために一定の時間をきめ、悔い改めた青年も、悔い改めない青年もともに集め、ともに祈り、お互いの経験を話し合うことはよいことです。青年には自分の感ずるところを発表する機会がなければなりません。まず初めに、短い話で大いに勇気づけることができ、宗教経験に浅い初歩の青年をおりにふれて語るひと言、ふた言で助け、力づけることのできる思慮深い指導者を選ぶことはよいことです。そして、すこし経験ができたなら、青年たちに交互に指導をさせることにより、神によろこばれる働きの人を養成するようにしましょう。

〔安息日学校へのあかし〕 英文、四八、四九ページ〕

約束された知恵と力

誠実で正直な働き人のすべてに、その人の働きに応じて報いが与えられることを示して、はじめに働くように奨励しましょう。そして神の栄光だけをみつめて働きましょう。自分の弱さ、足りなさを知っているからといって、責任を負うことを避けてはなりません。神に献身し、謙遜になるならば、神は知恵と力をお与えになることができます。だれ一人なまけて働きを拒んだり、必要もないときに出すぎて

奉仕を強いたりすることがないようにしたいものです。

人のために働く義務

まことの働き人は、主のために働く機会を与えられた光栄を感謝しなければなりません。善をなす機会をうかがい、神から与えられた自分の才能をみがき、よき事に成功をおさめるように、毎日恵みを求めましょう。

これまでによいことをする機会を逃してしまつたら、へりくだつた心で反省し、これからは他人のため祝福となる機会を逃さないように注意しましょう。働きの機会がきていたのに、働き人がその地位についていなかったということが何度あつたことでしょう。ころみの中にもがいていた魂を助け、力づけるために言わねばならなかつたことばが語られませんでした。よく指導された個人的な働きがなされたら、魂を死から救い、多くの罪をおおうことができたのに、そうしようとする人がそこにいませんでした。怠つた者は、神の日にその怠慢をただされます。最も尊いものは、すべての罪をきよめるキリストの血です。キリストのあがないの愛を感じるとき、わたしたちは、善をなすすべての機会をとらえることができるようになるものです。神の栄光のために用いるなら、このような機会は非常に尊いものです。この世の宝をもとめる人々は、望んでいるものを得る機会をつねに機敏に見守っています。キリストの働き人は、魂を勝ち得るため、もつと熱心にならなければなりません。もしキリストの模範にならつて、自分の感化の及ぶ範囲にくる人々によいことをするならば、キリストの共労者となるのです。

安息日学校の教師また役員は、キリストのために神を愛しおそれる男女でなければなりません。また自分の地位の責任を自覚し、魂を見守り、自分の責任の下におかれた者に及ぼした感化に対していつか

神に申し開きをしなければならぬことを自覚する男女でなければなりません。

神の約束に対する信仰

わたしたちは信仰を増やさなければなりません。そうでなければ神の像に従って新しくされず、神のご要求を愛し、これに従うこともできません。偽りのないくちびるより「主よ、わたしの信仰を増してください。神の光をお与えください。あなたの助けがなければわたしは何もすることができません」と祈らなければなりません。謙遜な心をもって、神のみ前にひざまずきなさい。そして神の約束がしるされている聖書を主の前に開いて、その基礎の上に立ち、神と契約を立て、神のご要求に應ずることを約束なさい。そして、ただ約束以外何の証拠がなくても信じますといいなさい。これは少しも事実無根の推測ではありません。しかしもしあなたが熱をもって働かず、熱心で確信をもっていなければ、サタンの勢力に負け、不審と暗黒に落ちてしまいます。

神のみことばと約束は、わたしたちの信仰のただ一つの土台です。神のみことばをまことなもの、生きて話しかける声としてうけ、忠実にすべての要求に応じなさい。約束された神は忠実なお方です。神は安息日学校の校長や教師たちと協力して働いてください。わたしたちに与えられる祝福はみずからの信仰の弱さのために限られています。神はよろこんでお与えになります。主は力の源です。わたしたちは、へりくだって、心をきよく保たねばなりません。他人によいことをするために無我な心で努力するとき、神の愛とあわれみの証拠を毎日豊かに与えられます。わたしは、安息日学校の働き人が神のまつたき武具をまとい、イエス・キリストの忠実な兵卒として彼らの忠誠を示すように願うものです。神は、神の栄光のためになされたすべての働きにお報いになります。

集会をもつと靈的なものに

〔安息日学校へのあかし〕 英文、二六〇二九ページ

神のみむねを行うには、神のみことばを調べ、神の教理をよく知り、与えられたすべての才能を働かせなければなりません。勤勉に祈り、単純に、まごころをこめて、熱心に、神のために働かなければなりません。安息日学校の教師の役にたずさわる人は、飢えかわくように神の真理を求めなければなりません。それは、自分が責任を持つている者にこの霊を分かち合い、自分の生徒に真理を隠れた宝として探るように導くことができるようになるためです。生徒を偽善者にするような安息日学校にしたいくありません。なぜなら、そのような人は真の宗教の働きを押し進めることができないからです。ですから、希望している機械的な準備より、神のみたまが学校に与えられるように、神を求めることに、もつとみんなの注意をひきたいものです。たとえ何であつても、みせかけは安息日学校にふさわしくありません。もし神のみたまが教師や生徒の心をやわらげ、形づくらなければ、安息日学校の機械的な運営は何の価値もありません。

〔安息日学校へのあかし〕 英文、七六ページ

各個人を研究せよ

「すべての真の教え方においては、個人的な要素がたいせつである。キリストは、人々に教えるときには、彼らを個人的に扱われた。キリストは個人的な接触と交際によつて、十二弟子を教育なさつた。キリストは最もとうとい教えを個人的にお与えになつたが、聞く者がたつたひとりしかいない場合もよくあつた。オリブ山における夜の会合で、世人から尊敬されているラビに向かつて、あるいはサマリヤ

の井戸のほとりで、世人から卑しめられている女に向かつて、キリストは最もとうとい宝を示された。キリストはこの人たちの心と思いと精神がご自分の教えに向かつて開かれ、感動し、受け入れることをお認めになった。幾度となくキリストのもとに押しよせた群集さえも、キリストにとつては無分別な人間共の集まりではなかった。キリストはひとりびとりに直接に語り、ひとりびとりの心に訴えられた。主は聴衆の顔を見つめ、真理が魂にふれた証拠としてその顔色が明るくなり、感応の気配がちらつとすすめるのをごらんになった。するとキリストのみ心はその喜びの共鳴にうちふるるのであった。……

今日、教育の働きにおいては、これと同じ個人的な関心、各個人の発展についての同じ注意が必要である。表面は有望に見えない少年少女の中には、豊かな天分が与えられていながらそれをういていない者が少なくない。教育者の側の認識が足りないために、彼らの才能は隠されたままになっていたのである。表面はあらくれずりの石のように見ばえのしない少年や少女の中に、熱やあらしや圧力のどんな試練にも耐える貴重な素質が見いだされることがある。真の教育者は、自分の生徒がどんな者になるかということを念頭において、自分が働きかけている素材である生徒の価値を認めなければならぬ。彼はひとりびとりの生徒に個人的な関心を持ち、そのすべての能力を発達させることにつとめなければならぬ。正しい原則に一致するためにはどんなに不完全でもあらゆる努力を払うように奨励しなければならぬ。

『教育』二七三、二七四ページ

組の生徒に対する個人的働き

わたしたちの教師は悔い改めた男女であり、神に熱心に訴えることがどんなことであるかを知り、子どもたちの心が変わって神を愛し、神をほめたたえ、これに栄えを帰するようになるまで熱心に働き続

ける人でなければなりません。安息日学校の魂のために熱心に働く者はだれでしょうか。だれが、青年一人ひとりに接して、ともに語り、ともに祈り、個人的に彼らに訴え、彼らがキリストのよいかおりとなるためにイエスに心を服従させるようにすすめるのでしょうか。この働きの重要さを知り、しかもその重要さがほとんど理解されていないことを知るとき、私たちの霊はうめき、いつたいだれがこの重大な責任をひきうけ、責任を果たさなければならぬ者としてその魂を見守ることができるようかと呼びたくなるのです。わたしたちは地上でのキリストの代表者です。わたしたちは自分の使命をどのように果たしているのでしょうか。キリストの代表者は、毎日キリストと交わります。ことばを選び、話が恵みで味付けられ、心が愛でみたまわれ、キリストが死んでくださった魂を救うために、まじめな、熱心な、忍耐ある努力を惜しまない人です。愛する子どもや青年の救いのために最善をつくして働きたいものです。そうすれば、やがてイエスが「よい忠実なしもべよ、よくやった。あなたは小さなことに忠実だったから……主人と一緒に喜んでくれ」と仰せになることばを喜んで聞くことができます。この喜びとは何でしょうか。それは、人間という器とイエス・キリストの血によってあがなわれた聖徒を見ることです。

（『安息日学校へのあかし』英文、一五ページ）

家庭訪問

神と生きた関係をもち、神のみに熱心に祈らなければ、天よりの知恵をもって働き、キリストに魂をかち得ることはできないということを、わたしは、安息日学校の各部の教師や働き人に、神をおそれる思いをもって申しあげたいのです。神のための働き人は、謙遜を衣としてまとっていなければなりません。謙遜で素直な精神をもち、真理と正義をうやまい、これを愛している働き人はどこにいても主に

認められて祝福されます。もしあなたがこのような人であれば、生徒の救いのため特別に努力して彼らに対する心づかいを示すでしょう。愛にあふれた同情を持つて彼らに近づき、彼らの家庭を訪問し、神のことに關して彼らが経験したことについて語り合つて彼らの眞の状態を知り、信仰の腕で彼らをいだいて、父のみ座へと導くでしょう。

（『安息日学校へのあかし』英文、六八、六九ページ）

小羊を養いなさい

救い主はペテロに命じて「わたしの小羊を養いなさい」と仰せになり、のちにまた、「わたしの小羊を養いなさい」とご命令になりました。「わたしの小羊を養いなさい」と、使徒に向かつて語られたキリストのおことばは、すべてのしもべに向かつて言われたおことばです。イエスは、幼い者をあなどつてはならないと、弟子をいましめたとき、各時代のすべての弟子たちに命令なさつたのです。子どもたちに対するキリストご自身の愛と思ひやりは、彼に従う者のよき模範です。もし安息日学校の教師がこれらの小羊に当然感じるだけの愛を感じたら、もつと多くの子どもたちがキリストの群れに加えられるでしょう。適当な機会があるごとに、イエスの愛の物語を子どもたちにくり返して聞かせましょう。どの説教の一部にも、子どもたちのお話をいれましょう。キリストのしもべはこれらの子どもたちの中に、いつまでも変わらない友だちをもつてでしょう。そして教師のことばは「銀のほりものに金のりんごをはめた」ようになるでしょう。

（『安息日学校へのあかし』英文、一一三ページ）

子どもたちをなおびりにしてはならない

青年の教育や訓練のために幾分何かされてはいますが、まだ足りないところがあります。もつと多く

の青年を元気づけ、助けなければなりません。個人的な働きが必要な所でそれがなされていない所があります。青年の救いという重要な働きをなおざりにしているのは教師だけではありません。教会員も彼らの無関心や義務の怠慢を主のみに申し開きをしなければなりません。

子どもたちをなおざりにしては神のみさかえにはなりません。彼らを教育し、矯正し、忍耐をもって教えなければなりません。彼らにときおり注意や、奨励のことは与えなければなりません。彼らのためにほねおつて、祈りつつ注意深く働いてやらなければなりません。愛と同情に満ちた心は、不注意な望みもないように見える青年たちの心にふれるのです。〔安息日学校へのあかし』英文、一一四、一二五ページ〕

小さな群れをみちびいて

安息日学校の校長や教師は、しばしば祈らなければなりません。おりにかなって語ったことばは、子どもたちの心によき種となつて、その小さい足を正しい道に導くかもしれませぬ。けれども、間違つたことばは、彼らの足を滅びに導くことがあります。〔安息日学校へのあかし』英文、一二二ページ〕

幼子を集めなさい

片言まじりで話す幼子や、少年少女、老人を集めて、地上のすばらしい頭を持つている賢い人が理解できない神秘を解かせてごらんなさい。神のみことばの尊い真理は、天よりの教師の足もとで、心をひくくして学ぼうとする人のために与えられたものです。イエスはこの事実をお喜びになって、「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました」(マタイによる福音書二二章三五節)と仰せになりました。

狭い考えから自分の働きをやめたり、その働きを制限したりしてはなりません。「畑は世界なり」です。真理の教理は、神のみことばのどのページのペーじにもわかりやすくあらわれています。しかし敵は、自己満足している人の心を無知にする力を持っています。そのため、非常にわかりやすい単純なことばも理解することができないのです。子どもたちに真理を教えるようにしましょう。神のみことばの啓示をよろいとして彼らに着させてください。真理について聖書に書かれてある事柄を話すことができるようにしましょう。講壇の教師に、天の祭壇の火できよめられたくちびるをもつて、この世の知恵には賢明であっても天よりの知恵を理解できない人の心を燃やすことができる生命のみことばを語ってもらいましょう。「真理とは何か」という質問が、深い興味をもつて尋ねられなければなりません。わたしたちは神のご命令に応じて、光からさらに大きな光へと進まなければなりません。キリストの兵卒は不注意に、活動もしないでじつと立っているようなことにはなりません。つねに向上しなければなりません。神の摂理はわたしたちを一步一步と従順な道に導いています。両親や教師は、子どもたちが愛と尊敬をもつて神に服従しているか否かを見るために、この世の生涯で主が彼らをためしておいになることを彼らの心にはつきり印象づけなければなりません。この世でキリストに服従しない者は、永遠のみ国でもキリストに従いません。主は彼らを、イエスがご自分を愛する者のために備えられた天の邸宅に住むにふさわしいものにしようとしておられるのです。

『安息日学校へのあかし』英文、三二、三三ページ

子どもの宗教経験

宗教を持つとき、子どもたちはもつとよく勉強し、より忠実に仕事をします。一二歳の少女が、自分がクリスチャンであることを単純なことばで、次のように語っています。「わたしは勉強がきらいで遊

ぶことだけが好きでした。わたしは学校でなまけものでよくクラスを休みました。けれども今は、神さまを喜ばせるために、どの学課も一生懸命勉強しています。わたしは学校でいたずらをして、先生がわたしを見ていないと、仲間におもしろいことをして見せたものでした。けれども今は、神さまを喜ばせたいと思つて行儀よく学校の規則を守っています。わたしは家ではわがままでお使いに行くのがきらいでした。遊んでいるとき、おかあさんがお手伝いに呼ぶといやな顔をしました。けれども今は、心から喜んで何でもしておかあさんのお手伝いをしたいと思つています。おかあさんを愛していることをあらわしたいのです」

子どもたちが十分大きくなって、悔い改めて真理を信じるようになる時を何か未来のできごとのように、子どもたちに教えてはなりません。適当に教え導けば、小さい子どもたちでも罪びとであることを正しくわきまえることができ、キリストによつて救いの道を知ることができます。

〔安息日学校へのあかし』英文、一一二ページ〕

敏感な子どもの心

安息日学校の教師は、神の前に注意深く、祈りながら歩まなければなりません。そして、いつか申し開きをしなければならぬ者として働かなければなりません。キリストのために魂を勝ち得るよい機会が与えられているのです。若い人が悔い改めないでいればいるだけ、神の霊に対する抵抗が強くなります。歳をとればそれだけ、天のことに對して敏感でなくなり、宗教の感化に動かされなくなります。毎日サタンは、不従順な習慣のままに、また悔い改めない心のままにしておこうと働いています。こうしてクリスチャンになる可能性がうすれていきます。無関心な教師は最後にどんな決算書を提出しなければ

ばならないでしょうか。どうして道徳的おくびようが教師の心を閉ざして、青年や子どもたちの尊い魂の悔い改めのために払う適当な努力をいとわせるのでしょうか。どうして道徳的暗黒を追いやり、天の光を他の人にもたらす聖霊によい環境を心の周囲につくってもらわないのでしょうか。

〔安息日学校へのあかし〕英文、四四、四五ページ

キリストのよくなやさしさの力

主イエス・キリストは、ご自分の肉体の苦しみをもってあがなわれた人々に、限らない愛を持ち、彼らが悪魔や悪天使とともに滅びることなく、選ばれたものとして主張できるようにお望みになります。主は彼らを愛する権利を主張し、彼らを彼自身のものであると主張し、ことばではあらわすことができないほどの愛情をもって彼らをごらんになります。そして、主ご自身の義のよいかおりを、主を愛する者、すなわち主を信じる者にお与えになります。羊の群れに、忠実な羊飼いのやさしい指導に自己をまかせるといふ特権を認めさせ、感謝するように導くには、機転と知恵と人間的愛と、尊い羊の群れに對する清められた愛情が必要です。神の子らは、イエス・キリストのやさしさを実行します。

教師は、生命から生命へのかおり、かぐわしいかおりとして心の宮に住むキリストの愛によって、子どもたちを自分の心に結びつけることができます。また教師は、キリストが与えてくださった恵みによって、神の共労者、すなわち生きた人間という器として光を与え、向上させ、力づけ、道徳的けがれから魂をきよめる助けとなれます。そして神のかたちが、子どもの心にあらわれ、キリストの恵みによって性質が変えられるのです。

〔安息日学校へのあかし〕英文、七八ページ

クリスチャンの働き人をつのる所

クリスチャンの教師や生徒は彼らが受けている恵み深い特権について、神に責任があります。すなわち彼らは、神と協力して働き、天と地の前に神の救いの恵みの力をはっきりとあかししなければなりません。神のために働く人の能率や感化力は、その人の道徳的向上と純潔に正比例しています。真のクリスチャンの教師は、安息日学校の教課の重要なことを認めます。そして福音を理解するために彼らの理解力が開かれます。彼らは、真理の尊い光に興味を持つていない人々にその光を輝かします。みことばから輝く光を受けるには、心の戸を開かなければなりません。神のみことばを受けた生徒は、仲間の生徒の祝福となります。彼が、神のことに興味のない人々といつしよに忍耐強く、親切に、興味深く教課を研究し、その教えを単純にはつきりさせるなら、他の人々への祝福となります。最も助けを必要としている人々に働き人がよい方法で近づき、彼らをキリストに導きその魂の望みを満足させることができるとは、天よりの知恵を要します。

またその青年が悔い改めたら、何もしないでほっておいてはなりません。主のぶどう園で何か仕事を与えなさい。彼の能力に応じて彼を使ってやりなさい。主はすべての人に何か仕事を与えておいでになります。各方面で主と協力し、あらゆる方法を用いて安息日学校に關係している力を有用なものに成長させるようにしなければなりません。この世の人々はこの世の二人の指導者の旗の下に集まるのです。生命の君キリストと、暗黒の君サタンは、それぞれ自分の方に仕えなさいと青年男女に求めています。クリスチャンの教師や生徒の働きは、キリストの兵卒がつねに増すようにし、インマヌエルの君の血染めの旗の下に、すべての人を招かねばなりません。

『安息日学校へのあかし』英文、五〇、五二ページ

安息日学校は伝道者養成の要素である

伝道地においては、たとえ説教する賜物がどんなにあつても、実際の働きの面をなござりにしたり、人々にどのように働き、どのように集会を開き、どのように自分のなすべき分をなすか、また、どのようにして効果的に人に近づくかを教えたりしなかつたら、その働きはほとんど失敗であると言えます。また人々に自分の責任を自覚して自分の分を果させるために、安息日学校ではまだまだ多くのことがなされなければなりません。神は、神のために働くように彼らをお召しになります。そして牧師は、彼らの努力を指導しなければなりません。

（『教会へのあかし』英文第五巻、二五六ページ）

聖書研究のための訓練

戸ごとに聖書を開いて聖書研究をささげける大きな働きによつて、安息日学校はいつそう重要なものとなります。そして安息日学校の教師が、聖書を理解し、真理のことばを正しく伝えることのできる献身した男女でなければならぬことは明らかです。聖書研究をささげけることは神の定められた考えです。そして多くの青年男女を大切な働きをするために伝道地に送り出す道が開かれるのです。これは他の方法ではすることができません。

聖書のくさはりは外されましたから、戸ごとに運んで、すべての人の良心に示すことができます。まじめなベレア人のように、毎日自分で聖書をさぐり、真理が示されると、これが真理であるかどうかを知ろうとする人がたくさんいます。キリストも、「あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ」（ヨハネによる福音書五章三九節）

と仰せになりました。すなわち世の救い主イエスは、聖書を読むだけでなく、「これを調べよ」とお命じになりました。これは重大な働きで、わたしたちにまかされています。わたしたちはこれをなせば非常な益を得るのです。キリストのご命令に従うなら必ず報いがあります。みことばにあらわれた光に従って忠実に歩むならば、神は特別な恵みのしるしをお与えになります。

（『安息日学校へのあかし』英文、二九三〇ページ）

他の教会のクリスチャンに対する心づかい

安息日学校の教課を無味乾燥な、霊的でないものにしてはいけません。人々の心に、ただ聖書だけがわたしたちの信仰の基準であつて、人の言つたことや行いは、わたしたちの信仰や行いの基準ではないことを印象づけるようにしなさい。子どもに教えなければならぬ一つの大きな教訓は、わがままと強情が少しでもあつてはならないということです。キリストは罪人を救うために死なれたこと、また、わたしたちと同じ信仰を持つていない人々も神の目には尊い魂であり、その人々のためには特にやさしく忍耐をもつて働かなければならぬことを子どもに教えなければなりません。どんな人も軽蔑してはなりません。ファリサイ主義や自分を義とするようなことがあつてはなりません。

わたしたちが接触する人々の中には、わたしたちと同じ信仰でなくても、真のクリスチャンがたくさいます。この人たちは、自分が持つてゐる光に忠実に生活しています。彼らは、より多くの光を持ちながら、それにふさわしい行為を示して光を利用しない人よりも神に喜ばれています。

寛容の精神

ある時、弟子たちがキリストの名において働きをしている人を見つけました。ヨハネはこのことをイエスに告げて、「わたしたちに従わないので、やめさせようと思いました」（マルコによる福音書九章三八節）と言いました。しかしイエスは、その精神をいましめて「わたしたちに逆らわない者は、わたしたちの味方なのである」（マルコによる福音書九章四〇節）と弟子たちにお話になりました。

道・真理・生命は、イエスを信じ、これにならう者のことばや精神や行動にはつきりあらわれます。両親や教師は、真理を信じていない人に、非常にやさしい興味と同情を示さなければなりません。

ことばによっても、行動によっても、キリストが血であがなってくださった魂を決して傷つけてはなりません。もし年長者が冷たい、あらあらしい、同情のない精神をあらわすなら、子どもたちは同じようにします。そして彼らの性格は、神の像かたちに従って形づくられることはできません。神は、子どもや青年たちが伝道者になることを求めておられること、また彼らが利己主義や、狭いかたよった考えを持たず、広い考えと同情を持つていなければならないことを感じるように教育しなければなりません。もしすべての働きが愛をもつてなされ、クリスチャンの礼儀をあらわしているならば、彼らは魂を勝ち得る者となり、尊い収穫を主にもたらしめます。

なお高い標準を目指して

ただ一つ確かなことは、セブンスデー・アドベンチストの安息日学校にも、教会の働きにも、愛の精神が非常に欠けているということです。働き人も生徒も標準がたいへん低いのです。すべての人が大き

くされ、より高く清い心を持ち、清い雰囲気を吸わなければなりません。若い青年男女は、安息日学校や大学から出てきて、神のために宣伝者とならなければなりません。彼らは最上の教えと宗教訓練を必要とします。また彼らは知識に神よりの徳を加えなければなりません。それは困難な責任ある地位を占める資格を与えます。肉体的力の発達と同じく、知的、靈的発達も目に見えて成長しなければなりません。若者に、靈的だけでなく知的にも強く力ある者となるべきことを感じさせなければなりません。多くの者がこの力を得ていません。それは、その能力がないためではなく、確固たる忠実な努力が足りないからです。彼らは機会を最善に用いて、疲れ、また重荷を負っている人の責任を負い、または、分かち合うことができるように、世話人となり、重荷を負う者とならなければなりません。伝道の働きで一番大切なのは、働き人を養成し、すべての人に福音を伝えるために彼らを伝道地に送ることです。

〔『安息日学校へのあかし』英文、三二―三四ページ〕

第四部 教師とその働き

第四部 目次

すべての科学の最高のもの	81
教師の選択	81
必要な資格	83
均等な心と均整のとれた性格	84
衣服とふるまい	85
真の宗教の代表者	86
自ら省みること	87
教師の感化	90
不従順な者への忍耐	90
人に対する寛容	92
自己向上	92
能力を増すための準備	94
わたしたちの型は人間ではなくキリストである	95
せまる愛の力	96
単純と同情	97
新たなテーマを提示すること	98
改心させる宗教の力	99
表情はその性質をあらわす	100
教課を実際的にすること	102
教課補助の使用について	102
あやまりを指摘する	103
霊的怠惰	104
クラスでの論争	105
教課を読む	105
ただ表面だけを	106
長い退屈な話	106
神と共に働くことはどんなことであるか	107
自己を示そうとする誘惑	109
心の全部をささげた奉仕の働き	109
救霊は最高の関心	110
キリストを高くかける	111
クラスのすべての人を悔い改めさせる	112
最高の喜び	113

第四部 教師とその働き

すべての科学の最高のもの

あらゆる伝道の働きにおいて、イエス・キリストと、その十字架にかけられたことを教えることは、限りある人間の心で理解できるより、はるかに超えることを意味しています。「彼が刺し貫かれたのはわたしたちの背きのためであり、彼が打ち砕かれたのは、わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによつて、わたしたちに平和が与えられ、彼の受けた傷によつて、わたしたちはいやされた」(イザヤ書五三章五節)。「罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によつて神の義を得ることができたのです」(コリントの信徒への手紙二・五章二一節)。これがわたしたちの働きの主題となるものです。だれでも、もし自分は安息日学校または普通の学校で教育という科学を教えることができると思う人は、まず神をおそれることを学ばなければなりません。これこそ知恵のはじめであつて、そのとき彼は科学中の最高に位するこの科学を教えることができるようになります。

(『キリスト教教育の基礎』英文、二七二ページ)

教師の選択

青年や子どもたちに与える教訓は、表面的なものであつてはなりません。教師は真理を擁護して立つものとして、標準を高くかかげなければなりません。働き人として宗教経験に大きい欠陥を持つ青年男

女を用いることほど、安息日学校に害を及ぼすことはありません。……安息日学校の標準をさげてはなりません。教師としてその人の模範や感化がわざわざいになるよりむしろ祝福となる人を子どもたちに与えねばなりません。子どもたちに、常にクリスチャン生活の特徴である徳、純潔、神聖ということを強く教えねばなりません。この点について、彼らの考えを混乱させてはなりません。この事に関して誰も無知、無分別に行動しないようにしましょう。過去の生活が良心や誠実さに欠けていることを示し、道徳的価値がないような男女を口や筆で奨励してはなりません。彼らは頭がよく、機知にたけ、賢いかもしれませんが、もし彼らの心が神の霊に満たされていないで、正直な性質を持っていないなら、彼らの感化力は、この世的であつて、天に向かつていないので、どこにいて、何をしても害を及ぼすのです。

わたしたちは罪に敏感で罪惡を憎む男女、神の働きの必要を見分ける霊の眼をもち、献身して無我の精神をもつて働き、イエスの影にまつたく自分を隠して働く人を大いに必要としています。また実際に敬虔な生活を送り、するどい良心をもつて、危険を感じる事ができる、神の喜ばれる青年男女を必要としています。また、自分を高めず、自分の魂の欠けたところを敬虔の衣の下に隠そうとせず、自分の弱さ、また自分の品性の不完全なことを感じて、イエス・キリストによりすぎる人を必要としています。自信をもつて自分のやり方には非難される余地がないと思う人は、非常に不完全な働きを示します。使徒は、「なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです」と言いました。自分の弱さを感じながらも、彼は信仰によつて、イエス・キリストとその恵みにすがろうとするのです。……

キリストの、人を変える恵みによつて、死より生命に移つた安息日学校の働き人は、自分の心に神の霊が深く働いていることをあらわします。自分の生活は楽しみを愛し、誇りと虚栄を愛していながら、人を指導しようとする人、清い道へ魂をみちびこうと見せかける人は、不忠実なしもべです。彼らの生

活はその告白と一致していません。神は彼らの感化を喜ばれません。彼らには徹底的な悔い改めが必要です。彼らの心は、つまらないもので一杯になっているので、高尚な真理が入る余地がありません。心の宮が洗練され、清められ洗われなければなりません。なぜなら、神でなくサタンが心の中に住んでいるからです。

責任のある立場に男女を置くことには、よほど注意が必要です。その人の過去の生活、または人となりをある程度知っていなければなりません。わたしたちが公言する真理のきよい性質と一致しない感化を与える教師を増やすより、神をおそれる働き人の下にクラスの人数を倍にしたほうがよいというのは、彼らは人を墮落させる感化を及ぼすからです。

〔安息日学校へのあかし〕英文、二二―二六ページ

必要な資格

教師を選ぶ義務を持った人は、よく注意をし、よい感化を与えない人に教師になるようにすすめてはなりません。教師の態度はどうであるか、時間を守っているか、清潔できちんとしているか、これは十分に注意されなければなりません。なぜなら、これらの性質は教師にはなくてはならないものだからです。もし教師みずからが時間励行、清楚、落ち着き、秩序の模範でなかったら、どうしてこれらの必要なことを行うように命じることができのでしょうか。もし教師が、時間がきてもそこにいないで、クラスを勝手に放り出しておいて、息せききって時間に遅れてかけつけるならば、人々を無秩序に導く感化を与えます。

〔安息日学校へのあかし〕英文、九五、九六ページ

均等な心と均整のとれた性格

均等な心と均整のとれた性格は、各方面の教師に必要です。人の心をどう処理してよいかわからない青年男女の手に、この仕事を与えてはなりません。彼らは自分の心と性格を支配する恵みの力をほとんど感じていないので、まず無心になって、クリスチャン経験におけるまったく新しいレッスンを学ばなければなりません。彼らの心も性格も、また、彼らの考えさえも、イエス・キリストの訓練をうけ、イエス・キリストに従うことを学んだことがありません。

子どもや青年たちの中には、いろいろな性格があります。その中の多くは、家庭で適当な訓練を受けていません。かわいそうなほどなおざりにされてきました。ある人は放任され、ある人は欠点を指摘され、落胆させられています。彼らは気持ちの良い快活な気分を示してもらったこともなく、ほめてもらったこともありません。両親の足りない性格が遺伝して、また、その足りない性格によって与えられた訓練が、人格を作るのに妨げとなっています。品性建設にしっかりと材料が使われていません。

これらの青少年の教育ほど大切な働きはありません。主のぶどう園のこの分野で働く教師は、神の聖霊に服従することによって自分の気分や感情を支配し、落ち着きを保つことをまず学ばなければなりません。彼らはかたよった経験の持ち主ではなく、均等な心と均整のとれた性格を持っている証拠を示さなければなりません。それは彼らが良心的なクリスチャンとして、彼ら自身大教師の下にあつて信頼されるためです。

（『キリスト教教育の基礎』英文、二六六、二六七ページ）

衣服とふるまい

安息日学校の教師は、みなキリストに従うものでなければなりません。キリストの弟子に属する者であることを立証せず、クリスチャンであることを言行一致で示さない人は、安息日学校の教師として招いてはなりません。まず、だれかが彼らに、神を愛しこれをおそれる土台となる原則から教えなければなりません。キリストは「わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである」と仰せになりました。個人的にキリストの力を経験しない者の教えには、何の価値があるでしょう。このような人に安息日学校の組をもたせるのは非常に矛盾したことです。しかし自分が仕えている救い主を否定するような衣服を着たり、そのようなふるまいをする教師にクラスを持たせたりするのは、もつと悪いことです。

安息日学校で教える人は、みことばをただ聞くばかりでなく、行つて神の真理によつてその心があたためられ、生き生きした人でなければなりません。彼らは枝が幹につらなつて養われるように、キリストにあつて養われなければなりません。天よりの恵みの露がかかり、彼らの心は尊い木のようになり、つぼみが開いて、神の園の花としてよいかおりをただよわせなければなりません。教師は神のみことばを忠実に勉強しなければなりません。そしてキリストの学校で毎日の教課を学んでいることをあらわし、世の光であられる偉大な教師キリストから受けた光を他の人に取り次ぐことができなければなりません。教師は自分の責任を感じ、向上するすべての機会をとらえ、魂の救いのためよい結果をもたらすような最上の奉仕をすることができるようになければなりません。教師も生徒も共に神のみことばを熱心に、忍耐をもつて学ぶことの重要さに目覚めなければなりません。彼らは神とよく交わらなければなりません。そうすれば、つまらない誘惑に支配されることもなく、怠惰や冷淡を巧みに防ぐことができま

す。クリスチャンの働き人と公言する人に、怠慢、放縦は許されません。

〔安息日学校へのあかし〕 英文、五四、五五ページ〕

真の宗教の代表者

真に悔い改めた安息日学校の働き人は、世の習慣行事のまねをしないで、道徳的に独立しています。彼は自分が公言するところに一致した模範を示し、世から出てきて、世の精神や流行から離れた地位を保ち続けます。彼は、キリストと一つになろうとする確固とした目的から少しも動かず、誇りや利己的な楽しみにふけず、本能や虚栄心を満足させることをしないで、忠実に神に忠誠を尽くし、その精神においても、ふるまいや衣服においても模範となります。

安息日学校の役員方よ、あなた方はキリストの標準または世の標準のどちらに到達しようとしておられますか。あなた方は「わたしは十字架をとってイエスに従いましょう」と言われますか。人を説得するのにイエスのやさしさを養い、勧告するのにイエスの熱心さを養うようにして真理の崇高な原則の実例となり、生活にも性格にも、キリストの宗教がどんなことをあなた方のためになしたかをあらわしてください。「主イエス・キリストを身にまといなさい。欲望を満足させようとして、肉に心を用いてはなりません」(ローマの信徒への手紙二・三章一四節)という使徒のすすめに耳をかたむけるべきではないでしょうか。

青年に純粋な宗教を見せる必要があります。そのような宗教は、生きた力で、すべてにゆきわたる感化をもっています。真心からの献身からは、喜びと清新さとたえざる成長がわき出ます。青年たちをキリストにひきつけようとするなら、これこそ彼らのながめるべき宗教です。このような宗教は、他の魂

に聖なる印象をのこし、それを持つている人は、心もからだも、神の清新にする恵みによつて新たにされます。

安息日学校の他の学校の教師たちよ、一年間これをこころみてごらんなさい。そして「主はわたしのために驚くべきことを行われた。多くの魂は天の倉のよい収穫として主のもとに導かれた」と言えるかどうかためしてください。

（『安息日学校へのあかし』英文、四五、四六ページ）

自い省みること

主は、安息日学校の教師が自ら神の愛の中にいるかどうかを省みるようにお望みになります。神のために働く人はみな、その性格をさぐる試練やこころみを受けるものです。教師は常に学び、もつと徹底的な理解と神のことについての正しい判断を持つように努力しなければなりません。教師は自信を持ちすぎて、自分の欠陥を自覚しないようになり、考えが狭くなつて、広くなることも伸びる余地もなくなり、自尊心が強くなる危険があります。そして彼らは次第に能力を増すのでなく、自負心を増すばかりです。彼らは自分たちの心に、また経験に、イエスをとり入れられません。教師は自分の能力を養成し、話し方をみがいて、はっきりした発音でわかりやすく話さなければなりません。知的な力が養成されなければなりません。その力は、わたしたちの信仰の教理を説明することもできないほど弱く、思考力は混乱したままであつてはなりません。もしその教師がまじめで敬虔であり、純潔な人で自分を否定し、喜んで不便なことも耐える人でなかつたら、この重大で大切な働きにたずさわることとはできません。自分の力、自分の精神をためすのは、教師の義務です。そしてよく調べて、神の前に偽りのない自分の立場を知らなければなりません。……

教師の模範

教師の責任を引き受けた人で、もし十分に資格がなくても自分の地位の責任を感じる人ならば、最善の努力を払って学びます。敬虔、快活、確固とした心を養います。教師の態度は、自分の組が神に対して厳粛で、敬虔な心を持つように教育される性質のものでなければなりません。神についてキリストについて、またその苦難とよみがえりについて実際の事実として語るとき、その思想をわかりやすく示すと同時に、語ることは彼らの心を地上のものから引き上げ、あたかも限りないお方の前にいるように感じさせるものでなければなりません。

安息日学校は、表面的な話をするだけで、天よりも高く、この世界よりも広い永遠の厳粛な真理を、べらべらとかるがるしい気持ちで話すところではありません。クラスの行動は、生徒たちの模範となる教師の性質をあらわします。もし彼らが無作法でその態度を改めず、敬虔な態度がなかったら、そこにはその原因があります。そしてそれを徹底的に調べる必要があります。

敬虔で、しかも快活であること

教師は敬虔でありながら、快活でなければなりません。そして軽率な態度をとることなく、神の深いことを探求する者でなければなりません。気取っては自然ではありません。クラスの人たちが、宗教は現実であること、また大変望ましいものであるという印象を受けるようにしたいものです。なぜなら、宗教は平和と安心と幸福をもたらすものであるからです。クラスの人たちが、宗教は冷たい、同情のないものであるという印象をうけないようにしなければなりません。内に臨在されるキリストの平和と栄

光が顔から輝いて、主の愛を語り、くちびるが感謝と賛美を語るようにしたいものです。

神と交わる習慣のある人は、神の光が顔に反映するようになります。子どもは、雲がかかって悲しみに薄暗いのをきらいます。彼らの心は、明るさ、快活さ、愛情にすぐ答えます。教師は意志が強く、落ち着いた人でなければなりません。厳しすぎたり、強要的だったり、独断的だったりしてはなりません。教師には威厳のある権威が必要で、それがなければ成功する教師の資格がありません。子どもたちは教師の弱点や性格の欠点をすぐ見つけるもので、教師のふるまいは印象を残します。もし子どもたちがあなたの性格の中に模範を見つけなければ、あなたが話すことばは、子どもたちに正しい型を与えることはできません。毎日の生活にあらわされた正しいクリスチャンの人格は、クラスの人の人格を築き上げるために、あなたが教えるすべての教え、また、しばしば繰り返される教えよりはるかに力あるものです。神は、個人個人を人類という大きなつながりと結びつけられたので、人はその接触する相手から態度やふるまいや習慣などを知らず知らずのうちに身につけています。神は、主のあがなわれた者が、たとえそのいと小さき者でも、歩むべき道から外れることを願っておられません。教師が実際の経験をもち、イエスのご品性と愛がその人の中にあらわされるように願っておられるのです。

安息日学校はただ子どもたちを喜ばせ、おもしろがらせ、楽しませるだけの場所ではありませんが、正しく行われるなら、おもしろい楽しい場所にすることができます。とにかく安息日学校は子どもや青年たちを教育する場所であり、聖書を開いて、少しずつ、わかるように教える場所です。また真理の光が伝えられる場所です。安息日学校のすべての教師が教師の資格を備えているとは限りません。すべての教師に、もういつそう学ばなければならぬと感じていただきたいものです。そして、もつと多くのことを知らなければならぬこと、自分が扱う生徒をもつとよく知らなければならぬこと、知識を与

える最上の方法をもつとよく知らなければならぬこと、また、自分が最善をつくして学んでも、まだまだ足りないことを感じていたがたいのです。

『安息日学校へのあかし』英文、九五〜九八ページ

教師の感化

他人に及ぼす感化は、わたしたち自身の性格と経験によって決定されます。他人にキリストの恵みの力を信じさせようと思うならば、わたしたち自身の中でその力を知っていなければなりません。わたしたちが魂の救いのために伝える福音は、わたしたち自身の魂を救った福音でなければなりません。キリストを個人的な救い主として信じる生ける信仰のみが、この懐疑的な世界にわたしたちの感化を及ぼすことができます。もし罪人を急流から救い出そうとするならば、わたしたちの足がキリスト・イエスという岩の上につき立っていなければなりません。

キリスト教のしるしは、外面的なしるしではなく、十字架や冠をかぶることでもありませんが、人と神の一致を明らかにするものです。品性の変容にあらわれた神の恵みの力によって、世は、神がその独り子をあがない主としてつかわされたことを確信することになります。人間の魂をとりかこむ感化のうち、無私の生活ほど大きな力を持つたものではありません。福音のために、愛にあふれた愛すべきクリスチャンほど有力な議論はありません。

『安息日学校へのあかし』英文、一一五、一一六ページ

不従順な者への忍耐

わたしたちは人の心を読むことができないことを忘れないでください。間違つたように見える行為の

動機が何であつたかわからないのです。また、正しい教育をうけていない人が多くいます。彼らの性格はねじ曲げられ、かたくてふしだらけで、何から何まで曲がつていように思えます。しかしキリストの恵みはこれを変えることができます。ですから、彼らを決して見捨ててはなりません。さらに、「あなたはわたしを失望させてしまいました。もうこれ以上何もできません」と言つて、彼らを失望させたり絶望させたりしてはなりません。当然言つてもよいと思つて、とつさの場合に怒つて言つた一言が、彼らとわたしたちを結びつけている感化の糸を切つてしまうことがあります。

矛盾のない生活、辛抱強い忍耐、怒りによつて動かない精神は、常にもつとも決定的な議論であり厳肅な訴えです。機会と有利な立場がまだあなたのものであるなら、このことをよく考えて、いつも賢い、注意深いやさしい教師であつてください。

蠅ろうにはつきりした強い印を押そうと思ふなら、急いであららしく押しはけません。柔らかい蠅の上に注意深く印を置いて、静かに、その形がかたくなるまで押し続けるのです。人の魂も同じように扱わなければなりません。クリスチャン感化の継続は、その力の秘訣で、これはあなたがいかに忠実にキリストの性格をあらわすかによります。あなた自身の経験を話して、あやまつた人を助けてください。あなたが重大な間違いを起こしたときに、同僚の人の忍耐、親切、援助がどんなに勇気を与え、望みを与えてくれたかを示すのです。

矛盾した人、理不尽な人、価値のない人に対する親切な思いやりのある行為の感化は、裁きの日まで、どのような影響を与えるか、知ることはできません。聖なる信頼に対する忘恩や裏切りにあうと、わたしたちは侮辱や憤りをあらわしそうになります。悪いことをした人は侮辱と憤りを受けることを予期し、覚悟しています。しかし、親切に忍耐することは彼らを驚かせ、しばしば彼らのよりよい衝動を目ざめ

させ、より高尚な生活をあこがれるようにさせます。 (『安息日学校へのあかし』英文、一一六、一二七ページ)

人に対する寛容

人生のあらゆる交わりには、自制、忍耐、同情を用いる必要があります。わたしたちはそれぞれ、その性質や習慣、教育が違うため、物の見方も違います。そして各自、異なつた判断をします。真理の理解も生活行動に関する考えも、すべての点において同じではありません。ある特別なことで二人の経験がすべての点で同じということはありません。一人の人の試練は、もう一人の人の試練ではないのです。一人の人には軽くみえる義務が、もう一人にとつては一番難しい、困つたものであるかもしれません。人間の本性は非常にこわれやすく、無知で、誤解しやすいので、各自は人をはかるとき、深く注意しなければなりません。わたしたちの行為が、他の人の経験に及ぼす影響を知ることができません。わたしたちが行つたり言つたりすることは、瞬間のことのように思われますが、眼が開かれれば、善か悪かの重大な結果がそれにかかつていることがわかるはずです。 (『安息日学校へのあかし』英文、一二七ページ)

自己向上

若者のまわりにはあまりにも安価な性格やにせ物があふれているため、教師のことば、態度、行いがいつそう高尚で真実をあらわすものでなければなりません。子どもたちは、虚飾、弱点、欠点にすぐ気がつきます。教師が生徒の尊敬を受けるには、生徒に教えようとしている原則を、自分自身の品性で明らかにする以外に方法はありません。……

しかし教師の有用さはその人の持つてゐる知識の実際の量より、その人が目指す標準によります。真

の教師はぼんやりした考えや、怠惰な心、不明瞭な記憶に満足しません、彼はつねに高い知識を求め、よりよい方法を求めます。彼の生涯はつねに成長しています。そのような教師の働きには、生徒の目を覚まし、感動を与えるような新鮮さを生かす力があります。……

物事をすみやかに見抜き、善をなす機会を逃さない教師が必要です。熱心と威厳を結合し、統御する能力があつて「よく教え」る人、また感動を与えることができ、活力を目ざめさせ、勇気と生命を与える教師が必要です。

教師は教育を受ける機会に恵まれなかつたために、望ましいだけの高い学問的な資格をそなえていないかもしれません。しかし、もし彼が人の本性を真実に見抜くことができ、自分の仕事が本当に好きで、教師の働きの重要なことを知り、向上する決意を持っていて、熱心に忍耐を持って働くなら、彼は生徒の必要を知り、その同情ある進歩的精神によつて、自分が生徒に前進向上させたいという願ひにくるようにならなければならない。……

教師が取り扱う子どもや青年は、それぞれの性質や習慣や訓練に大きな開きがあります。ある者は定まった目的もなければ、決まった不変の原則も持っていません。彼らは自分の責任に、また自分の可能性に目ざめなければなりません。

自分の働きの機会と特権を見のがさない人は、自己向上のため熱心な努力を払い、何物にも妨げられません。彼は、優秀な最高の標準に達するまで、どのような骨折りも惜しみません。生徒にそうなつてほしいと思うすべてのことに自分にならうと努力します。〔安息日学校へのあかし〕英文、一一八、二九ページ

能力を増すための準備

神を何よりも愛し、隣人を自分のように愛する献身した教師がいなければなりません。主は、教師が安息日から安息日へとその能力を増加する十分な備えを用意されているので、教師は現在と永遠に關して、効果的に教えをなすことができません。わたしたちは安価な、表面的な経験の持ち主ではなく、キリストの学校で毎日学ぶことによつて深い内なる敬虔さを備え、キリストが教えてくださった尊い教えを分け与えることのできる生きた敬神の念をもつた青年男女を学校に必要としています。

千篇一律の形式に従つて満足している人は、的をはずし、安息日学校の教師がしなければならぬ働きに失敗します。神の働きのこの部門にたずさわり、本当の意味でのクリスチャンとなり、神を畏れつつ神から与えられた働きをなし、キリストが命をかけて救われた魂のために愛を持つて働くならば、彼らは神の協力者となるでしょう。

模範であるべき教師

教師は精神においても、ふるまいにおいても、衣服においても青年の模範でなければなりません。彼らは飾り気のない単純な衣服をまとい、子どものように謙遜でありながら、純粹で高潔でなければなりません。なぜなら、彼らは神のみ前に立ち、生徒たちにキリストのご品性をあらわすものだからです。献身の精神とやさしい心で自分に託された人をながめ、イエスが「あなたがたはつつしんでこの小さき者の一人をもあなどつてはならない。わたしはあなたがたに言います。彼らのみ使いは天にいて、天にいますわが父のみ顔をつねに見ているのです」と仰せになつたのを思い出しましょう。

もし教師たちが天の事柄を人の魂にあらわすのは聖霊であり、キリストの精神をもって働いているときに、この天よりの代理者が人の心に神の真理を印象づけることを心に覚え、天の使いが彼らのまわりにいること、彼らが聖きよい所に立っていることを認めるなら、安息日学校でもっと多くの効果的な働きがなされるに違いありません。教師たちが霊的な恵みや力に欠けることもなくなるでしょう。なぜなら、彼らは神の臨在を自覚し、自分たちは人間という代理人にすぎず、彼らを通してキリストが天の光を分け与えてくださることを理解するからです。彼らの働きは熱心と力でみたまされ、み霊が彼らの弱さを助けてくださることを知るでしょう。

〔安息日学校へのあかし〕英文、四一〜四三ページ〕

わたしたちの型は人間ではなくキリストである

安息日学校の教師は、わたしたちの主であり、救い主であるイエス・キリストの知識に成長しない人の模範にならわれないようにしましょう。たとえ聖壇にある教師がそのような模範を示してもならつてはなりません。神の協力者として受け入れられる人は、他の人の口調や態度や考えをまねてはなりません。神から学び、天の知恵を受けなければなりません。神は各自に同じように理性と知力の賜物をお与えになりました。自分の能力に応じて与えられた賜物を人々のために用いるべきです。主はそれがどの働き人でも、その人が尊敬している他人の単なる影になることをお望みになりません。教師は、有限であり、誤りを犯す人間にならうことなく、キリストの身のたけにまで成長しなければなりません。あなたは「イエス・キリストの恵みに成長」しなければなりません。どこに恵みがあるでしょうか。それは天よりの模範であるキリストにだけあります。

キリストをながめて、天の模範にならいきましょう。すべての働き人は神のご計画に調和するために全

力を尽くさなければなりません。安息日学校で教師の下におかれた人たちは、神がキリストに従う者にお与えになる知恵と経験を必要としています。教師がキリストの謙遜と柔和を学んで真の教師となり、生徒たちをキリストに導き、今度は彼らが大きな収穫の地で忠実な伝道者となるようにしましょう。

〔安息日学校へのあかし〕 英文、七六、七七ページ

せまる愛の力

救霊の働きにおいて、魂に関する同情が非常に欠けています。魂が神と和解するために神がわたしたちに求めておられる、懇願し、説得し、ひきつける力が見られません。もしわたしたちがイエスにあるとおりの真理を教えるなら、宗教はわずらわしいものではなく、むしろ喜びとなるに相違ありません。教師たちは、快活と感謝とやさしさにあふれた心、キリストのようなあわれみの心を持ってその働きに打ち込んで、生徒たちの心を無我の愛の精神で満たさなければなりません。これが天に満ちている精神です。安息日学校の働き人は、すべての誇り、自己愛を捨てて、心から誠実にみことばを行う者とならないでよいでしょうか。「ただ、あなたがたはキリストを着なさい。肉の欲のために備えを」せず、純粋な信仰はキリストに信頼し、心から服従し、彼が行かれるところには、どこへでもついていくことを承諾します。よく指導された働きの結果として、これが成就するとき、主のために尊い収穫として多くの魂がもたらされます。

両親や教師は、子どもの小さいころから、救いが大切であることをその心に印象づけるようにしなければなりません。そして子どもたちに、神は天の父であること、神の愛は独り子をお与えになったことよって示されていること、そして、世の救い主はわたしたちの世界に来られ、わたしたちが生きるた

めに死なれることによつてその愛をあらわされたことを教えなければなりません。愛とやさしさをもち、これらのごことを教えるなら、若者の心にいつまでも消えない印象を残します。太陽が輝くとき、ものの像や物体が鏡の面から反射するように、これらのテーマもキリストの愛に照らされるとき、人の心になつてくるのです。

（『安息日学校へのあかし』英文、一〇〇、一〇一ページ）

単純と同情

聖書を開いてキリストのような単純さで青年や子どもたちに教課を教えるのは、とても大切なことです。教師は難しい、気取つたことばを一切用いないで、単純で若い人の心がすぐわかることばを用いなければなりません。

しかし成功ある教師となるためには、教える方法を単純にするばかりでなく、安息日学校に同情と愛を織り込まなければなりません。子どもたちはこの愛を認め、これに感化されます。男も女も、ただ成人した子どもにすぎません。わたしたちは本当の同情や愛を、ことばや表情にあらわしているでしょうか。天よりの教師であるイエスは、弟子たちに対するご自身の愛を保証なさいました。主が人間の性質をおとりになつた目的は、ご自分がおつくりになつたものに救いと幸福をもたらすことによつて、神のあわれみと愛と恵みを人々に示すためでした。この目的のために彼は死なれたのです。主は、最もやさしい同情のことばを語りながら、彼らが求め考える以上にご自分が「はるかに豊かに」行うことを意識して喜んでおられました。主は、毎日弟子たちの前に人類の祝福となる働きをなし、墮落した人類に対する彼の柔和と愛をお示しになりました。彼の心はつきぬ愛の泉であつて、切望している心に生命の水を与えることができました。

イエスが語られたとき、その教理にみんな驚いてしまいました。なぜなら、彼が学者のようにならず、権威あるもののお教えになつたからです。学者たちは自分たちの学説を作りあげるために苦勞しましたが、その学説をささえるためにも苦心しなければなりません。彼らは作り話や子どもらしい伝説をくり返すことによつて人の心に感化を及ぼそうとして苦心していたのです。公衆を教える最高の模範ですら、おもに意味のない儀式の繰り返しと、とるに足りない意見の繰り返しでした。イエスは、最高の理想や考え、また崇高な真理を非常にわかりやすい単純な方法で順を追つて説かれたので、「多くの人は喜んでイエスの話を聞いた」のでした。安息日学校でもこのような教えがなされなければなりません。光、天来の光は驚くべき教師イエスより反映しなければなりません。そして子どもや青年の心は、彼のご性格と愛の栄光によつて輝かされなければなりません。このようにして子どもたちは「世の罪を取り除く神の子羊」にまで美しい単純さの中に導かれます。(『安息日学校へのあかし』英文、三九、四〇ページ)

新たなテーマを提示すること

魂は、高価な実が満たされている宝庫のようなものでなければなりません。講壇で、安息日学校で、祈禱会で、また社会でそれをもつて人を照らす新たなテーマがなければなりません。わたしたちは完全な教師であるイエスの模範に従わなければなりません。イエスは、生ける神のご性質を人にあらわすことによつて、彼らを教育されました。彼は「永遠の生命とは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたがつかわされたイエス・キリストを知ることです」と仰せになりました。これは青年の心に強い印象を与えるべき重大な問題です。なぜなら、彼らが世的なものを第二にして、永遠の興味に導かれるためには、父としての神の性質を知らなければならぬからです。神のご性質をながめることによつて、彼

らの心には他の人にも真理の美と力を分け与えたいという強い望みがおこってきます。

改心させる宗教の力

人の心を取り扱う人は、男も女も子どももみな、真理が心の中に働き、それがその精神に、ことばに、品性に、行動にあらわれるようになってもらいたいものです。真理の清める力は、安息日学校で教えるすべての人や、私たちの機関で役職についている人を導いて、「わたしはわたしが信じている方を知っている」ということができるような経験をもたらずはまずです。イエス・キリストの宗教には、変化させる力があります。そしてわたしたちが世の光となることができるようにもつと謙遜になり、もつと熱心に生ける信仰をもつて、この力がわたしたち自身に見られなければなりません。自己が低くされ、キリストが高くあげられなければなりません。神の道徳的ぶどう畑で何か仕事をまかせられている人が、なぜこのようにたやすく傲慢になってしまうのでしょうか。

心を探る質問

人はだれでも、責任ある地位そのものが人物を高めると思うのはどういうわけでしょうか。だれでもまったく贖^{あがな}いの犠牲のおかげをこうむっているのに、なぜ自己満足に陥るのでしょうか。なぜある人はやさしさに欠け、また心の用い方が足りないのでしょうか。それは、自己満足している人たちがまだ岩の上に落ちて砕けていないからです。彼らが神への信頼、熱心な心からの悔い改め、熱心な祈りに欠けているのはこのためです。ですからすべての教師は次のような質問を試みたら良いと思います。「わたしは信仰に入ってから聖霊を受けたことがあるだろうか。キリストをわたし個人^{個人}の救い主として受け入

れただろうか」と。この質問に厳粛に答える必要があります。

時は金なり

もし神の働きにたずさわっている人がクリスチャンであるならば、そのことはその働きによつてわかります。彼らは自分に接触する人にキリストを示すでしょう。安息日学校の教師は重要でないことに時間を用いませぬ。彼らは一瞬一瞬が金であるということ、また、主の園で全力を尽くして働きに従事しなければならぬことを知っています。キリストは、天の聖所で一瞬一瞬めぐみのみ座の前にご自身の血を示して、わたしたちのために執り成しをしておいになります。このことを深く心に刻むとき、各瞬間の価値を理解することができません。イエスはわたしたちのために執り成しをするために生きておられます。しかし不注意に過ごした瞬間は決して取り戻すことはできません。教師も生徒も、イエスが天の聖所で重大な働きに従事しておられるというこの偉大な事実を考えてみましょう。そしてもしあなたがキリストのくびきを負い、キリストの重荷を負うならば、生ける頭であるキリストの働きと同じ性質の働きに従事していることになりませぬ。

〔安息日学校へのあかし〕 英文、八五、八六ページ〕

表情はその性質をあらわす

各組の教師はすべての子どもたちをよく心にとめ、特別に注意して見守らなければなりません。

永遠のためのこのような働きは、教師が神と近い関係を持つていなければ不可能です。イエスは「あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考へて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ」と仰せになっています。真理を表面的に研究するようにすすめてはなりません。

真理の要点、要点を明らかにし、子どもの心にはつきりとさせなさい。一度に多くのことを詰め込んで彼らの頭をいっぱいにしてはなりません。神の尊いみことばは彼らの足のともしび、道の光でなければなりません。そして光の中を歩くのが彼らの特権であることを強く印象づけなさい。この平和で純潔な聖い道は、主にあがなわれた者が歩くためにひらかれた道です。キリストご自身が先に歩まれた道であつて、彼は真の羊飼いで、彼に従えば横道や落とし穴から救い出されます。

神のみことばを読んで天国に入る者は、みな完全な品性を備えていなければならぬことを学びます。そうしてこそ恐れなく主にまみえることができます。子どもや青年の多くは、顔にその性格が印されています。彼らの生涯の経歴を容貌に表現しています。真の働き人は、子どもたちの心に美しい、きよい、キリストのような品性を深く印象づけなければなりません。そうすれば顔の表情が変わるはずですが、もしキリストが心に宿つて心の原則となつていたら、その表情に純潔、高雅、平和、愛を読み取ることはできません。そうでない他の顔には悪い性格があらわれて、利己心、狡猾、欺き、偽り、敵意、嫉妬があらわれます。このような性格の心や顔をもつた人に、真理を徹底させるのはなんと難しいことでしょう。

品性の育成

今わたしたちは品性の育成に特別な注意を払わなければなりません。イエス・キリストの心をあなたの心の中に持ちなさい。そうすれば、安息日学校のどの働き人も、イエスが彼らをご自分の協力者として認めることを恥ずかしく思われぬほどに、向上し高尚になります。キリストはすべての霊的教養をお備えなっています。もしイエスが心の中に住みたもうなら、心は聖霊のきよい徳で満たされ、それが顔にあらわれて表情を変えます。もし、美しく、愛すべき品性を持ちたいと願うなら、神のおきてが

心に書かれ、生活に実行されなければなりません。

『安息日学校へのあかし』英文、二〇～二三ページ

教課を実際的にすること

教師は心も魂も教課に打ち込むようにして、教課を実際に適用できるように計画を立て、自分が責任を持つている子どもたちの心に興味を起こさせなければなりません。生徒に自由に活動させて、真理の問題を解くようにさせましょう。教師はその働きに特徴を与えて、安息日学校のプログラムが無味乾燥なものでないようにしましょう。

教師は安息日学校のプログラムに熱心が足りません。教師は、かしく同情と忍耐をもって、すべての生徒に魂の救いに対して興味を持たせるために熱心に努力しなければなりません。この安息日学校のプログラムを主が望まれるものにしなければなりません。すなわち深刻に罪を認め、心を改める時でなければなりません。もし正しい働きが上手に、キリストのような方法でなされるなら、魂は罪を認め、「わたしは救われるために何をすべきでしょうか」と言うでしょう。

『安息日学校へのあかし』英文、一二、二三ページ

教課補助の使用について

教会の働きに子どもたちが興味をもつように幾分努力は払われていますが、まだ十分とはいえません。安息日学校をもっと興味深いものにしなければなりません。公立学校では、近年その教え方がずいぶん進んできました。実物教育、絵、黒板がむずかしい教科を幼い者の心にはつきり教えるために使われています。そのように、現代の真理も単純にされ、子どもたちのはつらつとした心に興味あるようなもの

にしなければなりません。

他の方法では近づくことのできない両親にも、しばしば子どもたちを通して近づくことができます。安息日学校の教師は子どもたちに真理を教えます。すると今度は子どもたちが家庭にそれを持っていきます。しかしわずかの教師しか、この部門の働きの重要性を理解していないようです。公立学校で用いられて大変成功した教え方は、安息日学校でも用いて同じように成功をおさめ、子どもたちをイエスに近づけ、彼らに聖書を教える助けとなるでしょう。これはすぐに過ぎ去ってしまう、感情的な信仰興奮よりはるかに効果のあるものです。

キリストの愛が大切にされなければなりません。わたしたちが信じているようにこの働きが、キリストの来られる前になされなければならないものであれば、もつと信仰を持つて行わなければなりません。正しい方向に向かって自己を否定し、自己を犠牲にする働きが必要です。どうすればもつと効果的に働けるかということについて、祈りつつ研究しなければなりません。注意深い計画が熟さなければなりません。わたしたちの中には、もし用いさえすれば考案し、実行のできる人がたくさんいます。よく指導された知的な努力から大きな結果が得られるでしょう。

（『安息日学校へのあかし』英文、九ページ）

あやまりを指摘する

もし安息日学校が正しく行われるならば、それは魂を真理に導く神の一大機関となります。教師一人がすべてを話すのは最もよい方法ではありません。クラスの人々に自分の知っていることを話させなければなりません。そして教師は簡単に要領を話し、また実例を話して、生徒の心に印象づけます。どんな場合でも、教師がただ機械的にひととおり教えて座ってしまい、よく見受けるように、子どもたちが

あちこちながめていたり、ささやいていたり、遊ぶままに放っておくことがあつてはなりません。このような教え方は益ではなく、かえつて害があります。もし教師が適当に準備しているならば、あらゆる瞬間を有用に使うことができます。子どものはつらつとした心を常に働かせていなければなりません。彼らの考えを發表させて、その場合に応じて間違いを正し、また正しいことを認めてやらなければなりません。しかしながら教師が「これで終わりました」と言つて座つてしまうようなことがあつてはなりません。教課が終わるといふことは決してないはずです。 (『安息日学校へのあかし』英文、一八、一九ページ)

靈的怠惰

ある安息日学校では、教える適正のない人が教師になつています。彼らは魂に対する熱心な愛を持っていません。また、真理の実際的な意味を半分も理解していません。そういう場合、彼らが子どもや青年をどうして生ける水の源に連れていくことができるでしょうか。教師自身、救いの水を深く飲まなければなりません。そうすれば、神の使いは彼らに仕え、尊い青年をイエスに導くために主がいかなる方法を用いるように望まれているかを知ることができます。それには才能、意志、忍耐、ヤコブが相撲をとつて「あなたが祝福してくださらないなら、あなたを去らせません」と叫んだときの精神を必要とします。神の祝福が教師の上にくだるとき、それは自然に生徒にも反映します。靈的に怠惰で、高尚で、聖なる志のない人に青年たちを教えさせてはなりません。そうでないと、無関心なフアリサイ主義、すなわち、力のない形式が教師にも生徒にも見られるようになります。 (『安息日学校へのあかし』英文、二三ページ)

クラスでの論争

安息日学校の教課が心や知能を輝かすように教えなければなりません。この目的を達するには、教師は聖霊に導かれていなければなりません。すべて利己的なものは姿をひそめ、あわてて話すことなく、思慮のない行動をとることなく、魂の救いのための人間の努力と共に働く神の恵みがあらわれるようにしなければなりません。これが安息日学校の働きの大きな目的です。安息日学校を論争の場所としてはなりません。また、違った考えをあらわす場所としてもなりません。このようなことは、安息日学校から排除し、調和を保つようにいたしましょう。ある思想が紹介される時に安息日学校のある生徒の疑問が発展してきても、闘争心が生じて議論や論争が起こらないようにしましょう。

（『安息日学校へのあかし』英文、五一、五二ページ）

教課を読む

たいへん残念なことですが、ある安息日学校では教課をただ読む習慣がついています。教課はただ読むべきではありません。もしわたしたちが漫然と、あるいは罪となるようなやり方で聖書研究に時間をあてるくらいなら、そうする必要はありません。教師でも生徒でも安息日学校の教課を普通の学校の学科ほど完全に勉強しないでよいという理由はありません。教課は、この上ない大切な問題を取り扱っているのですから、よりよく勉強しなければなりません。これを怠ることを神はお喜びになりません。

（『安息日学校へのあかし』英文、一〇ページ）

ただ表面だけを

安息日学校の教師はみな、神のための伝道者であることを自覚しなければなりません。教師は、時も才能も上手に利用して、神のみことばの知識を得るように努力し、それを生徒たちに分け与えるようにしなければなりません。もし教師たちがたえず学ぶ人でなかったら、教師となる資格はありません。教師の仕事に新鮮な考え、新しい賢い計画、生命、技巧、熱心がなければなりません。また教える才能がなければなりません。

教師は教課のことばを暗唱するだけに満足してはなりません。教課のことばにも思想にも、完全に通じるようにしなければなりません。クラスに立つ前には教師はみなその日、またはその時にしたいと考えていることについて頭の中に自分の計画をはっきり立てておかなければなりません。教課をクラスの前で話すことは教課を教えることではありません。簡単なことばで話し、考えをはっきりさせなければなりません。生徒が理解できるかどうか確かめなさい。もし彼らがあなたの考えを理解できなければ努力はむだです。ただ表面だけでなく、深く掘り下げてください。聖書は生命の規則、また案内です。健全な教理を、実際に生徒の心に触れさせなければなりません。そうするとき実がなります。あなたの努力の結果として健全な行為があらわれてくるからです。

（『安息日学校へのあかし』英文、二四ページ）

長い退屈な話

子どもを教える人は、長い、あきあきする話を避けるように気をつけなければなりません。簡単に要点にふれて話すとき、よい影響があります。多く話さなければならぬときは、簡単に幾度も繰り返す

ことです。おりにふれた興味ある一言は、一度に全部聞くよりずっと効果的です。長い話は子どもたちの心に重荷となります。あまり多く語ると、過食が胃に重荷となつて食欲を減退させ、食物をいやがることがあるように、子どもたちに霊的な教えをいとわせることがあります。人の心は長い話にあきまず。教会や特に青年に働くときは、少しづつ教えなければなりません。彼らに食べさせる真理が消化する時を考えなければなりません。子どもたちを慌ただしく天に近づけようとししないで、もつとやさしく導かなければなりません。

（『安息日学校へのあかし』英文、一〇七ページ）

神と共に働くことはどんなことであるか

「同じように、万事につけ若い男には、思慮深くふるまうように勧めなさい。あなた自身、良い行いの模範となりなさい。教えるときには、清廉で品位を保ち、非難の余地のない健全な言葉を語りなさい。そうすれば、敵対者は、わたしたちについて何の悪口も言うことができず、恥じ入るでしょう」（テトスへの手紙二章七節、八節）。

安息日学校の教師が誠実で敬虔な心を欠き、神との日々の交わりをおろそかにするとき、その教師の教えは無味乾燥になります。彼のことばには生徒の心に届く力がありません。

神と共に働くことは、ただ安息日学校に出席し、教会の礼拝に出て教えることを手伝い、あかし会であかしをたてることだけでなく、もつと多くのことを含んでいます。

神と共に働くことは、キリストが死んでくださった罪人の救いのために、あなたの心が強くひかれることを意味します。それは、あなたの心がこの働きに対する熱心さに満たされていること、自分の指導に興味深いものにするためにいろいろ計画すること、そして、キリストのご計画に従つて与えられたす

べての力を用いて人々を引きよせる方法を工夫することを意味しています。すなわち、魂がキリストの奉仕にまで勝ち取られるように、またキリストの限らない愛のきずなでキリストに結びつけるようにすることです。

献身をしない努力は働きを妨げる

神と共に働く者は聖なる責任から逃れようとししないで、キリストのために進んで骨折り、困苦や責を忍びます。彼らは、耐え難いことや人間の誇りを傷つけられることも、非難も喜んで受けます。そして、神と共に働く者は、イエスが失われた者を救うために恥、侮蔑、拒否、死さえも耐えられたことを思い起こします。刈り入れの野でのあらゆる働きは、犠牲と自己否定を意味します。大切でないことのために費やされる時間は、聖書研究や、自らに委ねられた働きを成功させる方法を知るために用いられます。また、神の霊をよく知るようにならなければなりません。祈りを多くし、自分に与えられたあらゆる才能をいかに用いて、神の働きを効果的に進めるかについて、真剣に考えるようになります。

あなたは神がご自身の王国を地上にたてるために雇われたしもべであつて、キリストがご自身の血の代価を支払われた魂を救うために自分の役割を果さなければなりません。それでは、この重大な働きのため、心の準備もせず安息日学校で教えることはささいなことでしょうか。クラスを教えている多くの教師は、それにほとんど興味を持っていません。彼らは献身して働かないで、きよい働きを汚しています。

自己を示そうとする誘惑

子どももの組でも大人の組でも、教師は常に生徒たちの心を形づくる知恵や恵みや力を、天の大いなる光の源に求めなければなりません。そして、キリストの血であがなわれた者を知的に取り扱うことができるようにしなければなりません。教師はみな、柔和で心のへりくだった主に謙遜に従う者でなければなりません。自分が優れた教師に思われようとして、あるいは、非凡な才能の持ち主に思われようとして、勉強したり働いたりするのでなく、魂をキリストに導くために、そうしなければなりません。その働きに自己を示そうとする試みに遭うことがあるでしょうが、もしそうすれば、働きを汚すことになります。なぜなら、その結果として、話は長い無味乾燥なものになり、子どもの心に興味を与えず、なんら益をなさなくなるからです。

〔安息日学校へのあかし〕英文、三五ページ

心の全部をささげた奉仕の働き

主は安息日学校の教師として、心を全部ささげて奉仕する人、使うことによつて自分の才能を増す人、今まで達成したものをさらに向上させる人をお望みになります。主は働くクリスチャンを教会に望んでおいでになります。なぜなら、働く者には働かない者より誘惑が少ないからです。キリストを真に信じる者は、神の協力者になります。聖霊に支配され、彼らの愛情はきよめられ、欲望は抑制され、尊い実が神の栄えとしてその生涯に実りはじめます。真にキリストを信じる者はその光を反射するからです。

〔安息日学校へのあかし〕英文、五三ページ

救霊は最高の関心

教師の責務は重く聖なるものであつて、その働きの中で青年に優しい愛をこめた勧めをすることと、友だちであると感じさせることほど大切なことはありません。そして彼らの信頼を一度得れば、彼らを導き、統制し、訓練することが容易になります。クリスチャンの原則であるきよい動機が実生活に見られなければなりません。神を畏れる教師は生徒の救いを一番心にとめています。彼はキリストの働き人で、その特別な、断固たる努力は、魂を滅びから救い、彼らをイエス・キリストに導くことであるはずです。神はこれを教師たちの手に求められます。人はみな敬虔で、きよい生活をおくり、すべての義務を果たすために、骨折つて努力しなければなりません。もし、心が神の愛で輝いているなら、欠くことのできないきよい愛情が生まれ、祈りは熱心になり、忠実な警告を与えるようになるでしょう。もしこれらを怠るなら、あなたが受け持っている生徒は危険にさらされます。長く話したり、勉強を監視したりする時間を減らし、これらのおろそかにされた義務を果たすほうがよいでしょう。

忍耐は報いられる

これらの努力を払つても、教師は、ある受け持ちの生徒に不道徳な性質が出てくるのを発見するでしょう。多くの場合、これは両親の悪い模範、または鍛錬の怠慢の結果としてあらわれる道徳的なゆるみです。教師はできるだけのことをしても、これらの青年を純潔なきよい生活に導くことはできません。そして忍耐して訓練し、愛情をもって労し、熱心に祈つても、望みをかけてきた者に失望させられることがあります。その上、親からは、彼らが自分の悪い模範やかしくくない訓練に対して立ち向かう力がないた

めに非難されます。教師は自分の責任をすべて果たしてもこうした失望を味わうことがあります。しかし、神が共に働いてくださっていることを信じて働きつづけ、雄々しく自分の立場にたち、信仰をもつて努力しなければなりません。他の人々が神に救われ、彼らの感化はまた他の人の救いに及びます。牧師も安息日学校の教師も大学の教師も、青年たちを滅びから救うため、みな心も魂も一つにして働かなければなりません。

（『キリスト教教育の基礎』英文、一一六、一二七ページ）

キリストを高くかかげる

もしクリスチャンであると公言する人々が正しくキリストをあらわすならば、福音は神の力と知恵になります。わたしたちは、わたしたちの罪のために十字架におかかりになったキリストについてよく考え、神のみ前にへりくだらなければなりません。死からよみがえられたキリスト、高きにのぼられたキリスト、神の前におられるわたしたちの生ける仲介者は、わたしたちが学び、子どもたちや青年に教えなければならぬ救いの科学です。神は「わたしはあなたたちの神、主である。あなたたちは自分自身を聖別して、聖なる者となれ。わたしが聖なる者だからである」（レビ記一章四節）と仰せになりました。これこそ、常に教師に委ねられている働きです。このことはいいかげんにしてはなりません。なぜなら、普通の学校の子どもの教育においてさえ、キリストの恵みと共に自我を抑えることを多く要求されているからです。生まれつきかんしゃく持ちですぐ怒り、批評する習慣があり、悪いことを考える習慣のある人は、そのいやな性質が子どもや青年たちにつらないうつらないように他の働きを選ばなければなりません。それはあまりに大きな損失になるからです。天は、もしその力と能力が天来の知恵によって成長するならば、その人を通して神の感化が働く器となり神の協力者となることができる未発達な男女とし

て子どもたちをごらんになります。鋭いことばや絶えざる非難は、子どもを疲れさせますが、決して改心させることはできません。つまらないことばを言うことを控えてください。そして自分自身をイエス・キリストのもとで鍛錬しなさい。そうすれば、あなたの受け持ちの者をどうすれば憐れみ、同情できるかを学ぶことができます。

〔安息日学校へのあかし〕 英文、八七、八八ページ〕

クラスのすべての人を悔い改めさせる

神の働き人としてわたしたちは自分自身ではなく、もつとイエスをあらわすことを望みます。わたしたちはもつと魂に対して重荷を感じなければなりません。そして安息日のために、力と知恵が与えられるように毎日祈らなければなりません。教師たちよ、クラスの人たちに会って共に祈り、どのように祈るかを教えなさい。心をやわらげ、願いは短く簡潔に熱心になさい。ことば数を少なく、よく選んで祈りなさい。あなたのくちびるとあなた自身の模範をとおして、神の真理が生徒たちの心に深く根をおろさなければ、彼らは誘惑の試みに立つことができなさいことを教えなければなりません。クラス全体の青年たちがみな悔い改め、教会の有用な会員に育つように願うものです。

〔安息日学校へのあかし〕 英文、一九、二〇ページ〕

六日の間、あなたのすべての力とエネルギーをこの世的な、一時的なことに使ってはなりません。そうしないと安息日にキリストの奉仕のために与える力とエネルギーがなくなってしまう。今日熱心にしなければならぬ働きがあります。利己的なことのために使う時は一瞬もありません。わたしたちのなすべきことはみな神の栄えのためにしたいものです。クラスのすべての人が、キリストの救いの知識を得るまで安心してはなりません。

〔安息日学校へのあかし〕 英文、一四ページ〕

最高の喜び

わたしたちの学校に教師として受け入れられた人々には、種をまき、実った穀物を刈り入れるための働きと耕作する畑が開かれています。神を愛し、そのいましめを子どもや青年に守るように教え、訓練するために神と共に働くこと以上に大きな満足を与える働きがあるでしょうか。学校や安息日学校で教えている子どもたちをイエスに導きなさい。子どもや青年がキリストに従うのを見ること以上に喜ばしいことはありません。キリスト、すなわち大いなる牧者は呼んでおられます。そして羊や小羊は彼の声を聞いて彼に従います。興味をもつて献身して働いている人にとつて、自分が忍んで耐えてきた働きは、主にあつて無駄にならないことを知り、生徒たちがその罪をゆるされて心に喜びの太陽が輝くのを見ること以上に、心の喜びを得られることはありません。神の共労者にとつて、子どもや青年が神のみたまの感化を受けて、真に高尚な品性を受け、神の道徳的なたがが回復される、すなわち子どもたちが平和の君より平和を求めるのを見ること以上に、満足を得られることはありません。

(『キリスト教育の基礎』英文、二七一ページ)

第五部

毎週伝道献金を集めること

第五部 目次

なされた働きに対する感謝	117
規則正しい、組織だった献金	117
規則的に毎週ささげること	118
特別の荣誉	119
献金に先行する神の摂理	119
与えるのに飽きてしまったとき	120
働きの延長	121
縮小を求めてはならない	121
最善を尽くそうではありませんか	121
外国伝道のために祈り、献金すること	122
方法、手段の工夫	122
国内伝道の発展	123
神は忠実な管理者をおほめになる	124
神の都に迎えられていたであろうに	124
絶えず与える者にくる絶えざる恵み	125
同情より高い動機	125
生まれつきの利己心に打ち勝つこと	126
家庭で子どもに慈善の精神を教えよ	126
非現実的な欲求を抑制すること	128
不健康な刺激は不必要である	128
小さいささげ物の収入	128
誕生日献金	129
神の保護と愛を思い出すため	130
神のご要求を第一にすること	130
わたしたちの聖なる模範	131
キリストは心からの愛の行いを尊ばれる	131
神のものとわたしたちのもの	131
愛のささげ物の最高の効果	132
繁栄の条件	132
献金の動機の記録	133

第五部 毎週伝道献金を集めること

なされた働きに対する感謝

安息日学校が多くの尊い働きを進めるために、十分必要な献金をささげたことを神に感謝しています。子どもも青年たちも少しずつ献金しましたが、それは小さな川のように大きな献金の流れをもたらしました。天を喜ばせる無私の行為をするように子どもたちを教育しなければなりません。まだ子どもたちが若い頃に、キリストのために、いかに奉仕すればよいか訓練しなければなりません。そして自己犠牲を教えなければなりません。

〔安息日学校へのあかし〕英文、一三三ページ

規則正しい、組織だった献金

この献金という問題を気まぐれにはいけません。神はそれについてはつきりした教えをお与えになりました。神はわたしたちが果さねばならない義務としての十分の一と諸献金をお定めになりました。主は、わたしたちが規則正しく組織的にささげることをお望みになります。パウロはコリントの教会に「聖なる者たちのための募金については、わたしがガラテヤの諸教会に指示したように、あなたがたも実行しなさい。わたしがそちらに着いてから初めて募金が行われることのないように、週の初めの日にはいつも、各自収入に応じて、幾らかずつでも手もとに取って置きなさい。」(コリントの信徒への手紙一・二六章一、二節)と書いています。すべて神からの祝福である自分の収入を、規則正しく確認しましょう。

そして十分の一は別の資金、すなわち主の聖いものとして別にしておきましょう。この資金は、どのような場合にも他のことに用いてはなりません。これは福音宣教を前進させるためにのみ用いるべきです。十分の一を除いたあとの諸献金は、あなたの「神が祝福してくださったところに従って」配分しましょう。

(『レビュ・アンド・ヘラルド』一八九三年五月九日)

規則的に毎週ささげること

小さい子どもの献金は神に受け入れられ、また喜ばれます。その献金の動機となつた精神に従つてその献金の価値が決まります。貧しい人は、使徒の勧めに従つて、毎週少しずつためて献金を増やすことができます。そしてこの人々の献金はまったく神に受け入れられます。なぜなら、彼らは金持ちの兄弟と同じように、あるいはそれ以上に大きな犠牲を払っているからです。また組織立つて献金をささげる計画によつて、どの家族も不必要なことののために金銭を使わないようになります。特に金持ちにとつては浪費を防いで祝福となります。

家族の一人ひとりがこの計画を十分に実行すれば、毎週、各家族に対する神のご要求が心に思いだされます。献金をささげるために特別に自己犠牲を払うとき、神の栄光のために自己を否定するという尊い教えが心に強く印象づけられます。週に一回、各自が自分の行つたこと——すなわち、自分がもし節約していれば得ていたであろう収入や、放縦のために失つた資金と直面してみるので、彼の良心は、いわば神のみに立つて、自分をほめるか責めるかするのです。そして彼はもし心の平和を保ち、神に喜ばれようと思えば神の栄光のために食べ、飲み、着なければならぬことを学びます。

特別の榮譽

神は、その賢明なご計画において、み事業の進展を神の民の個人的な努力と自由意志による献金にまかせておられます。神はこの大いなるあがないの計画に人間の協力を受け入れることによって、人間に特別の榮譽をお与えになりました。牧師は、派遣されなければ説教することはできません。光をわけ与えるこの働きは、牧師だけが担うものではありません。教会員になる時、人はみな、自分が公言する真理を生活にあらわすことによつてキリストの代表者になることをみずから誓つたのです。キリストに従う者は、主が昇天なさつたとき、彼らに成し遂げるように残された働きを前進させなければなりません。

〔「教会へのあかし」英文第四卷、四六四ページ〕

献金に先行する神の摂理

小さな、または大きな施しの流れが常に流れ続けなければなりません。神の摂理は、わたしたちよりもはるかに前進し、わたしたちのささげ方よりもはるか先を行つています。神の働きの進展発達は、利己心、誇り、むさぼり、浪費、虚飾を愛するために妨げられています。教会全体は、あらゆる分野の働きを推進するという厳粛な責任を負っています。もし教会員がキリストに従うなら、虚飾とか衣服への愛着を捨てて、美しい家や高価な家具などにも愛着を覚えなくなりません。セブンスデー・アドベンチストはもつと謙遜になつて、この世との区別をはっきりしなければなりません。そうでなければ、たとえわたしたちの地位が何であろうと、また従事している働きの性質が何であろうと、神はわたしたちを受け入れられないでしょう。経済と自己犠牲によつて中流程度の家にも慈善のための余裕ができます。

キリストにならない、天の王が歩かれた自己犠牲の道を謙遜に歩むことはすべての人の本分です。クリスチャンの一生は、まったくの自己犠牲の生活であつて、助けを求められれば、いつでも応えられるようにする必要があります。

サタンが魂を滅ぼすために絶え間なく働いていても、広い収穫の野で働き人を求める声があるかぎり、神の働きを支えるために献金を求める声が必要であるでしょう。一つの必要を満たせば、また他に同じような必要が起こってきます。神が最も大切と認められることに、宝をささげ、自己を犠牲にすることによつて、わたしたちは主から「よくやった」とおほめをいただく習慣と品性を養い、わたしたちのため貧しくなられた主のみ前にとこしえに住むにふさわしい者となることができるでしょう。主の貧しさを通してわたしたちは永遠の富を受け継ぐ者になれるのです。(『教会へのあかし』英文第七巻、二九六、二九七ページ)

与えるのに飽きてしまったとき

ある人は次のように言ったとします。「み事業のために、ひつきりなしに献金を訴えられます。わたしは、もう与えるのが嫌になりました。あなたはどうかですか」。そんな時、こう尋ねてみましょう。「あなたは神の恵みのみ手から受けることに飽きましたか」と。神があなたをお恵みになることをやめられないうちは、神が求められるものを神にお返しする義務があります。神は、あなたが他の人に恵みを与えることができるように、あなたを祝福なさっています。もし受けることが嫌になったなら、「ひつきりなしに献金を訴えられうんざりしている」と言つてもいいでしょう。

働きの延長

神の民には偉大な働きがあり、その働きはたえず前進しなければなりません。伝道活動におけるわたしたちの努力は、さらに広範囲に及ぶ必要があります。主イエス・キリストの再臨の前には、今まで行われてきた働きよりも、もつと決定的な働きがなされなければなりません。神の民は、全世界に行きわたるまではその働きをやめてはならないのです。

〔教会へのあかし』英文第六巻、一三、二四ページ〕

縮小を求めてはならない

すべての教会で、もつと多くの献身とささげることがなされるように、神に祈りがささげられなければなりません。兄弟姉妹たち、伝道活動の縮小を願ってはなりません。救わなければならない魂が存在する限り、救霊に対する関心も失ってはなりません。働きを縮小すれば、主を否定することになります。わたしたちはみな宣教師になって外国に行くことはできませんが、外国での伝道活動を前進させるために献金することはできます。

〔教会へのあかし』英文第九巻、五五、五六ページ〕

最善を尽くそうではありませんか

「来て助けてください」というマケドニアの叫びが国内や都市や村々から、また大西洋を越え、広い太平洋を越えて大洋の島々から来たとき、わたしの心は動かされました。兄弟姉妹たち、この叫びに答えて「わたしたちは宣教師と資金を送って最善を尽くします。また家を飾ったり、身を飾ったり、食欲を満たすことをやめましょう。そしてわたしたちに託された金銭を神の働きのためにささげ、わたした

ち自身も神の働きのために献身しましょう」と言えるでしょうか。働きの必要が目の前に横たわっています。空になった金庫は助けをせつに求めています。働きのためには、今の一ドルは将来の十ドルよりももっと価値があります。

兄弟たちよ、まだ機会があり、日が過ぎないうちにお働きなさい。「だれも働くことができない夜が来る」のですからお働きなさい。どんなにすみやかに夜が来るか、あなたにはわからないのです。今があなたの機会です。利用しなさい。もし個人的に伝道の働きにたずさわることができない人がいれば、その人は節約をして、その収入をささげるようにしましょう。

(『教会へのあかし』英文第五卷、七三二、七三三ページ)

外国伝道のために祈り、献金すること

兄弟姉妹たちよ、あなたは今日、外国に選ばれて行く人々のために祈ることを神に誓われますか。そして彼らのためにただ祈るばかりでなく、あなたの什一や諸献金で彼らをささえることを約束されますか。あなたは世界のすみずみまで働きを進めるために、もつと献金をささげられるようになおいつそう厳格に自己を犠牲にすることを誓われますか。わたしは神の靈に動かされて、みなさまが宣教師をささえるために、毎週いくらかでもたくわえるよう神のみ前に誓われることをお勧めいたします。神はそれができるように助けと祝福をお与えになります。

(『レビュー・アンド・ヘラルド』一九〇二年一月一日)

方法、手段の工夫

地上のキリストの教会は、伝道の目的のために組織されました。主は教会全体が方法や手段を変えて、

身分の高い者も低い者も、金持ちも貧しい者も、真理の使命を聞くようになることをお望みになります。みんなが直接に外国で働くように召されているわけではありません。しかしすべての人が、祈りと伝道の働きを助ける献金とによって何かをなすことができます。

熱心な信者であったアメリカの一実業家は、同僚との会話の中で、わたしは一日二十四時間、キリストのために働いていると言いました。「わたしは自分の仕事においても、主を代表するように努めています。そして機会あるごとに人々をキリストに導こうと努めています。わたしは一日中キリストのために働いています。そして夜、わたしが寝ている時は、中国でキリストのためにわたしの代わりに働いている人がいます」と言いました。

〔「教会へのあかし」英文第六巻、二九ページ〕

国内伝道の発展

外国伝道の成功のために惜しみなくささげ、自己犠牲の精神を示すことは、国内伝道を最も盛んにする確かな方法です。なぜなら、神の導きのもとにあつては、国内伝道の真の発展は、遠く離れた国々における伝道の働きに反射的に影響しているからです。わたしたちの心は、他の人の必要を満たすために働くことによつて、すべての力の源であられる神にふれることができます。外国伝道のために、神の民が示した各方面の伝道の熱心さに、主は目をとめておられます。主はどの家庭でも、教会でも、働きの最前線でも、暗きに座するものに光を与えようと、大いなる困難と戦いながら働いている伝道者を助けるために惜しみなくささげる精神があらわされることを望んでおられます。ある伝道地の働きを始めるために与えられたものは、他の場所での働きを強めることとなります。

〔「福音宣伝者」英文、四二五、四二六ページ〕

神は忠実な管理者をおほめになる

神は、人々を神の管理者になさった。神が人々の手にお任せになった財産は、福音を広く伝えるために神がお備えになった資金である。忠実なしもべには、もつと大きな責任が神から負わせられる。「わたしを尊ぶ者を、わたしは尊」ぶと主は言われる(サムエル記上三章三〇節)。「神は喜んで施す人を愛して下さるのである」。そして神の民が、「惜しむ心からでなく、また、しいられてでもなく」感謝して供え物や捧げ物を神のところに携えて来るとき、神が約束なさったように、神の祝福がそれに伴うのである(コリントの信徒への手紙二・九章七節)。「わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもつてわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる」(マラキ書三章一〇節)。(『希望への光(人類のあけぼの)』二七五ページ)

神の都に迎えられるにたであるうに

大いなる光が神のみことばから輝いています。よい機会をむだにしていることに目覚めなければなりません。すべての人が忠実に、神に返すべき什一と諸献金をするとき、現代の使命を全世界が聞くように道が開けます。もし神の民の心がキリストに対する愛で満ち、すべての教会員が自己犠牲の精神に徹底し、すべての人がまつたき熱意をあらわすなら、国内伝道、または外国伝道の資金が不足するようなことはありません。資源は幾倍にもなり、多くの有用な門戸が開かれ、そこに入るように招かれるはずです。もし神の民が世界に恵みの使命を与えて神のご計画を成就したならば、キリストは、もうすでにおいでになって、聖徒たちは神の都に迎えられるはずです。(『教会へのあかし』英文第六巻、四五〇ページ)

絶えず与える者にくる絶えざる恵み

神の息子、娘であると公言するものが人と神に対する責任を、什一やその他の献金において果たすなら、全世界の各分野における神の働きを支えるために、金庫に十分な資金が流れ込んでいきます。彼らが与えるにつれて主は道を開き、さらに与えることができるようにしてくださいませ。なぜなら、彼らは絶えず恵まれるからです。そうすれば働きを支えるため訴えるようなことはなくなります。主のものを主にささげるといふ原則が規則正しく組織的に実行されるならば、神に認められるようになります。「わたしを重んずる者をわたしは重んじる」。

（『レビュー・アンド・ヘラルド』一八九三年五月一六日）

同情より高い動機

荒廃したこの世の靈的暗黒は、クリスチャンの男女に、個人的努力を惜しまず彼らの財力と感化を与えるように訴えています。それは限りない富を持つていたにも関わらず、わたしたちのため貧しくなられた主のみ姿にならうようになるためです。神の靈は、真理の使命を与えられながら、キリストの共労者としての責任を自覚する前に、説得させられなければならない人々と共に住むことはできません。使徒は、単なる人間の同情、すなわち、感情が動かされたからでなく、もつと高い見地から与える義務を強調しています。彼は、わたしたちが神の栄光を一筋に見つめて無私の奉仕をしなければならぬという原則を力説しています。

（『教会へのあかし』英文第三卷、三九一ページ）

生まれつきの利己心に打ち勝つこと

人間は生まれつき博愛の傾向がなく、欲深く、自己のために生きるものです。サタンは彼らに、その財産をみな利己的で世的目的のために使えば、どんなに利益があるかをつねに示そうとしています。サタンは、人が義務を避け、什一やその他の献金を神から盗むように影響を与えることができるとき、喜びます。しかし、この問題についてだけ一人義務を免れることはできません。「各々その得るところに従って、自分の家に蓄えなさい。」貧しい者も金持ちも、給料をもらう男も女も、人はみな、その一部を残しておかなければなりません。なぜなら神はそれを要求なさるからです。各教会員が靈的に盛んになるかどうかは、個人的努力と神への忠誠さにかかっています。

（『教会へのあかし』英文第五卷、三八二ページ）

家庭で子どもに慈善の精神を教えよ

わたしたちの敵は、青年を放縱、誇り、虚飾にいざなおうとしてつねに力を尽くして働いています。彼らの心はこれらのことではいっばいで、その愛情には神のための場所がありません。彼はこのような方法によってこの時代の青年の性格を曲げ、知性の発達を妨げています。このサタンの働きに立ち向かって働くのは親の義務です。若者の心に真実と真の謙遜と神のみ旨を知る知識などを保つために及ぼす影響は、みな彼らがこの時代の悪に汚されないようにする助けとなります。

押しよせる悪の波を防ぐ最も効果ある一つの防波堤は、自己犠牲と慈善の習慣を養うことです。子どもたちが利己主義やむさぼりの習慣を嫌うように教育しなければなりません。神は彼らに対して聖なる

ご要求をもっておられますから、彼らがこうしたご要求を認めて、誠実に尊重するために、少しずつ、戒めを心にとめるよう教えなければなりません。

神は太陽を昇らせ、雨を降らせ、植物を成長させ、地は豊かな作物を実らせて、神にたよる子らについて祝福を与えておられることを、若いやわらかい心に植えつけなければなりません。これらの祝福は、神の賜物である宝を保存してそれを愛し、わたしたちの利己的な性質を助長するために与えられるのではなく、わたしたちが、お与えくださった方にささげ物や献金としてそれを返すためです。これは、わたしたちが愛に富ませられる創造主にお返しすることができると感じる最小限の感謝と愛のしるしです。

神の働きのために働くことに子どもたちの興味を起こさせるようにしなかつたのは、親に大きな落度があります。多くの家庭では、子どもたちにはまるで責任がないかのように問題にしないで放つてあります。ある親は、当然神のものである什一や諸献金を、子どもたちのためや富を蓄えるために奪うことさえあります。そうすることは、自分の愛する者のために多くの場合、滅びとなる試みの戸を開くようになることを考えないのです。彼らは、子どもが自ら働く必要を取り除き、同時に、尊い働きをなし遂げるという動機をなくさせてしまいます。

もし子どもたちに奨励するならば、彼らは慈善の目的のために金をもうけ、神の働きを進めるために金銭をささげるに相違ありません。そしてその働きにいくらか投資したことから子どもたちの興味は増すにちがひありません。彼らの小さい奨励は、物質的な助けとなり、またその努力によって子ども自身、肉体的に知的に道徳的にはるかに立派になります。勤勉と自己犠牲によって、彼らは価値ある経験を得、それはこの世の生活に成功する助けとなり、永遠の生命を受ける助けとなります。

非実地的な欲求を抑制すること

もし今日人々が、創世当時のアダムとエバのように、単純な習慣のうちに自然の法則と一致した生活を送るなら、人類家族の必要は豊かに満たされるのである。想像だけの必要は少なくなり、神の方法で働く機会が多くなる。しかし利己心と不自然な食欲をほしのままにすることから、一方では有り余っているのに、一方では足りないために、この世に罪と不幸とが生じた。

（『希望への光〈各時代の希望〉』八五九ページ）

不健康な刺激は不必要である

永遠の現実性を見、心や精神や力を尽くして主を愛し、自分のようにその隣人を愛する者は、あたたかもカーテンが取り除かれ、宇宙の注目の中に働いているかのように、自分の義務をすべて忠実に果たします。クリスチャンが心よりささげる精神は、それを実行すれば強められるもので、不健康な刺激は必要ありません。キリストの心であるこの精神を持つ者はみな、心よく主の倉にささげ物をたずさえてくることでしよう。キリストへの愛、キリストが死んでくださった者への愛に感動させられて、忠実に自分の分を尽くすように熱心になることでしよう。

（『レビュー・アンド・ヘラルド』一八九三年五月一六日）

小さいささげ物の収入

両親は、神が彼らに命じられたように、子どもたちにおきてを教えています。彼らは子どもに利己的な習慣を教えてしまいました。誕生日や休日、贈り物をもったり、世的な習慣やならわしに従っ

たりする時であるように教えています。こういう時は、神を知る知識を増し、また、その一年、生命を神が恵みと愛の中に保つてくださったことを心から感謝する時であるのに、自己を喜ばせ、子どもが自分を満足させ、自分に栄えを帰したりする時になっていきます。子どもたちはこれまでたえず神の力によって支えられてきました。けれども親は、子どもたちに、そのことを考え、神の恵みに対して感謝をあらわすことを教えていません。もし子どもや青年がこの時代にあつても正しい教えを受けらるなら、彼らのかちびるから、どれほどのほまれと賛美と感謝のことばが神にささげられることでしょうか。また小さい子どもたちの手によつて、どれほど多くの小さなささげ物が感謝のささげ物として主の倉に納められることでしょうか。子どもたちは神を忘れず、神をよく覚えるようになるでしょう。

（『レビュ・アンド・ヘラルド』一八九四年二月一三日）

誕生日献金

ユダヤの制度では、子どもの生まれた時には、神ご自身の定められた方法に従つてささげ物をしました。ところが今では、親たちが誕生日に、子どもに贈り物をしようとして苦労しているのが見られます。親はあたかも人間に栄えを帰すのを当然のように思つて、誕生日を子どもに栄えを帰す機会にしています。サタンに取つてはこのことは自分の思う通りになっています。彼は人間の心とささげ物を人間に向けてしまいました。このようにして子どもたちの心を自分たちに向け、自分が特別な贈り物を受けられるものであるように思い込ませてしまいました。神の倉に献金となつて戻り、乏しい人を祝福し、真理の光を世界に伝えるべきものが、その正しい道から離れて、虚栄とか誇りとか自己尊重などを助長して、益をなすより害をなすことがよくおこるのです。誕生日には、神がその愛とあわれみの中に、その一年、

生命をささえてくださったことを神に感謝しなければならぬことを子どもに教えなければなりません。こうして尊い教訓を教えることができます。永遠の生命の望みを与えられていると同時に、この生命や健康、食物や衣類などはみな、すべてのよきものの与え主、神からいただいたものです。ですから神の賜物に対して感謝し、わたしたちの最大の与え主である神にささげ物をささげなければなりません。

(『レビュー・アンド・ヘラルド』一八九〇年二月九日)

神の保護と愛を思い出すため

誕生日やクリスマスや感謝祭などは、神の恵みや愛やあわれみを考えるべき時であるのに、利己的な満足のために用いられることがよくあります。毎年のこういう時期に、神の恵みと絶えざる保護と愛を考えないということは、神を大変悲しませます。

(『レビュー・アンド・ヘラルド』一八九〇年二月三日)

神のご要求を第一にすること

神のご要求は第一です。わたしたちは自分のいると思うものを全部満たした残りを神にささげるようでは、神のみこころを行つていふことにはなりません。収入を使いはじめる前にまず神の求められたものを分けて、神にささげなければなりません。昔の制度においては、感謝のささげ物が祭壇の上でつねに燃えていて、神に対する人間の絶えざる義務を示していました。世的な仕事で栄えたなら、それは神が祝福してくださったからです。それで収入の一部は、貧しい者のためにささげ、さらに多くの部分を神のご用のためにあてなければなりません。神がお求めになるものを神にささげるならば、その残りはわたしたち自身のためきよめられ祝福されます。けれども神の求められたものをささげず、神から盗む

ならば、その収入全体に神ののろいが置かれます。

〔教会へのあかし〕 英文第四卷、四七七ページ

わたしたちの聖なる模範

救いの計画の基礎は犠牲です。イエスは天の宮を去り、彼の貧しきによってわたしたちが富める者となることができるように貧しくなりました。神の子のこのような無限の犠牲の値をもつて買われたこの救いにあずかる者は、みなこの真の型イエスの模範になります。キリストは隅のおや石で、わたしたちはこの基の上に建てなければなりません。おのの自己犠牲の精神を持たなければなりません。

〔教会へのあかし〕 英文第三卷、三八七ページ

キリストは心からの愛の行いを尊ばれる

主は子供たちの贈り物を受け取り、それをささげた者を祝福し、その名を生命の書にしるされた。マリアはイエスに油をそそいだために、他のマリヤたちと区別して聖書にしるされている。イエスに対する愛と尊敬の行為は、イエスを神のみ子として信じる信仰の証拠である。

〔希望への光〈各時代の希望〉〕 九六六ページ

真心と、心から喜んでささげるささげられるもので、小さい献金というものはありません。

〔自然と宗教〕 英文、三五九ページ

神のものとわたしたちのもの

神がご自分の働きを前進させるために定められた唯一の方法は、人々に持ち物をお与えになることで

す。神は人々に日光と雨をお与えになり植物を成長させられます。また人に健康を与え、富を得る力をお与えになります。わたしたちは、彼の豊かなみ手からすべての祝福を受けます。そのかわり神は、人々が什一や諸献金、すなわち感謝献金、自由献金、罪祭のささげ物などをささげ感謝をあらわすことを求めておられます。

（『教会へのあかし 第五巻』英文、一五〇ページ）

愛のささげ物の最高の効果

神は愛の心から出た贈り物を喜んで尊び、神への奉仕にそれを最も効果的にお使いになる。心をイエスにささげたなら、われわれもまた贈り物をイエスのもとに持参するであろう。われわれの金も銀も、われわれのどんなに貴重なこの世の財産も、またわれわれの最高の知的靈的才能もみな、われわれを愛し、われわれのためにご自身をお与えになったイエスに惜しみなくささげられるであろう。

（『希望への光（各時代の希望）』六九五ページ）

繁栄の条件

宗教と慈善の目的のためにへブル人に要求された献金額は、彼らの収入の四分の一に及んだ。人々の財産に、このような重税が課せられたのでは、人々は貧困に陥ってしまうと思われるであろう。ところが、この規則に忠実に従うことが、彼らの繁栄の条件の一つであった。

彼らの服従を条件に、神は、こう約束なさった。「わたしは食い滅ぼす者を、あなたがたのためにおさえて、あなたがたの地の産物を、滅ぼさないようにしましょう。……こうして万国の人は、あなたがたを祝福された者となえるであろう。あなたがたは楽しい地となるからであると、万軍の主は言われる」（マ

ラキ書三章一一、一二節。

『希望への光（人類のあけぼの）』二七四ページ

献金の動機の記録

わたしは記録天使が、神の倉に入れられたすべての献金と、そのようにしてささげられた資金が死後にどういふ結果をもたらしたかを忠実に記録しているのを見せられました。神の御目は神のご用にささげられるすべての金銭をごらんになり、ささげる者がそれを喜んでささげたか、惜しみながらささげたかもごらんになります。献金の動機も記録されます。神がご要求になるように神のものをお返しする犠牲的で献身的な者たちは、その行為に応じて報いを受けます。たとえこうしてささげられた献金が、あやまって用いられ、献金した人の考えているような目的、つまり神の栄光と魂の救いという目的を達成しないとしても、ただ神の栄光を目的として真心から犠牲をした人は、決してその報いを失いません。

『教会へのあかし』英文第二巻、五一八、五一九ページ

第六部 運営上の指導原理

第六部 目次

目的に従って	137
形式主義の害	138
安息日学校の働き人の献身の必要	140
安息日学校の働きのための訓練	141
神に信頼すること	141
忍耐強い忠実さの必要	143
成功を収める協力	144
成功に必要な聖霊	144
眞の指導者の不足	147
組織的ではあるが霊に欠ける	147
役員選挙	148
校長へのすすめ	149
子どもの観察	152
時間厳守	152
定刻に始める	153
誤った生徒の対応	153
知恵と忍耐を必要とする	154
尊敬を得る方法	155
自分の子ども時代の経験をおぼえよ	158
沈黙の力	158
訓練と秩序の必要	160
自制を保て	161
けん責、非難、小言は無用	161
競争と賞品	162
安息日学校と教会の礼拝	163
グループの安息日学校	164
キャンプミーティングの安息日学校	164
地方の講習会	165

第六部 運営上の指導原理

目的に従って

安息日学校の目的は、機械的な手はずなどのために見失われてはならず、他の大切なことのために時間をとっておかなければなりません。わたしたちは、わたしたちの働いている目的を覆い隠してしまうような形式や儀式にいつも気をつけなければなりません。あまりにもプログラムが組織的に実行され、安息日学校をあきあきしたものにする危険があります。本当はその反対に、心地よくすがすがしい祝福とならなければなりません。

宗教的なことに十分な時間を費やせないほど、さまざまな変わったプログラムを行い、安息日学校の清らかさと単純さを失ってはなりません。学校の成功は、その単純さと、熱心に神に仕えることにあるのです。順序や決まりがなければ何もできませんが、さらに大きな、大切な義務を見失ってしまっているかもしれません。表面上の予備的なことや組織のことはあまり生徒に語るべきではなく。彼らの魂の救いについてもつと語らなければなりません。これが学校の原則にならなければなりません。

冷たい形式の危険

イエスの愛の物語を、教師や校長が心にイエスの愛をもって生徒に話すならば、心を打ち、悔い改めに導く力を持つことでしょう。あなたの心がイエスの愛とあわれみに触れるとき、あなたは生徒のため

に働くことができます。福音の単純さを心に留めていなければなりません。上よりの助けによって主のために忠実に働くことができます。心の働きがなければ、ほかの努力はみな無駄であることを教師はいつも念頭におかなければなりません。

学校の教師や運営の任にあたっている人は、何をするにも同情と愛をもつてしなければなりません。冷たい形式の代わりに、熱意とエネルギーを持たなければなりません。生徒にこれが最高の教育であると悟らせるために、イエスの愛が学校全体に満ちていなければなりません。厳格さやあら探しが学校や安息日学校の中に見られてはなりません。これは学校の指導にあたるすべての人の心から遠く捨て去られなければなりません。

学校の形式や、機械的な運営について誇ってはなりません。それよりもイエス・キリストに魂を導いたりした良いことを誇らねばなりません。機械は人の思うままにきちんと仕事をするように作られます。しかし魂が入っていません。そのように、形式が第一を占めている学校では、石と同じように生命がありません。学校に関係するすべての者が自分の責任を自覚し、この世のためばかりでなく、永遠のために仕事をしていることを感じるならば、どの部にも秩序と調和が見られることでしょう。

（『安息日学校へのあかし』英文、八九、九〇ページ）

形式主義の害

組織そのものが悪いものではありません。害というのは、組織を万能にして、生きた神性の経験を軽視することから生じます。形式や機械的がことを第一になると、簡単にすべきところに大変な努力が払われて害になり、費やした努力に比例してほとんどよい結果を得ることができません。組織の目的はまっ

たくその反対です。もし組織をなくしてしまえば、今まで建てたものを取り壊すことと同じことです。安息日学校や伝道委員会において、機械的なことをあまりにも重視したために、生きた経験を見失い、害がもたらされました。改良と思われることが多くなされましたが、人間的な型がおされたにすぎませんでした。安息日学校では、霊的でない人、また委ねられた仕事に何の生きた興味も持たない人が、教師または役員として受け入れられています。しかし物事を秩序よくすることは、聖霊の助けによつてのみできるのです。……

多くの者が神に自らを完全にささげ、その賜物を安息日学校に用い、つねに知識に進み、どういう方法が一番良いかを人々に教えられるように自ら学ぶならば、まったくありさまは変わってしまうことでしょう。けれども劇や音楽などに時を費やして、何か見せ物をするのできる方法を求めてはなりません。これはだれにも益を与えません。特別なプログラムのために子どもたちにスピーチをさせるように訓練することも役に立ちません。人に見せるために時や金を費やして努力するかわりに、子どもたちをキリストに導き、収穫の束を集めるため全努力を向けなければなりません。

学校を組織して、生徒たちを、決められた儀式や形式に従つて行動させることが安息日学校の大切な働きだと思つている人が多いようです。また教師になる人がありさえすれば、安息日学校は自ずと運営されるであろうと思つています。教師になった人が、自ら主の尊さを知つていないために、魂をキリストに導くことができな場合があります。キリストが彼らに求められるように魂の価値を知つて、魂のために働くこととしない者は、みなその魂をキリストから散らしてしまいます。次の聖句に注目してください。「わたしとともに集めないものは散らすのである。」もしも教師が魂をイエスに導こうという重荷を負わないならば、真理に無関心になり、不注意になり、彼らの感化はかえつて魂をキリストから散ら

してしまいます。そして、このような分子が安息日学校にいれば、いつも争いや困難が起きます。教師は仕事に従事しながら興味をもっていないならば、生徒も同じ気持ちを持つようになります。

（『キリスト教教育の基礎』英文、二五三、二五四ページ）

安息日学校の働き人の献身の必要

安息日学校の働きにたずさわる人は、自らを神にささげた人でなければなりません。強い信仰と温かい同情を持ち、熱心で、キリストの働きのことなら何にでも興味を持つている人でなければなりません。無我の努力をもって自らを働きにささげ、どんな犠牲を払っても自分を祭壇にささげて、委ねられた若者の改心のために大きな嘆きと祈りをもって執りなす人でなければなりません。主のために安息日学校において働こうとする者は、利己的な野心をみな十字架につけ、「何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え」（フィリピの信徒への手紙三章三節）ます。安息日学校の働き人の第一の願いは、若者に、神を畏れ、単純さをもって彼らの義務を果たすように教えることです。

安息日学校の大きな欠点は、組織の欠乏ではなく、霊的事柄の知識に欠けていることです。働き人は聖書のバプテスマを受け、神のため真の伝道者となることをどんなに必要としていることでしょうか。聖書の真理をもつとよく知るために、頭を最大限度に働かせることを学ばなければなりません。安息日学校の教師は、聖書の宝を若者の心に開くことができるよう、天より光を与えられることを毎日祈らなければなりません。主のみ前に自らへりくだって、聖霊の感化がその品性と働きにあらわれるようにされてはいかでしょうか。安息日学校の働きにたずさわる人は、あまりにも、ひとりよがりです。また、

あまりにも組織や決まりごとがあつて、これはみな、生ける水の泉から魂を離れさせてしまいました。

（『安息日学校へのあかし』英文、七三、七四ページ）

安息日学校の働きのための訓練

わたしたちの中には、教育を受けた人が少なく、安息日学校や教会の運営の働きをするために十分な訓練を受けた人がいません。真理を知っている人もそれを上手に人に話すことができないほど理解していません。真理の神聖さと尊さを人にはつきりわからせるように話す備えができていないのです。訓練を少なくするどころか、もつと行き届いた訓練が必要です。自分がどのような状況に置かれるかを予告することができる人はいません。すぐに物事を見分け、よく整つた議論を必要とする境遇に置かれることもあるかもしれません。ですから、キリストのみ栄えのために、よく教育を受けた働き人が増えるべきです。その人は、真理をはつきり賢く伝えることができます。真理は、できる限り欠点のない方法で人々に示さなければなりません。

（『キリスト教教育の基礎』英文、二五六、二五七ページ）

神に信頼すること

わたしたちの安息日学校は、主が望まれているものではありません。なぜなら、あまりにも形式や組織に頼りすぎている一方で、キリストが死なれた魂の改心のために、神の生命を与える力があらわされていないからです。安息日学校がその目的を成し遂げようとするとするならば、このことは必ず変えなければなりません。校長や教師が神に自分自身を完全にささげるならば、ただ決心するばかりではなくて、その決心を実行に移します。安息日学校や教会学校の働き人が、神に頼らなければならないことを十分に

自覚して、その適当な働きにつくならば、キリストの恵みが与えられて、人間の努力と一致します。人が罪をさとして改心するには、人の努力と神の力との協力によるものであることをすべての働き人が知ることが大切です。

魂を救う伝道

安息日学校の校長や教師は講壇に立つ牧師と同様の全的な献身を、持ち続けなければなりません。なぜならば、みな同じくキリストに魂を導く働きをしているからです。それぞれがその立場でキリストのように愛の精神をもって、誤りを犯した者や、悔い改めようとしないう人々のために働かなければなりません。キリストは、安息日学校がこうした働きをするのをお望みになります。……天の父のみ顔を見る神の天使は、あなた方が神の生きた代表者として救いの道を教えている子どもたちや青年たちの顔を見ています。校長や教師方よ、このことを考えてください。あなた方は天使の前で働いているということ。そしてその働きの具合によってキリストへの忠誠をあかしすることもでき、不忠実をあかしすることもできることを。……

聖霊に助けられる

安息日学校の校長や教師は、悔い改めた人で、習慣的な冷淡さより救われていなければなりません、尊い真理の教えを退屈な活気のない方法で教えず、日ごとに主と交わり、毎日義の太陽から輝く光を受けて魂をキリストに導く努力に生命を与える力を加えねばなりません。いつも心にキリストのことを思い、思想も心の動きも霊的なもので、教え方も聖霊に導かれたものでなければなりません。聖霊が人の

心に豊かに与えられるとき、人々は最善の努力を尽くすようになり、神が彼らの中に働いてみ旨を行わせ、神の喜ばれることをさせるのです。

「あなたがたはわたしを離れては何もできないからである」とキリストは仰せになりました。働き人は一人でいる必要はありません。神の霊が与えられる目的は、彼がみ旨を行い、神の喜ばれることをして、肉の備えをしたり肉の欲を満たしたりしないようにするためです。教師たちよ、聖霊の導きに従ってください。神の霊が子どもたちや青年の心をひいておられる間、あなたも、柔和と愛を持って招き、彼らが心を神にささげるように訴えることができます。

子どもたちや青年は、キリストによつて買われた者です。キリストは、はかりしれない価をもつて彼らを買われました。イエスは子どもたちを愛しておられます。あわれみをもつて青年を眺められます。悪魔が広い道を見せて、そちらへ誘惑しようとしているのをご存じです。そしてイエスは、この未経験な魂を家で、学校で、安息日学校などで、特別に守るように、天使にお命じになります。聖霊は絶えず彼らに働きかけ、神に近づけようとしています。神と共に働く人は、自分の責任を感じ、魂をキリストに導くように熱心に働きます。

〔安息日学校へのあかし〕英文、四一〜四四ページ〕

忍耐強い忠実さの必要

神の聖徒たち（カレブ、ハンナ、ドルカス）のように、忍耐深く、熱心な祈りの精神をもつて、忍耐強く忠実に仕えるということは珍しいことです。しかしそれがなければ教会は栄えません。教会でも、安息日学校でも、社会でも、それが要求されています。

〔安息日学校へのあかし〕英文、一〇九ページ〕

成功を収める協力

安息日学校の働きの人は特にキリストの靈に満たされていなければなりません。彼らの心に、信仰によってキリストが内在しておられなければ、キリストと共に働くことはできません。……子どもたちは、宗教的教養に関して、もつと積極的な努力を必要としています。指導者と教師は力を合わせて一致して働かなければなりません。保護者、子ども、教師が協力する必要があります。働き人はみな、知恵と技巧が与えられるように努め、神が求めておられる、心を注いだ熱心な努力ができるようにしなければなりません。気転と鋭い識別力を養い、善をなす機会をすみやかに認め、その機会を最善に用いるようにしなければなりません。

（『安息日学校へのあかし』英文、二〇ページ）

成功に必要な聖靈

安息日学校の役員も教師も、真の教育家となり、思想を啓発し、聖徒に教え得たことを思い起こさせるために、聖靈の導きと教えが必要です。キリストのみことばとみ働きをはつきり心にわからせるのは聖靈の働きで、聖靈は、世の救い主について教える者が組の者の心の前にキリストを高く掲げる力を与えられます。安息日学校の校長、役員、教師といった責任ある地位に神の男女が選ばれるために、安息日学校のすべての面において聖靈の助けが必要です。

いつも安息日学校の運営を一人の人にまかせることは賢明ではありません。なぜなら、その人自身の考えなり理想なりで安息日学校を型に入れてしまうからです。新しい思想を与え、学校を靈的生活に向きさせるような人がいなければなりません。安息日学校は、長い間忠実に働いてきた人に愛着を持って

いるかもしれませんが、教師や生徒の好みよりも学校全体の利益を考えなければなりません。人員を変更して、心に魂への重荷を感じている人々を入れることによって、学校が利益を受けることがはっきりわかったならば、その変化を妨げるものがあつてはなりません。自己を高める野心を持たない人であるならば、たとえこのようなわけで退いても、安息日学校の生徒の進歩向上の役に立つことならどんなことでも心から協力します。歳をとった経験者は、神の働きを進めることを心得ています。若いまだ働きに慣れていない人は、与えられた仕事を忠実に成し遂げた年長の兄弟たちの模範にならない、よきわざになくしてはならない成功を収めるため、知恵と気転を習得しなければなりません。……

大切な問題

教会の中に真理にしつかりと根をおろして、堅く立っていない人が多いのは、どういうわけでしょうか。教会の中に、暗闇の中を歩み、光を持たず、冷淡で、不平不満に満ちたあかしをする人が多いのは、どういうわけでしょうか。また試みに負けた悲しい話をいつもしながら、禁じられた道にさ迷い出ようとする人がいるのは、どういうわけでしょうか。教会員は自分たちの責任を感じているでしょうか。長老や執事は、弱くて迷っている者の世話をしているでしょうか。そして彼らは、さ迷う者たちが、魂を失う危険にさらされていることを理解しているでしょうか。あなたは、教えと模範によつて、さ迷う者の足を永遠の岩の上に置くように努力したでしょうか。安息日学校の教師や役員は、若者たちの足を安全な道に導くことは、自分たちの仕事であり、主のために魂を得るためには、利己的な利益は考えるべきでないことを知っているのでしょうか。働きのあらゆる分野で、改革が必要とされています。

光を与える力

安息日学校の働きには驚くべき機会があるのにこれらは見過ごされています。さまざまな賜物を持った人がこの働きに加わり、神を畏れつつ青年を救うために最善をつくしましょう。物事を組織的にする人に学校全体を指導させ、一定の形式的な形をつくり上げ、それでいて多くの細かい規則のために生命を失ってしまうようなことがあつてはなりません。秩序をもつてすることは大切ですが、規則などと一緒に、さらに多くの霊的知識が必要です。わたしたちの学校が、真の敬虔と純潔な雰囲気を満たされるためには、生命を与える力、熱心、真の活発さが必要です。それらによつて、真の宗教的進歩が見られ、神を畏れる精神が学校中にみなぎるようにしましょう。校長も役員も死んだ形式的なプログラムで満足せず、あらゆる努力を行い、学校が世界で最も優れ、最も効果的なものになるようにしましょう。これが学校のすべての働きの目的、大望でなければなりません。

真の校長を求め

わたしたちの学校の指導者はするどい直感力を持った人、聖霊を与えられて人の心を読むことができ、人、運営の才能を持った人、性格の違った面を理解できる人、またいろいろな心がった心を持った人を扱い気転と知恵を持った人でなければなりません。名前だけの校長の地位を占める人はたくさんいますが、真の校長として、その地位を占める人が必要です。形式だけを巧みに指導できる人はたくさんいますが、彼らは勇気と希望を与え、考えさせ、活動を起こさせ、生命をわけ与えて、学校をして善をなす、生きた、成長しつ々ある力となすことはできません。

また教師たちのしなければならぬ大きな働きがあります。子どもたちを導き、彼らの心を伸ばすにはどう働けばよいかを知るために努力しなければなりません。青年や子どもたちを巧みに扱うには上よりの知恵が必要です。教師の中には、近視眼的な人が多くいます。そういう人は青年をよい方へ導かず、そこには進歩の代わりに退行が見られます。教師にも生徒にも聖霊が与えられることが必要で、ときどき改革を起こすのではなくて、つねに恵みに成長し、絶えず霊的生命と力を受けるようにしなければなりません。

『安息日学校へのあかし』英文、九一〜九四ページ

真の指導者の不足

わたしたちの子どもたちや青年を教える安息日学校は、あまりにも表面的です。指導者はもつと深く耕す必要があります。もつと考え、もつと熱心に取り組む必要があります。聖書をもつとよく研究し、もつと深い信仰経験をもち、主にならつて安息日学校を開く方法を学び、子どもたちや青年を救い主に導くことができるようにならなければなりません。自分に与えられた才能を用いることに神への責任を感じている人、自己を示したり、虚栄を求めたりしないで、ただ良きことをなし、能率的で、物をよくわきまえた人々が欠乏しているために、この方面の働きが十分になされていません。

『安息日学校へのあかし』英文、一一一ページ

組織的ではあるが霊に欠ける

わたしたちの活動は、より高い向上したところに到達しなければなりません。イエスの霊が働き人の魂を活気づけるようにしましょう。そうすれば彼らの計画も働きの方法も、イエス・キリストに魂を導

くものとなります。大きい教会などでは子どもたちも青年もたくさんいるので、安息日学校を単なる形式的、機械的に行うばかりで、靈に欠けたものにしてしまう大きな危険があります。そこにはイエスが欠けているのです。

（『安息日学校へのあかし』英文、一四ページ）

役員 の 選 挙

クリスチャン婦人は、青年や子どもたちによい感化を及ぼすことができます。彼らの才能は神からの賜物ですから、主のご用のためにすべてをささげなければなりません。多くの人は物事の分別があり、効率的に行動しますが、神と密接につながっている必要があります。彼らは品性を向上させ、青年に神の与えられた才能の用い方を教える、新しい方法を求めなければなりません。

役員を選出するときは、人の好みによらないで、真に神を愛し畏れ、神を相談相手としていると確信できる人を、信頼された地位に選ばなければなりません。神に対する愛も畏れもないとすれば、どんなに賢い人でも失敗するでしょう。イエスは、「わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである」と仰せになりました。役員を選出は、安息日学校の生徒に任せておいてはなりません。時おり役員を変え、学校にとつてよいことです。一人の人の考えが、多くの人を型に入れてしまつてはいけません。その人はいくつかの優れた資質を持っているかもしれないが、いくつかの欠けたところも持っています。他に選ばれた人は前任者の欠けた面に優れた才能を持っているかも知れません。違つた頭や力量が新しい思いつきや考えをもたらします。そして、それは不可欠なことなのです。しかし、何よりも、単純な魂の持ち主で、真理の中を歩み、神を愛し畏れ、神の学校で教えを受ける人を選ばなければなりません。このような人こそ、生徒を進歩向上させます。賢明な教師のもとにあつて、生徒た

ちは神のみことばに深い興味を感じ、さらに理解を深めることができます。どの教課でもキリストをその主題にしましょう。キリストが弟子たちに与えられた教訓は何よりも大切です。

〔安息日学校へのあかし〕英文、八三、八四ページ〕

校長へのすすめ

安息日学校では、なすべき熱心な取り組みがあります。そしてその運営の任にたずさわっている人は、知恵と気転を持って働かなければなりません。心に働きかけ、正しい感銘を与え、品性の正しい型を与えることは、立派な大切な働きです。いつも教え込もうとばかりしないで、生徒の才能や力量をひきだそうとする人は賢明な教師です。

安息日学校の校長の義務について、いろいろな人から質問の手紙をいただきました。教師や生徒の心に、深い興味を起こすことができないといつて憂いている人が言われるには、わたしはその人々のために大切であると思うことについては、時間をとつていろいろ話しましたが、それでもまだ興味が大いに欠けていますとのことでした。彼らは信仰的に心を動かされていないのです。わたしは、この正直な兄弟に、また同じような困難のもとにある人々に申しあげます。この宗教的興味の欠乏の責任の大半は、あなたにあるのではないかと反省していただきたいのです。

長々した話

多くの校長が、自分であまりにも多くのことをしようとし、教師や生徒に彼らができることをするように励ましていません。彼らは単純さと宗教的熱心さを一層必要としています。彼らは安息日学校でも

教師会でも長い無味乾燥な話をして、教師や生徒の心を疲れさせています。そのような話は場違いなものです。彼らは、学校の本当の必要について話をしていませんから、心をひきつけることができません。それというのも彼らが霊的同情に満たされていないからです。長い話をして、安息日学校に対する興味も愛もなくなってしまうことに気づいていないのです。……

働きの心が、キリストと一つになり、生きた信仰によつて、キリストが彼らの心に住まれるとき、彼らは今の半分も、長く話すことも賢さをあらわすこともないでしょう。彼らが愛をもつて単純に語ることは心に届き、教師と生徒と教会員と親しく交わるようになるでしょう。

単純の力

真の教育者は聞く人の心を自分にひきつけます。ことばは少なくとも熱心です。心からのことばです。から同情に満ち、尊い魂への愛に満ちて温かいのです。彼の教育上の利点は限られていても、また才能はわずかしか与えられていなくても、働きの愛し、謙遜に喜んで働こうとする意欲によつて、彼は教師と生徒の両者に深い興味を起こさせることができます。若者の心は彼にひかれます。彼の働きの単なる形式ではありません。また教師や生徒から、霊的、知的の尊い宝を引き出すことができ、他人を教えるしながら自分を教育することができます。生徒たちは彼の深い知識を見せつけられて圧倒させられることはありません。彼らは、教課から何を学んだかを単純なことばで表現します。その結果、学校には深い生き生きした興味が起こります。キリストの福音の単純さを通して、彼らの心は動かされます。そして彼らの心はとかされ、今や、主のみかたちに彼らを形づくることのできるのです。

するどい知性は役に立つかもしれませんが。しかし教育者の力は、世界の光と生命なるイエスに彼の心

が結びついていることにあります。彼は人類を愛し向上させようといつも努めます。いつも他人を責めたりせず、心は同情に満ちています。また自分を偉い者であると思ったり体面を保つことばかりを考えたりせず、イエスの謙遜をそのまま自分自身の生涯にあらわします。「わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである」とのイエスのみことばの真理をよく感じます。このような教師が大いに要求されています。神は彼らと共に働かれます。「わたしは柔和で心のへりくだった者であるからわたしに学びなさい」とキリストは仰せになっています。安息日学校に働いている人の多くは天よりの光を必要としています。彼らには、自分たちの働いているところの人々の必要を理解するための霊的洞察力が欠けています。……

批評や鋭さは避けること

校長たち、教師や生徒の前で叱つたり、小言を言つたりしてはなりません。学校によい感化を及ぼさうと思うならば、鞭むちを捨て、すべての者をあなたと一緒に天に引きあげるような、感化を及ぼすことです。計画をたてたり学校の規則をつくつたりするとき、できる限り学校の声を代表するようにしましょう。ある学校では鋭い批評の精神があります。形式や規則を重大視して、もつと重要なこと、すなわち神のあわれみや愛が無視されています。みな快活になりましょう。もしもだれか心に雲がかかっていれば、まず日光の素で運動してから安息日学校に入ることにならう。いつも失望ばかり話したり、子どもたちに感謝の心が無いといって子どもたちに不平ばかり言つたりする母親は、子どもたちを正しく治めることができません。教師や校長のあなたもそうです。この点に欠けていることに気づいた場合は、そのようなことを口に出して感化力を弱らせることなく、かえって静かにそれを正すような感化を与え

ることです。よく組織され、よく訓練の行き届いた学校ができるように計画をたて、研究してください。

〔安息日学校へのあかし〕英文、一六〇―一九ページ

子どもの観察

安息日学校のある校長が、あるとき話をしていました。その話は無味乾燥なものでした。ある母親が十歳になる娘に、話がおもしろかったかどうか、「教師は何を話しましたか」と尋ねてみました。女の子は「あの人は話して、話して、話して、何も言わなかった」と言いました。わたしたちの働きについてそのように言われたくありません。わたしたちは働きのためできる限りのよい教育を受けて、自分が学んだことを人にうまく教えることができるようにしたいものです。

〔安息日学校へのあかし〕英文、一一一、一二二ページ

時間厳守

安息日の朝、いつも時間に遅れる人がたくさんいます。とても悲しいことです。しかしこの人々は、自分たちの時間には非常に注意を払っており、一時間も無駄にしません。主がわがものであると仰せになった七日のうちの一日の主の日は、主にささげるように要求されているのに、相当の時間が朝遅くまで寝ているために浪費されています。これは神のものを盗んでいるのです。こうして彼らは何にでも遅れます。それは家族に混乱をもたらします。そしてついには家族全員が安息日学校に遅れ、ときには集会にも遅れることとなります。なぜ鳥と一緒に起きて、神に賛美と感謝をささげられないのでしょうか。兄弟姉妹たちよ、次のようにしてみてください。前日にすべての準備を整え、安息日学校や集会に早く

行きましょう。そうすれば人に益を与えるばかりでなく、自分も豊かな祝福を受けます。

〔ユース・インストラクター〕一八七九年三月一九日

定刻に始める

会議や祈りのための集会は長くしてはなりません。できればみな定められた時間どおり集まらなければなりません。もし三十分、十五分おそい人があっても待つてはなりません。出席者が二人だけであっても、約束を主張することができます。集会は人が多くても少なくとも、できれば定められた時間に始めなければなりません。

〔レビュー・アンド・ヘラルド〕一八七一年五月三〇日

誤った生徒の対応

安息日学校の働きでは、誤った者、罪と過失に陥った者を、どう対応するかが求められることがあります。誤った者については、キリストがみことばの中にはつきり教えておられます。しかしこの教えを実行しない人が多いのです。彼らはこれを学んで心にたくわえていないので、聖霊が暗い理解に光を与え、教師や生徒の石のような心をとかし、また、それを砕くことができません。聖霊は心を敏感にし、同情心を与え、誇りや利己心を取り去ります。

安息日学校の生徒はいたずらして教師を困らせるようなことをしがちです。けれども教師は、鋭いことばを言ったり、短気をおこしたりしてはなりません。そうすればそれは霊の剣を用いているのではなく、サタンの武器を用いていることとなります。生徒のいたずらは困ったことであり、悪を正されなければならず、規則を守り、正しいことを尊ばなければなりません。それでも教師は主の道に従い、正

義にあわれみをまぜなければなりません。カルバリーの十字架をながめ、そこであわれみと真実が一つになり、義と平和が一つになっているのを見ましょう。ここでは、神の犠牲によつて人間は神と和解することができるのです。キリストの愛をよく黙想すれば、心はとかされ、主の家族の若者たちに対応することができるようです。彼らはキリストのものであることを思うとき、キリストが自分を扱われたように彼らを扱おうという気持ちを持てるようになります。

厳しい対応は、青年に誤りを認めさせ、改革をうながすに何の役にも立ちません。学校の規則はイエスの精神によつて実行され、けん責しなければならぬときには、それを悲しみと愛を交えてすることにしましょう。生徒をみんなの前で叱責し、学校全体の前ではずかしめることがあなたの働きであると思つてはなりません。これは子どもたちに示すよい模範ではありません。なぜなら、それは似たような収獲を結ぶ種になるからです。知らせなければならぬ人々以外には、生徒の誤りを語つてはなりません。もし言つたりすると間違つたことをした人に同情が集まり、不正に取り扱われたという感じを持たせるからです。悪を行つた人を公表すれば、彼はサタンの戦場に投げ出され、その時から墮落してしまふかも知れません。主はわたしたちのために長く耐え忍んでくださいます。わたしたちもキリストのようにならなければなりません。キリストはわたしたちが間違つたからといつて見捨てず、やさしさをもつてけん責し、愛によつてわたしたちをご自身に引き寄せてくださいます。

知恵と忍耐を必要とする

教師がもしも、ある生徒を組の訓練にどうしても従わせることができなければ、この生徒をほかの組に移したらよいでしょう。欠けたところをほかの教師が補つてくれるかもしれないからです。ある教師

に欠けたところを、他の教師は持つているかもしれない。しかし、もしあなたが少年の信頼を得ることができ、同情と愛のきずなで彼の心をあなたの心に結びつけることができれば、キリストに魂を導くことができるかも知れません。わがままな、言うことをきかない少年の品性が、一変することがあります。

生徒に愛と同情をあらわすことは必要ですが、不公平を示すことは、弱さをあらわし、これによって疑いやねたみをひき起こします。子どもはすぐ教師がひいきしているのを見破り、ひいきされた生徒はクラスを教えている教師と自分の力量、才能などをくらべるようになります。そして自分が指導者になるうとすることもあります。その時、教師にキリストの恵みがなければ、弱さをあらわし、忍耐力を失い、やかましく、きびしくなります。また組の指導的生徒の精神は、ほかの生徒にも移って、みんなが指導者になろうとします。もし教師がキリストの恵みによって自制し、しっかりと忍耐強く物事を処理すれば、騒ぎ出そうとする分子をしずめ、教師の自尊心を保ち、生徒の尊敬も得ることができません。秩序を回復したら、親切、やさしさ、愛情をあらわすようにしましょう。騒ぎは何回も起きるかも知れませんが、短気を起こしてはなりません。悪い生徒に厳しく話してはなりません。悪の勢力と闘っている魂を失望させるはなりません、静かに神に助けを祈り求めましょう。天使たちはあなたのそば近くに来て、敵に向かって旗をかかげるのを助けてくれます。そして、誤っている者を切りはなさないで、かえってキリストに魂を導くようにします。

『安息日学校へのあかし』英文、七七、八〇ページ

尊敬を得る方法

教師は、問題がどんなに難しいものであっても、イエスの精神をもって対処しなければならぬことを覚えましょう。争いに争いをもつて向かつてはなりません。わがまま、頑固、怠惰、ふざけなどを扱

わなければなりません。どんな場合にも親切と愛をあらわし、忍耐と自制によって、生徒たちへの愛を失うことなく、ただ生徒のためを思っているということがよくわかるようにしなければなりません。生徒を信頼していることを示さなければなりません。生徒の家を訪問し、また自分の家に招き、ことばのみでなく、行いとまことをもって愛していることをあらわさなければなりません。

教師は、特別に威厳を身につける必要はありません。なぜなら、生徒の尊敬を得る方法は、キリストのような態度をもち、親切とクリスチャンの礼儀によるほかはないのです。教師は、イエスが弟子たちを教育されたように教育しなければなりません。どんなに時がたつても消えない印象を残さなければなりません。彼の感化は、生徒を神の型に従って形づくられなければなりません。そうすれば、ただ永遠のみが彼の働きの価値を告げることができるでしょう。教師は、生徒の心の中に道徳的性質を目覚めさせ、神が働きかけられるのに答えようとする望みを起こさせるようにしなければなりません。

意志をくじくこと

利己的で気難しく、独裁的で乱暴で、人の感情を何とも思わないような人を教師にしてはなりません。こういう人は、生徒に恐ろしい感化を与え、自分の型の通りに生徒を教育し、悪を永続させることでしよう。この種の人は、生徒が暴れるならば生徒の意志をくじこうとします。けれども、キリストは誤った者をこのように扱うことを許しておられません。教師は天の知恵と柔和とへりくだりの心を持って意志を導き、服従の道に導くことができます。しかし、おどかして生徒の愛を得ることができると思っておりません。キリストが働かれたように働かなければなりません。

人の悪の感化はよく知っている人も、自分の悪は小さいと思っている人がたくさんいます。変えなけ

ればならない性質を持つているのに、少しも気がつかないでいる人が多いのです。他の人にはこのいやな性質がよくわかっています。非難されでもすると、自分は誤解されているのだと思います。教師は、よく永遠の光に照らして自己の心を反省し、生徒に望んでいることを生徒の前であらわさなければなりません。彼は日ごとにキリストの学校で学び、木につらなる枝のようにキリストのうちにとどまり、キリストより学んだものを他に分け与えなければなりません。

自己訓練

生徒を訓練しようとする教師は、まず自分がキリストに支配されなければなりません。「わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ」とイエスは仰せになりました。天よりの光を受けて、あなたはキリストがお働きになったように働くことができます。それは、キリストの光があなたを通じて、あなたの交わるすべての悔い改めない罪人の道を照らすからです。あなたは本当に神の道の教師ですか。もしあなたが悔い改めた教師なら、キリストがそのために死んでくださった魂を追い返すのでなくて、獲得でき、離れさせるのではなく、引きつけることができます。あなたはキリストの囲いの中にいる羊や小羊の世話をするようになります。もし彼らがさ迷い出るならば、放っておいて死なせたりせず、すぐに失われたものを捜し求めて救うために出かけます。あなたがこの良い働きをするのを全天が助けようとしています。まったく改心の見込みもない、手に負えない者の心のとびらを開こうと努力するあなたを天使たちが助けます。あなたはキリストを通して特別な恵みと力を受けます。キリストは、豊かな満ちあふれる中からあなたの必要を満たしてください。そのとき、神と共に働くものとして資格ができ、キリストと一つになって失われた者の救いのために努力し、あなたの愛の働きの結果は、現在見ら

れるばかりでなく、永遠にわたって見られます。

『安息日学校へのあかし』英文、八〇〜八二ページ

自分の子ども時代の経験をおぼえよ

ある両親やある教師たちも同じですが、自分たちがかつて子どもであったことを忘れているようです。彼らは威厳を備え、冷たく、同情心がありません。家庭でも、学校でも、安息日学校でも、教会でも、どこでもこの彼らが子どもと接するときには、同じ権威の雰囲気を保ち、顔はいつもいかめしく、叱るような表情をしています。彼らは、子どもらしい喜び、わがまま、子どもが休みなく動きまわることを許すことができません。ちよつとしたいたずらも大変な罪のように扱われます。このような訓練は、キリストの方法ではありません。こうして訓練された子どもたちは、両親や教師を恐れますが愛しません。彼らは自分たちの子どもの頃の経験を話しません。頭や心の一番大切な性質のいくつかは、小さい芽が冬の風に折られるように、凍え死んでしまいます。

両親たち、微笑んでください。教師たち、微笑んでください。悲しいならそれを顔にあらわさないでください。愛と感謝の心からくる光で顔を明るくしてください。威厳を脱ぎ捨て、子どもたちの必要に応じ、子どもたちに好かれるようにしてください。子どもたちの心に宗教的な真理を印象づけようと思ふなら、彼らの愛を手に入れなければなりません。

『キリスト教教育の基礎』英文、六八ページ

沈黙の力

他人を支配しようと思う者は、まず自分を支配しなければなりません。子どもや青年を怒って扱えば、ただ怒らせるばかりです。両親や教師が短気を起こし、賢明でないことを言う危険があれば、黙ってい

なさい。沈黙には驚くべき力があります。

教師は、意地悪や強情な心の持ち主に会おうことを覚悟しなければなりません。しかし、この子どもたちを扱うとき、自分も一度は訓練を必要とした子どもでもあったことを忘れてはなりません。年齢をかさね、教育を受け、経験を経た今でさえ、ときどき間違え、あわれみと忍耐を必要としています。青年を訓練するとき、自分と同じ悪への傾向をもつた者を扱っていることを忘れてはなりません。子どもたちは、これからいろいろなことを学ばなければなりません。ある者は他の者より覚えるのがはるかに困難です。にぶい生徒は、忍耐して、無知をせめるのではなく、できる限りの機会を利用して励ましていかなければなりません。感じやすい神経質な生徒は、非常に気をつけて、やさしく扱わねばなりません。自分の不完全なことを知って、困難と戦っている者につねに同情をあらわし、忍耐しなければなりません。「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」という救い主の規則は、子どもたちや青年の訓練にたずさわるすべての人の規則でなければなりません。彼らは主の家族の若者たちで、わたしたちと共に生命の恵みを受け継ぐ者なのです。最もにぶい人、最も若い人、最も間違いの多い人、最も誤る人、最も反逆する人に対してすら、キリストの規則をかたく守らなければなりません。

キリストの広げられたみ腕

天の教師は誤った者をいつまでも忍耐して待つておられます。彼の愛が冷えたり獲得しようとする努力がやんだりすることはありません。神は両腕を広げて、誤った者、そむく者、背教した者さえ、何回でも歓迎しようと待つておられます。彼の心は、ひどい取り扱いを受けて、小さな子たちの無力さに傷

められます。人間の苦しみの叫びは、彼の耳にむなしくは聞こえません。彼の御目にはすべてが尊いのですが、乱暴で気むずかしく、強情な性質に一番同情して愛を注がれます。なぜなら彼は、原因から結果までお調べになるからです。一番試みられやすい人、一番誤りやすい人を特別に心にかけてくださるのです。

すべての親とすべての教師は、悩む者、苦しんでいる者、試みられている者と一つになってお苦しみになる神の性質を持たねばなりません。教師は、「無知なるもの、迷える者を思いやる者でなければなりません。なぜならば、自らも弱きにまとわれる」からです。イエスはわたしたちが何ら取るに足りない者であつても大切に扱ってくださいます。彼がわたしたちを扱われたように、他人を扱わなければなりません。親や教師は、救い主が同じ立場におられたならば、こうなさると思われれることをしなければなりません。

（『安息日学校へのあかし』英文、一一九〜一二二ページ）

訓練と秩序の必要

安息日学校には訓練と秩序がなければなりません。学校に来る子どもたちはその特権を尊び、学校の規則を守るように要求されなければなりません。

（『安息日学校へのあかし』英文、七、八ページ）

もし信仰によつてキリストが教師の心に住んでおられるなら、罪は見るに忍びない、いやなものになります。自分に委ねられた生徒を愛し、親切にやさしくする一方、忠実なしもべとして組の規律を守り、秩序を保たなければならぬと感じるでしょう。真理を心に抱いていれば、救い主の愛がことばや行いにあらわれます。神のことばは、彼にとって死んだ文字ではありません。ただ口先だけでなく、心からの奉仕をするのです。

（『安息日学校へのあかし』英文、二五〜二六ページ）

自制を保て

組の子どもたちが意地悪で、がんで、悪に傾き、がまんのできないようなことがあっても、それでも彼らの心は良い収穫をもたらす天の種をまくことができる畑です。もし教師が神の霊に満たされていないならば、失望し、自制を失い、短気なことばや激しい叱責によって感化力を失い、失敗してしまいます。

〔安息日学校へのあかし〕英文、四四ページ

けん責、非難、小言は無用

生徒が騒いだり、いたずらをしたるとき、けん責、非難、小言を言っても何の役にも立ちません。あなたは神と共に忍耐強く働く者であるこということを覚え、あなたの働きに全天は関心を持つていること、そして神の働きは何であつても苦勞と心勞が伴うことを覚えなければなりません。「雄々しく、強くなければなりません。」恥を忍び、十字架の死に耐えられた救い主に、あなたはわたしに何をしたいのですかと尋ねてごらん下さい。神はあなたの働きのために必要な賜物をすべて、あなたに与えてくださいます。キリストの恵みによってあなたは主のために尊い働きをすることができます。神の豊かな資源は、あなたの思いのままです。祈りと信仰によって神の約束をしっかりとつかみ、それをあなたの必要にあてることができません。

愛は服従させる力である

あなたを愛し、あなたのために御自らをお与えになった主のご用に、あなた自らとすべてをささげて

ください。「あなたがたが豊かに実を結び、わたしの弟子となるなら、それによつて、わたしの父は栄光をお受けになる。」(ヨハネによる福音書一五章八節)とイエスは仰せになります。これは教師の働きと同様に安息日学校の働きのことでもあります。永遠の生命の実を結ぶ尊い種をまくのには絶好の機会です。今なら、あなたは生命にいたる生命のかおりとなることができます。深い経験から得た真理を人に分け与えるならば、それは人の心を動かし、その人をイエスに導きます。イエスが引き寄せられ、彼の共労者が彼と一致して働いているとき、人が心を動かされず、神の愛の力に従わないでいることは難しいことに違いありません。

(『安息日学校へのあかし』英文、六九〜七〇ページ)

競争と賞品

一八八四年八月一六日、アイオワ州マーシャルタウンのキャンプグラウンドで、ある安息日の朝、大勢の人が安息日学校に集まりました。まもなく組が分けられました。テントの外の椅子にいた人たちを除いて全員が参加しました。しかしこの人たちはそのままにされたままではありませんでした。教師が指名されて二、三の興味ある組ができました。テントの中も外も活発な話し声が聞こえてきました。学校は秩序よく運営され、わたしにとつてこの学校は本当に興味深いものでした。

わたしは頼まれて、三十分ばかり話し、安息日学校を単なる機会的な定まったものにしてしまわないように警告しました。日曜学校のまねをしたり、賞品を出したりして興味を維持するべきではありません。賞品を出したりすると、競争心やうらみやねたみなどの心を引き起こし、実際には一番忠実で価値のある者が賞品を受けなかつたりします。生徒はどれだけの聖句の暗唱ができて言えるかなど試みてはなりません。これは野心を持った子どもには大変無理をさせ、他の子どもたちを失望させてしまう

からです。

安息日学校ではこのようなことは何一つ試してはなりません。校長も教師も学校に生命と興味をもたらせるよう、できる限りの努力をしてください。みながいエスの教えられたように教えることができたら、何という祝福になるでしょう。彼は雄弁やすばらしい感想を述べたりして、人の注意をひこうとなさいませんでした。彼はかえって単純なことを語り、彼の思想は非常に単純なことで表現されましたが、愛に満ちた熱心さをもって語られました。教える時、できるだけイエスのようにしてください。プログラムは興味深くしてください。教師はよく教課を学び、教課に非常な興味をもっていることを示してください。みことばをつまらなく、表面的に解釈したりしないようにし、提示された主題の核心まで掘りさげて見るようにしましょう。

〔安息日学校へのあかし〕英文、一一〇、一一一ページ

安息日学校と教会の礼拝

ある教会の安息日学校は、E兄弟によって非常にみんなの興味をひき起こしました。それは、若い人々の心を引きつけた一方、ほかの宗教的義務がなおざりにされました。安息日学校が終わると、校長、教師数名、それに多くの生徒が家に帰って休むことがありました。彼らは、今日の努めは終わった、もうこれ以上の義務はないといったように考えます。礼拝の鐘が鳴って、人々が家を出て教会に向かうと、たくさん生徒が家に帰っていくのを目にすることがありました。そして安息日学校の多くの人々は、礼拝がどんなに大切な集会であっても、牧師が重要な聖書の問題を話しても少しも興味を感じませんでした。多くの子どもたちは礼拝に出席しませんが、残っていた子どもたちの中には、語られることばから益を受けなかった人もいました。教会の礼拝を退屈な義務だと感じていたからです。

グループの安息日学校

（『安息日学校へのあかし』英文、七ページ）

安息日を守る人々のグループを多くの場所で起こすことができます。そういうグループはたいい大きくありませんが、それらをおろそかにしたり、個人的な努力と訓練を欠いて死なせたりしてはなりません。その働きを途中でやめるべきではありません。すべてが真理をよく知り、信仰に堅く立ち、働きの各方面に興味を持っているのを見届けてからでなければ他の伝道地に移って行つてはなりません。

……

これは伝道地で証明されたことですが、どんなに説教は上手にできても、働きの部分をおろそかにし、人々の働く方法、集会の持ち方、伝道の働きに参加する方法、人々に上手に接する方法などを教えなければ、その働きは失敗することでしょう。また安息日学校では人々に自分たちの義務を認識させ、その役割を果たせるようにするために、なすべきことがたくさんあります。神は神のために働くように人々を召してください。そして牧師が彼らの努力を導かなければなりません。

（『安息日学校へのあかし』英文、一〇九ページ）

キャンプミーティングの安息日学校

キャンプミーティングにお集まりの兄弟姉妹のみなさん、わたしたちの安息日学校の利益のために、一言申し上げたいと思います。安息日学校は重要な働きの一つですから、成りゆきに任せたり、無計画に運営したりするべきではありません。学校を正しく運営すれば、講壇から真理を伝えて魂を救おうと

する努力に力をそえることになります。こうして、安息日学校の働き人が力を合わせて働けば、多くの良いことが成し遂げられるでしょう。しかし、安息日学校がただ機械のように整然となされるだけでは十分ではありません。実際のな働き人がいなければなりません。教師は神と生きた関係を持った人、自分から進んで勉強しようとする人、時間を惜しまず、熱心に働き、何かを完成しなければ満足しない人でなければなりません。……

キャンプミーティングの安息日学校は、秩序よく、時間正しく、能率的になさなければなりません。そうすればそれぞれの教会の安息日学校に正しい仕方が広がっていくでしょう。ビジネスやそのほかのことが忙しくて、安息日学校への関心をおろそかにして、どうなろうと構わないのだというような感じを与えないようにしなければなりません。

〔安息日学校へのあかし〕英文、一二〜一四ページ

地方の講習会

安息日学校の運営の方法の大部分は、それぞれの教会で教えられなければなりません。そうすると働きはもつと直接的になり、もつと永続的な効果をあげることができます。安息日学校の働きは、教師の助けを必要としません。教師は、人々の霊的な面に十分力を注がねばなりません。教師は、人々にどう働くべきかを教えるのです。自分が主のみもとに行く方法と、人を主に導く方法を教えなければなりません。

〔安息日学校へのあかし〕英文、一一三〜一二四ページ

安息日学校への勧告

1974年4月20日 初版発行（福音社）

2024年6月1日 復刻版発行

著者 エレン・G・ホワイト

発行者 稲田 豊

発行所 セブンスデー・アドベンチスト教団
伝道局 安息日学校部

〒921-8501 神奈川県横浜市旭区上川井町 846

Tel 045-921-1123 Fax 045-921-2319

印刷所 株式会社インダ印刷

*無断転載・複製を禁じます

非売品

Printed in Japan

